

41282

教科書文庫

4
920
52-1932
20600 80170

C Y M

Kodak Gray Scale

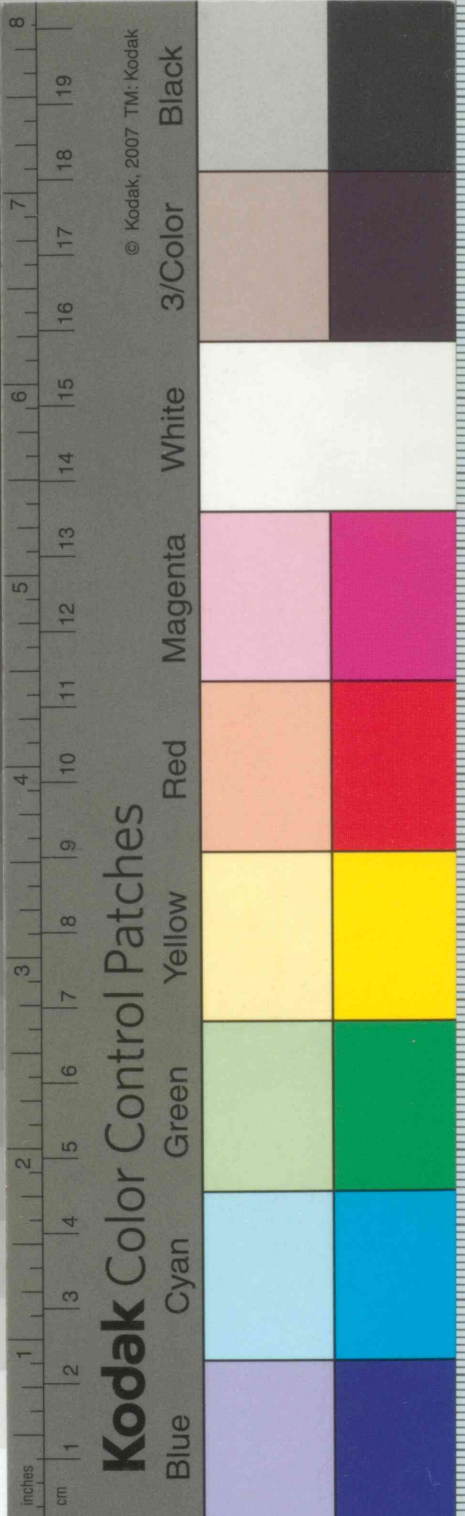
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



教科書文庫
4
920
52-1932
2000080170

現代裁縫教科書

卷三



広島大学図書
2000080170

東京開成館藏版



46
930
BB7.

教科書文庫

4

920

52-1932

2000080170

資料室

文部省檢定済

昭和七年一月二十一日 師範學校・高等女學校裁縫科用

現代 裁縫教科書

卷三

東京女子專門學校講師

吉村千鶴

著

広島大学図書

2000080170



東京開成館



改修版について

大正十一年本書の前身である新制裁縫教科書發行以來既に十有餘年を経たが、裁縫教授の進運とメートル法の施行とに伴ひ、大正十四年新に現代裁縫教科書の書名に改めてその初版が發行されるや、非常の好評を博して全國多數の學校に採用せられたのはまことに著者の光榮とするところである。著者は今もなほ舊の如く衣服調製のことに思を凝らし、常にその改善に専念してゐるが、聊か考へるところがあり、こゝに年來苦心して得た資料を集めて改修に着手したのであるが、幸に實際教授者諸氏から懇篤な忠言を辱うして、この度漸くその稿を完うするに至つたので、深い自信を以て本版を公にすることが出來たのは衷心喜悅に堪へない次第である。

今改修の要項を挙げれば、凡そ次のやうである。

- 一、各卷について、努めて教材の取捨を行ひ説明の仕方を統一して一層教授に適切ならしめたこと。
- 二、新に實物を調製して畫家に寫生させたもの

を寫真版として挿入し、おのづから生徒に興味を促させるやうにしたこと。

三、全篇に互つて教材の順序を變更し、最近に於ける裁縫教授の新傾向に鑑みて必要な事項を加へ、實際的知識を向上させるやうに圖つたこと。

著者はこの改修が裁縫教授上に於ける現代の要求に最もよく適應するものであると信ずる。しかしながら固よりこれを以て満足するものではなく、今後も絶えず研究を積んで、そして改訂の事を怠らず、本書をしていつでも斯界最善の書たらしめようことを期するものである。

なほ本書の改修につき、實際教授者諸氏から寄せられた懇篤な助言については、著者の衷心から感激して措かないところである。茲に謹んで感謝の意を表する。

昭和六年八月

著者しるす

卷三 目次

第一章	帶類	1—20
	(一) 腹合帶	2
	(二) 輕裝帶	13
	(三) 丸帶	18
第二章	本裁女衿羽織	21—42
第三章	本裁男衿羽織	43—49
第四章	本裁女綿入羽織	50—54
第五章	中裁小裁羽織	55—68
	(一) 四つ身衿羽織	55
	(二) 一つ身袖無綿入羽織	61
第六章	廣幅物各種羽織裁ち方	69—71
	羽織普通仕立て上げ寸法表	
	各種長着普通仕立て上げ寸法表	
第七章	絹布毛織單衣の仕立て方・繕ひ方	72—82
	1 絹布單衣	72
	2 毛織單衣	77
第八章	女兒服	83—118
	1 普通服	90
	2 水兵服(女兒用)	97

一	ブラウス	
二	スカート	
3	ジャンパードレス	109
一	シャツブラウス	
二	ジャンパードレス	

附 録	1-18
-----------	------

- (一) エプロン その一
 エプロン その二
 エプロン その三

- (二) 帽子
 その一 嬰兒帽子
 その二 子供帽子
 その三 六つ接帽子
 その四 大黒帽子

現代 裁縫教科書

卷三

第一章 帶 類

一 種 類

- ① 男帶 角帶・兵兒帶・單帶
- ② 女帶 丸帶・腹合帶・單帶・袋帶・輕裝帶
- ③ 子供帶 丸帶・腹合帶・單帶・兵兒帶

二 地 質

- ① 木綿織 綿・縹・珍・綿博多・小倉更紗・紙布など
- ② 絹織 羽二重・縮緬・縹子・博多・縹・珍・厚板・絲錦・綴織^{つち}
綴子・鹽瀬・琥珀・紹紗など
- ③ 毛織 メリンス
- ④ 麻織 麻友禪
- ⑤ 各種の交織物(人造絹絲を織込んだ布)
- ⑥ 芯地 三河木綿・護謨芯・眞岡木綿など

(一) 腹合帯

腹合帯はまた晝夜帯・鯨帯ともいひ、両側別々の帯地を縫ひ合せたもので略装用である。年齢と季節とによつて色合柄・地質及び両側の取り合せに注意して適當なものを選ばねばならぬ。

一 仕立て上げ寸法

幅 28 cm - 32 cm (體格・年齢によつて加減する)

丈 320 cm - 400 cm 位 382.5

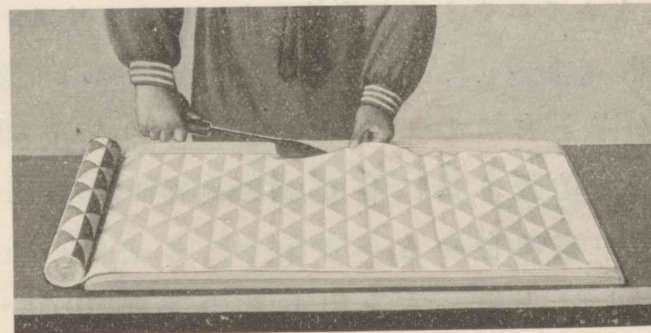
二 仕立て方

仕立て方順序

- | | | |
|-------|------|------------|
| ① 地直し | ② 假綴 | ③ 標附 |
| ④ 縦横縫 | ⑤ 芯拵 | ⑥ 芯附 |
| ⑦ 返し方 | ⑧ 躰 | ⑨ 仕上げ及び疊み方 |
| ⑩ 飾糸 | | |

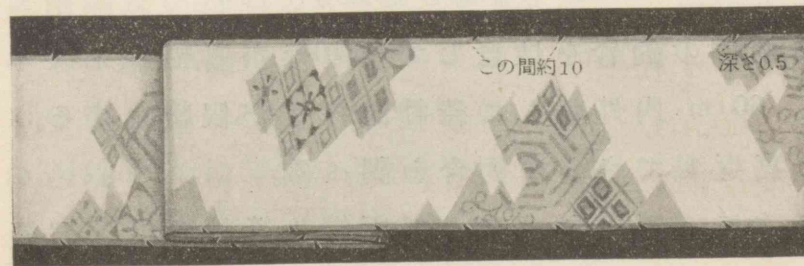
① 地直し 帯の仕立て方には特に大切であるから、最も注意して丁寧に地直しをせねばならぬ。

1. 布の裏から烙鋺で兩耳を伸ばす。即ち布の中央より耳をやや弛み加減にするのである。



耳の伸ばし方

2. 烙鋺のみで伸び切れなときには兩耳に深さ 0.5 cm 位斜めに下圖のやうに切り込を入れることもある。切り込の距離は耳のつれ加減によつて 10 cm - 20 cm 位にする。



切り込の入れ方

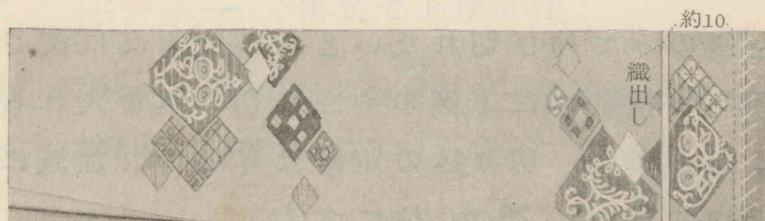
3. 帯側の中央と兩耳の伸びの釣合を調べて後裏から全體に火熨斗又はアイロンをかけて卷棒に巻いておく。

注意 金・銀糸の入つたものはあまり強い火氣のもの

をあてぬやうまた磨擦しないやうにする。

② 假綴

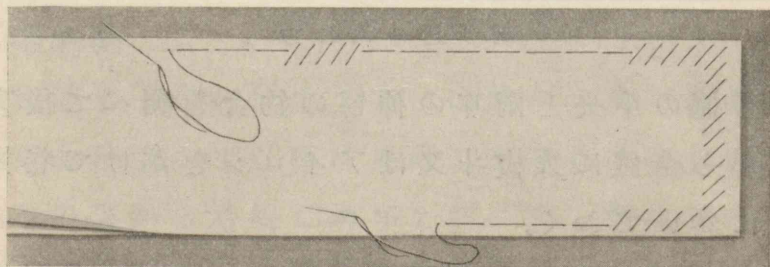
- 1.掛の方を右にして地質の堅いものを下に軟いものを稍張り目にして(同じ地質は幅の狭い方を上に)中表に合せる。
- 2.織出しは上の一本を出し、その下を 10cm 内外出す様に合せて綴ぢる。



帯端の定め方

丈を定める

- 3.両側の釣合を注意して取りながら幅の中央に 60cm 内外離して待針を打つか、假綴をする。裏返してさらに釣合を調べる。
- 4.次に下圖の如く耳及び両端の縫線の外に假綴



假綴の仕方

両方カクテク方カヨイ

糸ハ

ソベ糸

ガスノシヤ糸カヨイ

帯が長カクテカクテ端カキノ所、縫入ム

をする。

【注意】 この際布を巻いてはならぬ。屏風疊みがよい。

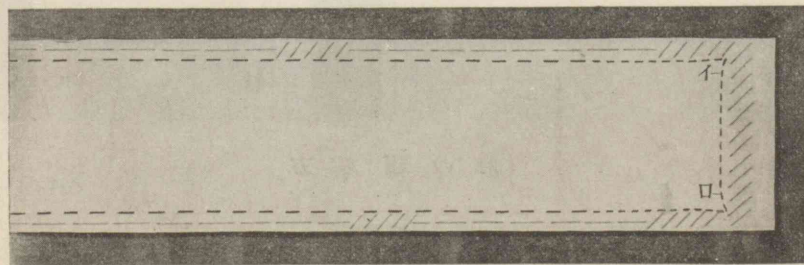
③ 標附

- 1.上り幅に 0.4cm の被を加へ軽く通し篋をする。
- 2.帯丈の中央より手の方へよつて帯幅に 3cm 加へて明の絲標をする。
- 3.織出しの関係を見て縫代を定め、通し篋をする。

【注意】 地質の薄いものは篋をさけて、チョークまたは絲標を用ひねばならぬ。

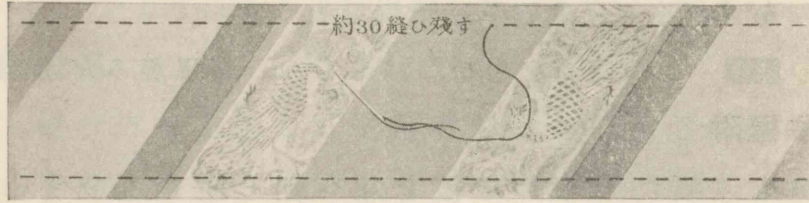
④ 縦横縫

- 1.両側を先に両端を次に縫ふ。
- 2.両端及び掛の方 50cm 手の方 20cm 位は半返しに縫ひ、他は 10cm おき位に一針返して、中央の明きだけ残して細針に縫ふ。
- 3.両端の角は下圖(イ)(ロ)のやう少し斜に縫つておく。



両端を斜に縫ふ

外ノ方ハ半返しスル 1m クライ
手ノ方ハ 50 クライ

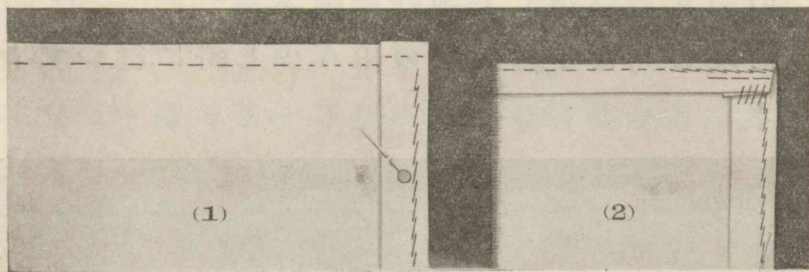


中央の明け方

4.縫ひ終つたら全體に平烙鋺をかけ、兩端は0.4cm幅の方0.2cm弱の被で地厚の方へ折を付ける。地質により軽く烙鋺をかけてもよい。

5.角の綴ぢ方

- (1)まづ兩端を折つて中央を待針で止めておく。
- (2)縫込が帯側より弛まぬやう加減して半返しで(1)圖のやうに綴ぢ付ける。
- (3)幅の縫込の端を(2)圖のやうに綴ぢ付ける。



角の綴ぢ方

5 芯拵

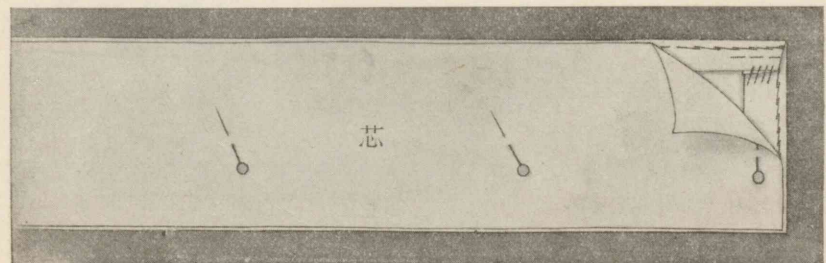
1.まづ芯布に充分霧を吹き、湿りの全體に廻つた

ときアイロンをかけて平にする。

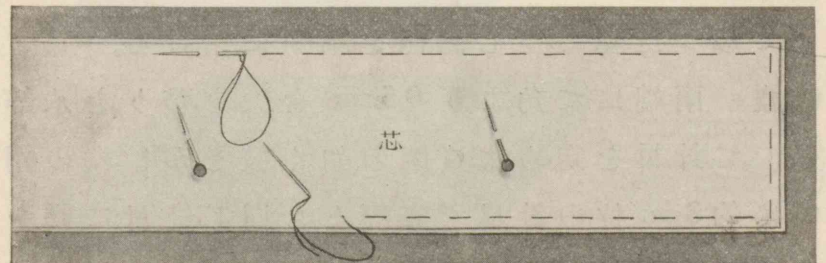
2.上り帯幅に裁ち切る。

6 芯附

- 1 芯の一方に真綿を薄く引き、火熨斗をかけて綿を抑へる。
- 2 帯側を平に置き、芯は真綿を引いた方を帯側にあて、やや弛めにしておき、帯側と芯との釣合をとり、幅の中央に待針を打つ。(弛みは40cmに約0.2cmの割)打ち終つたならば帯側の方からも釣合を調べてみる。



芯の釣合



芯の綴ぢ方

芯ヨリ 兩假ラ5mm 廣ク 厚方ハ 2.5mm 表布ヲ 縫ハス

3. 2 cm位の針目で、端から 0.4 cm 位入ったところを表に針目の出ぬやう注意して、兩方を交互に綴ち付ける。明のところは芯を綴ちない。

4. 芯の一方に眞綿を引いて火熨斗をかける。

注意 透織・護謨芯には眞綿を引かなくてよい。

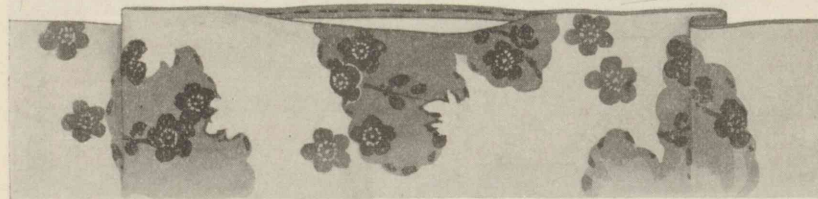
⑦ 返し方

手ノテへ近イテへ



1. まづ角を表の方に押出しておく。帯幅30cmより多い
2. 兩端から中央まで巻いて縫ひ残しのところから靜かに表に引き出し、角を整へ兩端を引張つて芯を引き合せ、幅・丈・縫目を正す。

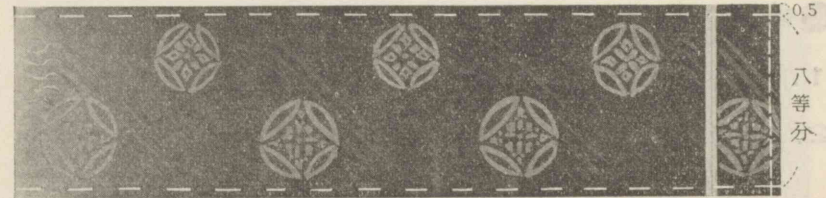
糸ランク時三旗カスロランデハイレナイ



縫ひ残した所へ芯を綴ちる

3. 縫ひ残しは芯布を一方の縫代に綴ちつけ、残してあつた糸で、少し内側を細かに紵ける。

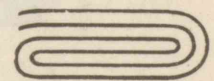
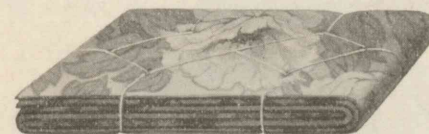
⑧ 躰 兩端にて角より 0.5 cm を除き、残りを八等分して針目を定め、次頁圖の如く躰をかけ、縦の兩側は約 3 cm 位の針目で表裏とも同じ針目に躰をかける。



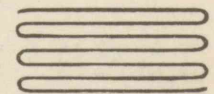
躰のかけ方

⑨ 仕上げ及び疊み方

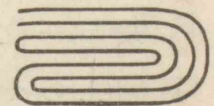
1. 紙または布の上から縫目角のところをよく引張つて火熨斗をかけ壓を置いて仕上げをする。(角に引糸を付け、其の糸を引いてかけるとよい)
2. 帶丈に應じて下圖のやうに、六つ、七つ、或は八つに折り疊む。



六つ折



七つ折

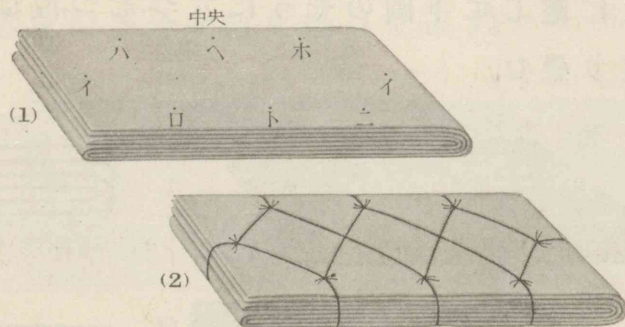


八つ折

疊み方

⑩ 飾絲

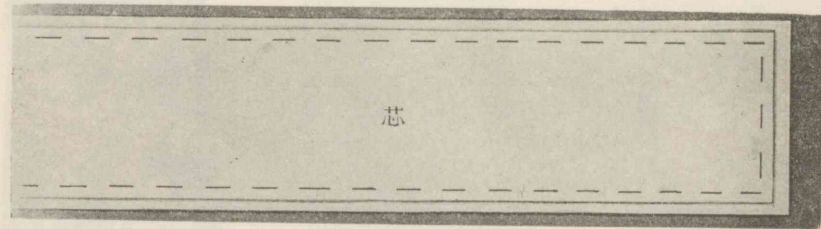
1. 両端より約3cm入つて(イ)(イ)を標す。(下圖(1))
2. (イ)(イ)の間を六等分しその一部分の長さに3cm加へただけに、両端より2cm内のところに(ロ)(ハ)(ニ)(ホ)を標し(ヘ)(ト)は畳み上りの帯丈の $\frac{1}{2}$ のところに標す。
3. この六箇所を紅白の絲にて細結びをして堅く留め、約4cmに絲の先を切り、この結び目にかけて下圖(2)の如く飾絲をする。



飾絲のかけ方

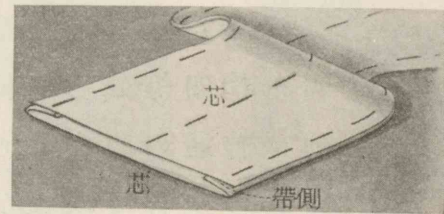
芯拵へ別法(二枚芯の作り方)

1. 二枚芯を入れるときは一枚を上り帯幅に合わせて裁ち、一枚は帯幅の縫代だけ少なく裁つて次頁圖(上)のやうに綴ぢ合せておき、縫代だけ少ない方を帯にあてて綴ぢ付ける。



二枚芯の綴ぢ方

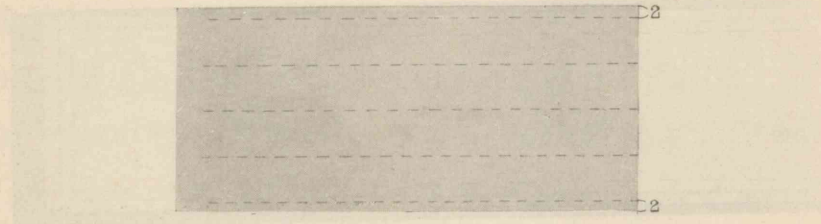
2. 絹・紗など透織の場合には二枚芯を同じ幅に裁ち中央を綴ぢておき、右圖のやうに芯と芯との間に縫込を挟んで綴ぢてゆく。



二枚芯の入れ方(透織の場合)

絞り帯の取扱ひ方

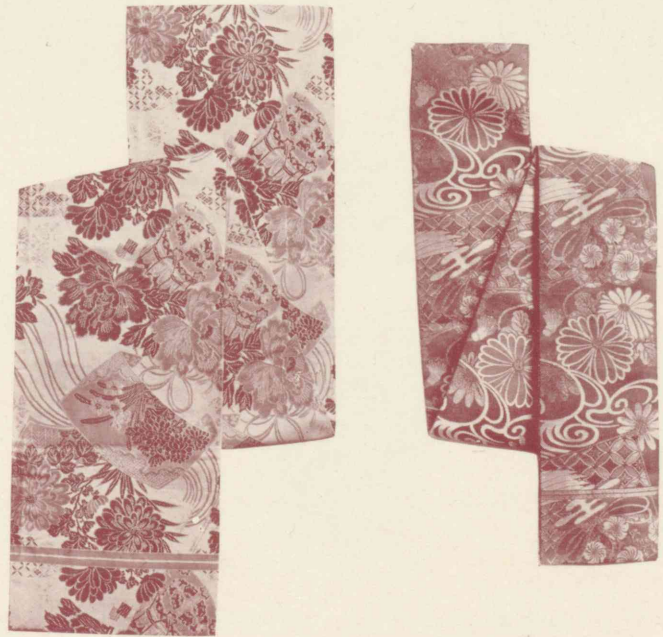
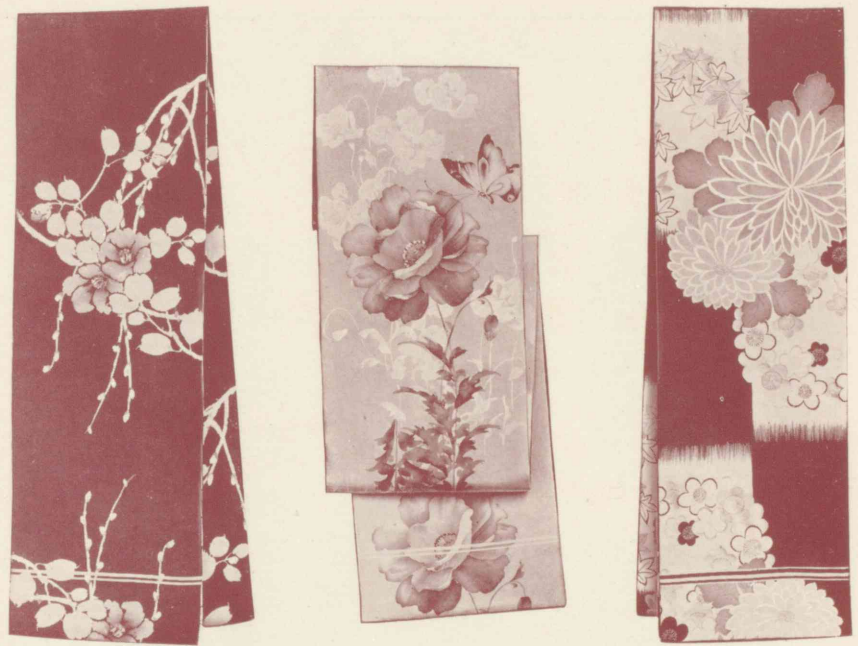
1. 軽くアイロンをかけて地直しをする。
2. 幅を出来上りに縫代を加へた寸法に伸ばし、絞りをつぶさぬやう注意せねばならぬ。
3. 裏打ち 絞りは締めてゐる中に、絞りが伸びて縁にふき出すことがあるので、それを防ぐために、あらかじめ軟い布を裏にあてて裏打をしてから仕立てるのである。裏打ちの仕方は次頁圖のやうにまづ端から2cm入つたところを、共色の羽二重絲で2cm位の針目で表にごく細か



裏打ちの仕方

く出し目立たぬやう忍び綴ぢをする。その次は帯幅を約四等分して綴ぢを入れておく。

4.その他は普通の腹合帯と同様にしてよろしい。但し絞りの工合で取扱ひも自ら異つて来るが要するに絞りの妙味を失はないやうに仕立てて、締め崩れの出ないやうにすることが大切である。

改現裁
(三)
三—三
1

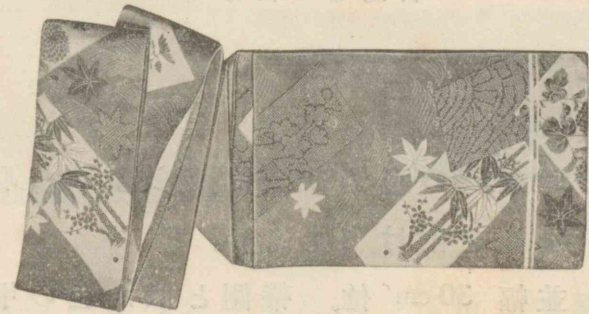
帯の種類 (腹合帯・丸帯・子供帯)



帯の結び方

(二) 軽装帯

これは名古屋帯または文化帯などいつて軽便で且つ用布が経済であるから、日常用には殊に適當した帯である。近來この種の軽装帯がいろいろ工夫されてゐる。



広1所1m外
狭1所2m外
引込タマ
経済的

出来上り

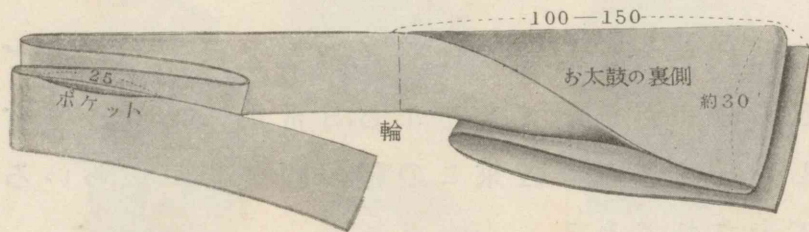
一 地質

帯側・芯布ともに腹合帯と同様である。

二 仕立て上げ寸法

- ① 幅 お太鼓… 30 cm 内外 胴廻し… 15 cm 広いところの $\frac{1}{2}$ (或は布幅いっぱい)
- ② 丈 320 cm - 340 cm (お太鼓は普通一重で結ぶ)

折り返し分… 100 cm - 150 cm



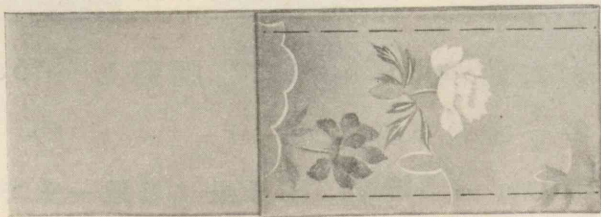
折返しの仕方

三 用 布

- ① 垂れ お太鼓の裏側は表側から續けて取つてもよいが別布を付けてもよい。
- ② 隠し 並幅 30 cm 位。帯側と似た色の甲斐絹または絹など滑りのよい地質を選ぶ。
- ③ 芯布 幅…上り幅 丈…帯丈よりやや長く。

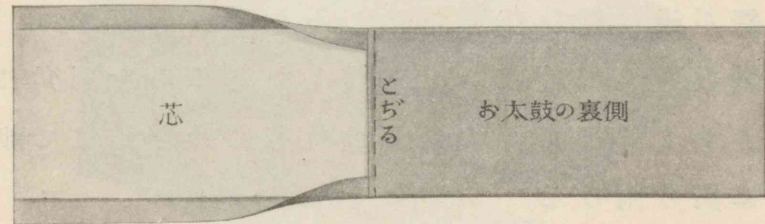
四 仕立て方

- ① 地直し 腹合帯に同じ。



假綴ちの仕方

- ② お太鼓の裏側になる方を折り返す。但し模様端織の工合によつては、折り返さず切つて用ひる。腹合帯と同じに釣合をとり、躰をかけて幅標を付け、標通り縫ひ折を付ける。
- ③ 芯布を折り返した方即ち内側に入れて綴ち付け、表に返し裏側の端を芯に綴ち付けておく。



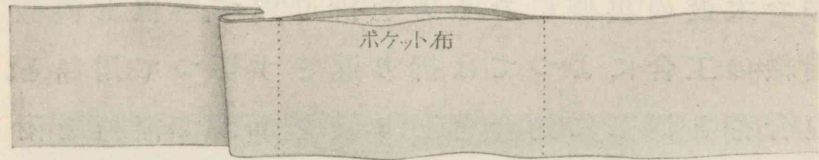
芯の入れ方

- ④ 半幅のところを中表に二つに折つて綴ち合せ幅標を付け、ポケットの口と終りから半幅の寸法だけ残して縫ひ折を返す。

注意 胴廻し帯幅の狭いときはお太鼓のところから約 30 cm の間で幅を広げる。

- ⑤ ポケット附

1. 中表に折り、帯幅より 0.4 cm 詰めて幅標をする。
2. ポケット明のところを上り幅標から 0.4 cm 控へて、両端 1 cm づつ残して縫ひ付け、被なしてポケット布の方に折を返す。



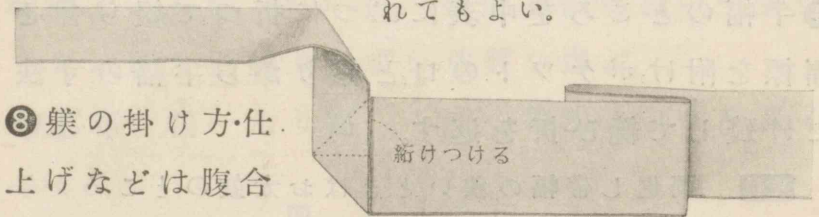
ポケット附の仕方

3.丈の両端を縫ふ。

6 芯布の幅を二つ折とし、縫代を挟み釣合を取つて綴ぢ付け、縫ひ残したところから引き返す。

7 縫ひ残しの仕末 縫ひ残したところを三角に折り、お太鼓の裏側の端に重ね、芯に針をかけて細かに紵け付ける。

注意 場合により離しておいて、帯揚の芯をここに入れてもよい。



紵け付け方

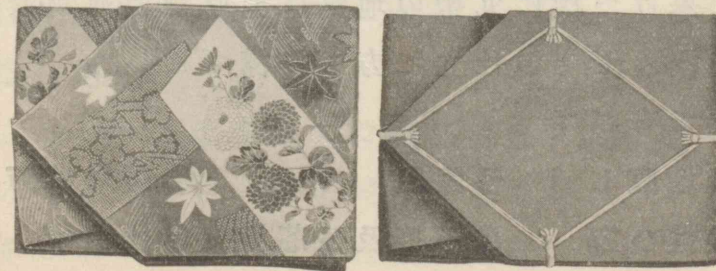
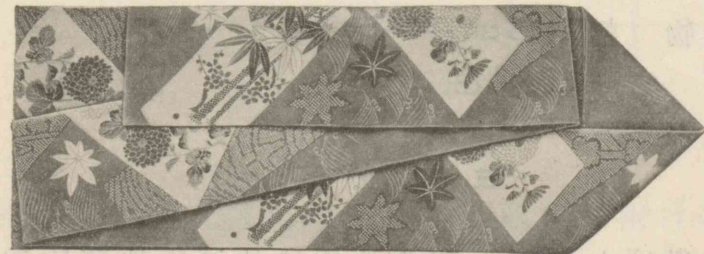
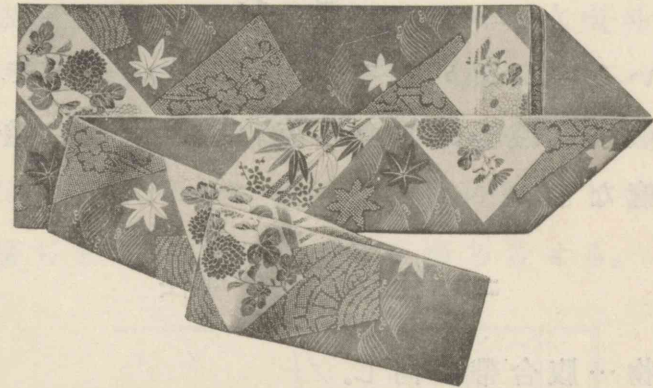
8 躰の掛け方・仕上げなどは腹合帯に準じてする。

9 畳み方

1. まづお太鼓の裏側を上にして平におき、半幅の止りを三角に開いて次頁圖の如く折り畳む。
2. 前に出るところを折らないやうに半幅のところを畳み上下を折つておく。(後丈を二つに折つ

てもよい。)

10 飾絲 腹合帯のときよりも簡単でよい。先づ畳み上げた帯の四邊の中央を、二重の絲で下圖のやうにかたく留め、次にこれに絲をかけて菱形に飾つておく。



輕装帯の畳み方順序

飾絲のかけ方

(三) 丸 帯

丸帯とは両側とも同じものを引返して仕立てたものである。

一 地 質

いろいろの種類があるが大てい次のやうである。
 縹・珍・緞子・唐織・綴錦・博多・厚板・絲錦・鹽瀬・羽二重・縹子
 縹・紗・麻など。

二 仕立て上げ寸法

大人物…腹合帯に同じ。

子供物 幅…18 cm - 26 cm

丈…290 cm - 380 cm

三 仕立て方

前に挙げた様に丸帯の地質は、地厚物・地薄物・透織など様々で、その仕立て方も一様でない。

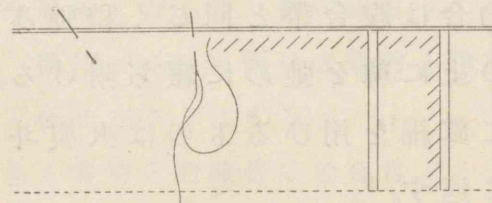
仕立て方順序

- | | | |
|-------|----------|--------|
| ① 地直し | ② 假綴 | ③ 標付け方 |
| ④ 縫ひ方 | ⑤ 芯拵及び芯綴 | ⑥ 仕上げ |

① 地直し 地厚物は充分地直しに注意して、場合によつては耳の部分を取り除くこともある。裏より全體に火熨斗をあて、布目を正しながら地直しをする。耳のあまり厚くないものは腹合帯と同様にすればよい。

金絲・銀絲の織り込んである部分には、火熨斗をかけぬやうに注意しなければならぬ。

② 假綴 幅を中表に二つに折り、布のねぢれぬやう布目を正す。まづ手の方と掛の織出しを揃へて假綴ちをなし、次に幅の方を綴ち合せる。



假綴ちの仕方

③ 標付け方 丈・幅の標をかるく通篋で付ける。幅は上り幅に 0.2 cm 加へておく。

④ 縫ひ方

1. 左右 40 cm 位半返しに縫ひ、他はごく細針に角のところは腹合帯と同様にして縫ふ。また地質によつては全部半返しにすることもある。

この場合幅は上り幅に標しておく。

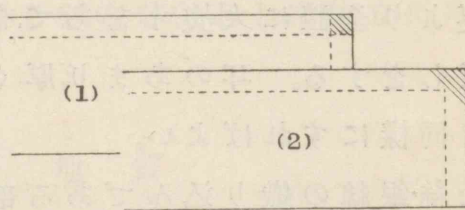
2. 十分に平烙鋺を當てて折を付け、角を綴ぢる。

角のあまり厚く

なるときは、右圖

のやうに裁ち切

つておく。



⑤ 芯拵及び芯綴

角を裁ち切る

1. 芯布を腹合帯のときと同様に充分地直しをして、帯幅より布の厚みの分として約 0.2 cm 控へて兩耳を裁ち切る。

2. 芯の釣合は腹合帯と同じく稍弛み加減にして縫込の上に糸を弛めに綴ぢ付ける。三方だけ綴ぢて真綿を用ひるものは火熨斗でよく抑へて表に返す。

3. 帯角をよく整へ、全體を引いて帯側と芯との落附を正して縫目をよく揃へて躰をかけ、次に縫ひ残しの部分を細かに拵ける。

⑥ 仕上げ 布または紙の上から火熨斗を全體に當てて仕上げをなし、壓をおき、腹合帯と同じく折り疊んで飾綴をする。

第二章 本裁女衿羽織

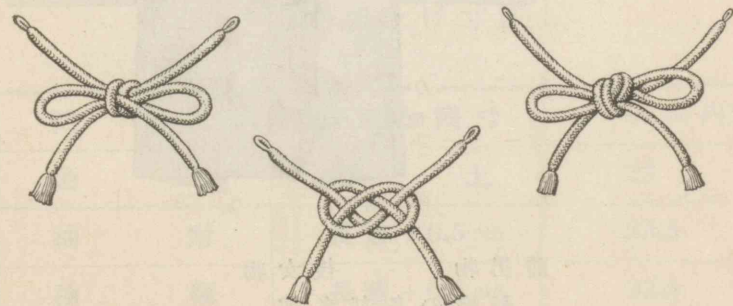
羽織は長着の上に着する短衣で寒暖を調節するに大變便利なものである。單衿・綿入に仕立て本裁・中裁・小裁などの別がある。

近來は女子も殆んど衿羽織を用ひるやうになつた。同時に單羽織も多く用ひられて來た。但し女子の羽織は略装であるが、男子の紋附羽織袴は一般に和装時の禮装となつてゐる。

羽織については次の注意が必要である。

注意 (1) 衿肩廻りの工合。衿の折返り。身丈・紐附の位置。振(袖丈の釣合) 衿など着物と體格とにしつくりと合せるやうにする。

(2) 紐の色も着物と羽織・帯の色合などと、よく調和するやうに選ぶ。紐は常に正しく結んでおく。



羽織紐の結び方

一 各部の名稱



前男物 後女物
羽織の各部名稱

二 地質

① 表地

- 綿布 木綿・瓦斯・紡績など
- 絹布 銘仙・紬・羽二重・縮緬・錦紗・御召・大島紬など
- 毛布 メリンス

② 裏地

- 綿布 瓦斯・甲斐絹・更紗・新モスなど
- 絹布 甲斐絹・羽二重・八つ橋・綸子・平絹など
- 毛布 メリンス

注意 (1)表地は長着との色の調和・縞柄の取り合せなどを考へ、また季節に適したものを選ぶ。

(2)裏地は表に合せて地質・色の配合・模様柄などの調和を計り、すべりのよいものを選ぶ。裏によつて表が引き立つて見えるものである。

三 仕立て上げ寸法

袖丈	長着と同寸	60 cm 内外
袖口	同上	23
袖附	長着 + 0.5 cm	25.5
袖幅	長着 + 0.5 cm	32.5

身丈	着丈 $\times \frac{3}{4} + 4\text{cm}$	100 内外
身八つ口	長着 - 2 cm	10
衿肩明	長着 + 0.5 cm	9.5
後幅	長着と同寸	28.5
前幅		18 内外
前下り		3-4
紐附(肩より)		34 内外
襠幅		上 1.5 下 6.5
衿幅		6.5
衿	長着と同寸	62.5
繰越		1-2

注意 (1)羽織の寸法は長着の寸法に準じて定めるが、各人の體格・着方・地質・流行などによつて多少の加減すべきである。

(2)若い人で抜衣紋に着るとき、肩の肉の厚い人などは繰越を多くする。

(3)多く抜く人は前下りを多く、襠にも下りを附けた方がよろしい。

(4)縮緬類は袖丈及び衿を長着より却つてつめる。

四 裁ち方

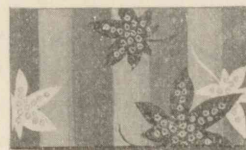
① 布數

1. 表

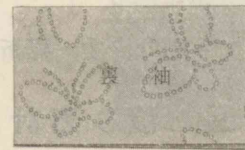
袖 二枚(左右) 身頃 二枚(左右)
衿 一枚 襠 二枚(左右)
袖口 二枚(左右) 紐附 二枚(左右)

2. 裏

裏袖 二枚(左右) 胴裏 二枚(左右)
裏襠 二枚(左右)



袖



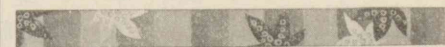
衿



身頃



胴裏



襠



袖口



紐附



衿

羽織の布數

② 用布の總丈

表 並幅一反 裏 並幅半反

③ 裁ち切り寸法

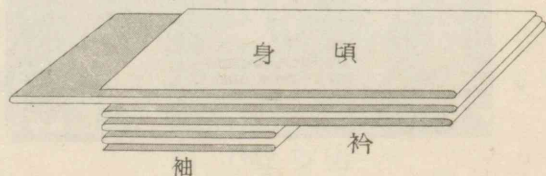
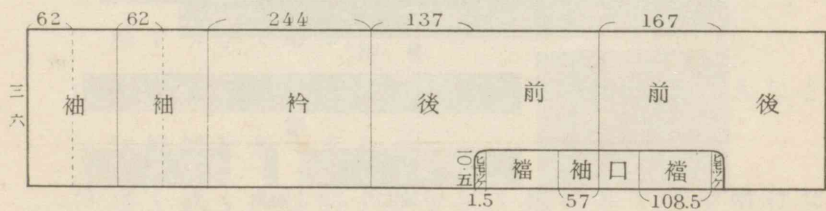
- 袖丈 = 上り袖丈 + 縫代 (2 cm)
- 身丈 = 前後の差は 20 cm より 40 cm 位
- 1. 表 { 衿丈 = (上り身丈 + 22 cm) × 2
- 袖口布丈 = (袖口明 + 5 cm) × 2
- 紐附 = 1.5 cm

- 2. 裏 { 袖丈 = 表と同じ
- 胴裏丈 = 上り身丈 - 裾折り返し + 胴接代

④ 裁ち方圖と積り方計算

1. 表

用布 並幅 11 m



上り
 $(\text{身丈} + 22\text{cm}) \times 2 = \text{衿丈}$
 100 244

上り
 $22\text{cm} = \frac{\text{衿肩明}}{9} + \frac{\text{肩の線越}}{1} \times 2 + \frac{\text{前下り}}{4} + \frac{\text{衿先縫代}}{6}$

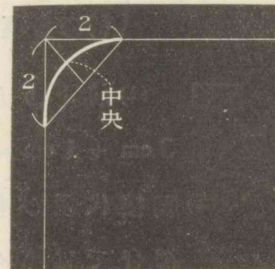
+ 弛み (片身頃分)
 1

$\{ \text{總丈} - (\text{袖丈} \times 4 + \text{衿丈} + \text{前後の差} \times 2) \} \div 4 = \text{後丈}$
 1100 62 244 30 137

後丈 + 前後の差 = 前丈
 137 30 167

$(\text{袖丈} + \text{後丈}) \times 4 + \text{衿丈}$
 62 137 244

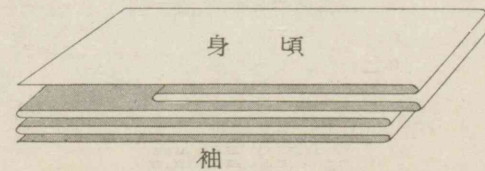
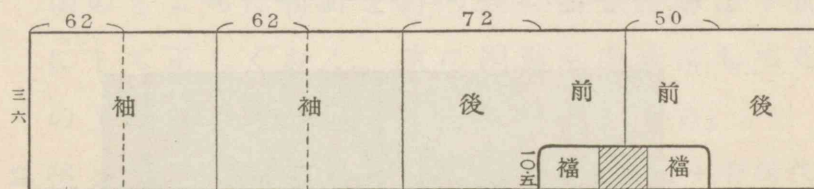
+ 前後の差 × 2 = 總丈
 30 1100



衿肩の線り方

2. 裏

用布 並幅 492 cm



注意 胴裏の前落しは表用布と同時に裁つ。

$$\begin{array}{ccccccc} \text{上り袖丈} \times 8 & + & \text{上り身丈} \times 10 & + & \text{總縫代} & - & \text{表總丈} = \text{裏總丈} \\ 60 & & 100 & & 112 & & 1100 & & 492 \end{array}$$

總縫代	}	袖下縫代	$2\text{cm} \times 8 = 16\text{cm}$	計112cm
		胴接代	$2\text{cm} \times 8 = 16\text{cm}$	
		前下り及び縫代	$5\text{cm} \times 4 = 20\text{cm}$	
		三つ衿縫代	$1\text{cm} \times 8 = 8\text{cm}$	
		繰越	$1\text{cm} \times 8 = 8\text{cm}$	
		衿の身頃より長い分	$22\text{cm} \times 2 = 44\text{cm}$	

注意 (1) 前下りが上り 3cm のときは縫代を加へて

$3\text{cm} + 1\text{cm} = 4\text{cm}$, $4\text{cm} \times 4 = 16\text{cm}$ となる。

(2) 胴接代及び袖下縫代は最少限度であるから、布の都合ではもう少し長く取っておく方がよい。

(3) 後胴接代を多くして縫ひ込んでおく方が仕立て替の際便利である。7cm - 16cm 位



上り身丈の定め方

[問] 羽織に前後の差を付けて裁つは何故か。

五 仕立て方

仕立て方順序

- | | | |
|-------------|--------|---------|
| ① 袖 | ② 身頃標附 | ③ 胴接 |
| ④ 脊縫 | ⑤ 前下り | ⑥ 襦標附 |
| ⑦ 襦附及び身八つ口縫 | ⑧ 袖附 | |
| ⑨ 衿附の假綴 | ⑩ 紐附 | ⑪ 衿の折り方 |
| ⑫ 衿附衿紵 | ⑬ 仕上げ | |

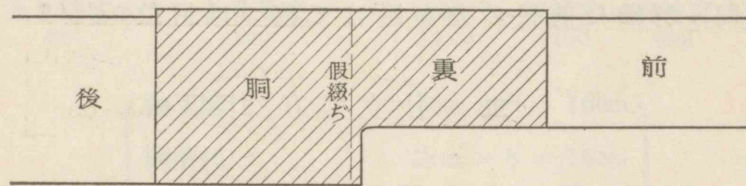
① 袖 標付け方・縫ひ方など本裁女衿に同じ。

② 身頃標附

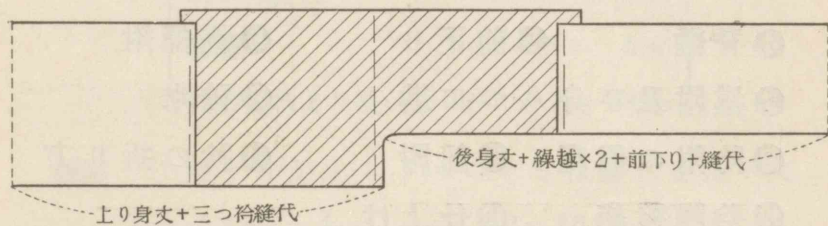
1. 布のおき方 中表に布を二枚重ねて揃へ、衿肩明のところに待針を打ち、後身頃を左、脊を手前にして正しくおく。次に胴裏を中表にしてその上に重ね、衿肩のところに假綴をする。

2. 後身丈 衿肩明から計つて (上り身丈 + 脊縫代) 後丈を標し、残りを折り返し、胴裏の上に重ねて待針で止める。(或は假綴)

3. 前身丈 後身丈 + 繰越 $\times 2$ + 前下り + 縫代(被共)を計つて前身丈の標をなし、そこより折り返して待針で止める。(或は假綴)



布のおき方



後丈・前丈の定め方

4. 前後胴接の標を表布の端に並縫代に標す。繰越を付けて後身頃を前身頃の上に折り返す。

5. 後身頃標附

標附順序

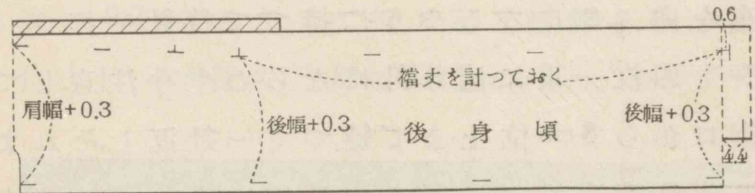
- ① 山(肩・裾)
- ② 袖附
- ③ 身八つ口
- ④ 脊縫
- ⑤ 後幅
- ⑥ 肩幅
- ⑦ 袖附斜
- ⑧ 前脇丈
- ⑨ 前下り

前下り

イ. 衿附の方 $4.4\text{cm} = \frac{\text{前下り}}{4} + \frac{\text{見返り}}{0.2} + \frac{\text{被}}{0.2}$

ロ. 前脇の方 $0.6\text{cm} = \frac{\text{見返り}}{0.2} + \frac{\text{被}}{0.2} + \frac{\text{後裾附より長い分}}{0.2}$

裾附丈 = 身八つ口より後裾口まで

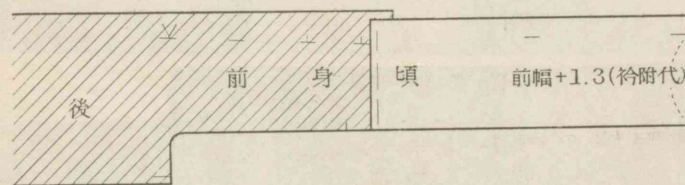


後身頃を左に開いて前身頃を出す。

6. 前身頃標附

標附順序

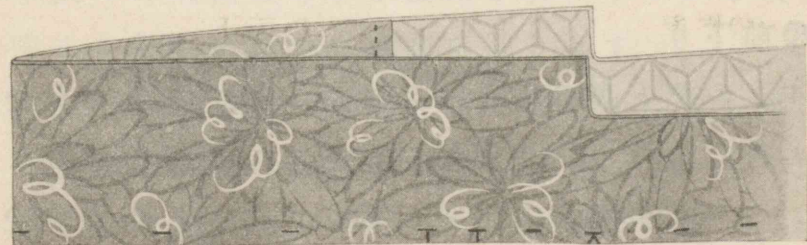
- ① 前幅
- ② 袖附斜
- ③ 紐附



③ 胴接 前後の胴接をなしいづれも浅い被で胴裏の方に折っておく。

④ 脊縫

1. 胴接の縫目をよく合せ衿肩を右に表を手前, 胴

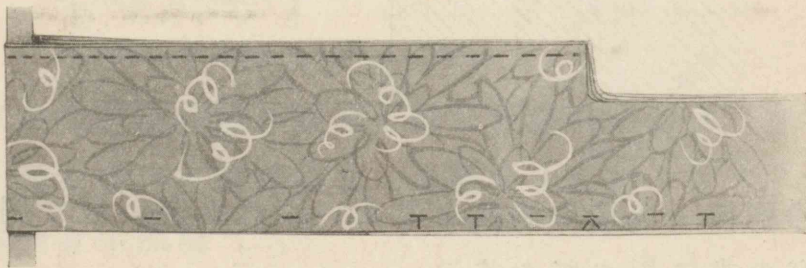


布の合せ方

裏を向ふ側になるやうに持つて待針を打つ。

2. 脊を四枚一束に流れ針にならぬやう注意して裾口から8cm位上まで縫つて一針返し、それより先は表裏別々に縫ふ。地質によつて軟い布または真綿を入れて脊の縫目に綴ぢ付けて表に返す。

$$\text{裾布} \begin{cases} \text{丈} = (\text{後幅} + \text{襠幅}) \times 2 \\ \text{幅} = 7 \text{ cm 位} \end{cases}$$



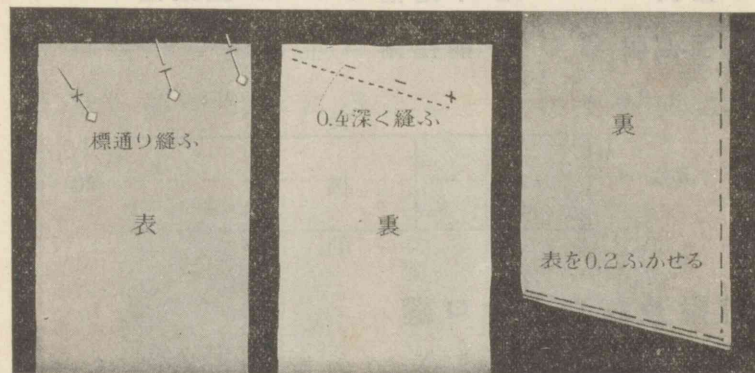
裾布の入れ方

注意 地質によつては脊を四つ縫にしないで表裏別々に縫つて綴ぢ合せる。

⑤ 前下り

1. 表の標と裏の前下りの標の0.4cm内とを合せ待針を打ち、斜の運針に注意して前幅標のところまで、裏を少し弛目に縫ひ、0.2cmの被で裏の方へ折り返す。

2. 表を0.2cmふかせて折り返し、折山より0.6cm位上に2cm位の針目で躰をかける。



前下りの縫ひ方

注意 前下りの裏を0.4cm(返り0.2cm)内を縫ふ代りに別法として胴接をするとき、裏を標から0.4cm入つたところを合せて縫ひ、前下りは表裏とも標通りに縫つてもよろしい。

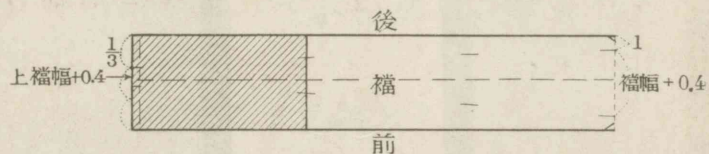
⑥ 襠標附

1. 中表に二枚重ね耳を手前裾を右にしておき、襠附丈+1cmに計つて襠布を折り返す。
2. 襠裏の上部を揃へ、襠裏を下に表を上重ね接代を標し、直ちに接ぎ合す。
3. 襠丈を後脇丈より0.2cmつめ、上の縫代を中表に折り込み中央を待針(或は假綴)にて止めおき、

上下の襠幅・襠附の標をする。

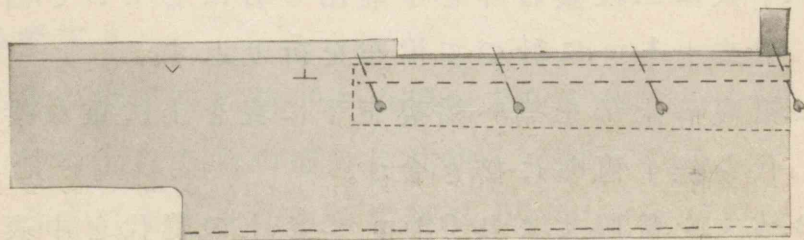
標附順序

- ① 裾山 ② 下襠幅 ③ 上襠幅
- ④ 後襠附 ⑤ 前襠附



⑦ 襠附及び身八つ口縫

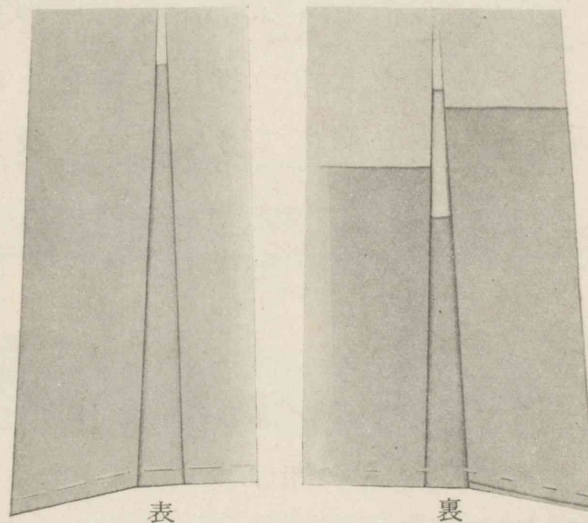
1. まづ後襠の裾山と身頃の裾山とを合せて待針を打ち、(身頃で襠布を包むやうになる。)次に襠布をやや張目にして全體の釣合を取つて下圖の如く待針を打つ。裾口8cmほどは表裏を別々に縫ひ、それより上は四つ縫にし、襠上では二三針返してよく留め、その糸で身八つ口まで續けて縫ふ。裾布を脇の縫込に綴ぢ附け、平烙鋏をか



襠附待針の打ち方

けて表に返す。

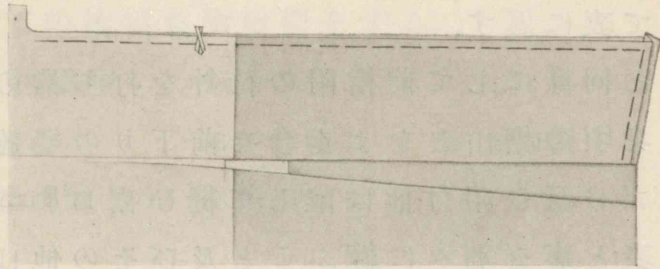
2. 後と同様にして前襠附の待針を打ち、襠の裾山と身頃の裾山とをよく合せ、前下りの縫込は一針だけ縫ひ附け、他は離して縫ひ裾口8cmほどは表と裏を別々に縫ふこと及びその他は後と同じにする。



襠附の出来上り

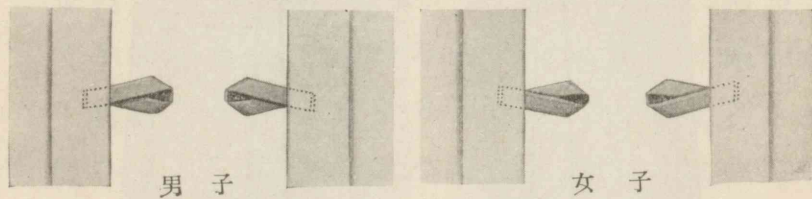
⑧ 袖附 本裁女袴と同様に、まづ四つ留をして表裏の袖を別々に付ける。

⑨ 衿附の假綴 裾口の上15cm位の間で裏の身頃を弛めにして表裏の身頃を合せ、端を躡で綴ぢる。前下りのところでは特に裏幅を弛めにする。



衿附の假縫

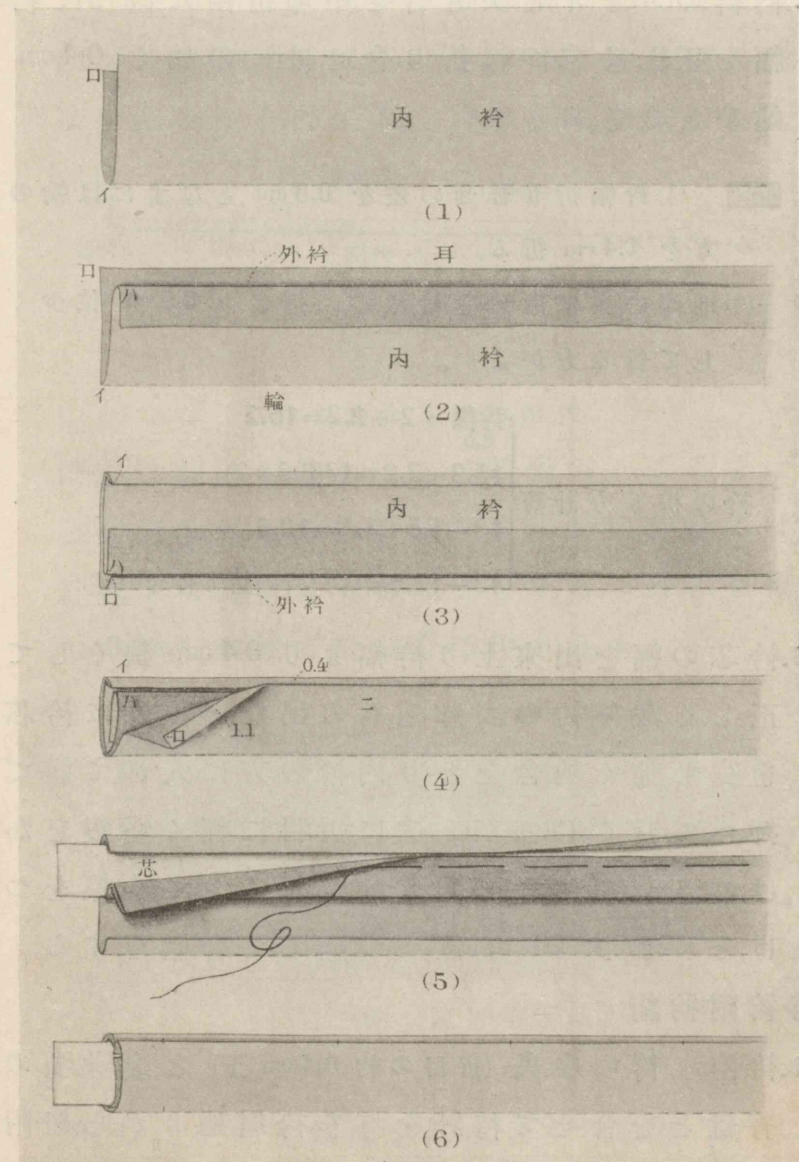
⑩ 紐附 幅約 1.5cm 長さ 4cm 内外の紐附布二枚を幅 0.4cm になるやう四つ折にし、輪を上、下圖の如く折り重ね、端を綴ちて身頃に堅く綴ち付けておく。



紐附の付け方

⑪ 衿の折り方

1. 表を出し(イ)(ロ)を仕立て上り衿幅(6.5cm)の二倍に 2.2cm を加へて折る。(1)
2. 内衿(イ)(ハ)を 2.2cm 減いて上り衿幅の二倍に折る。(2)
3. 輪の方を 1.5cm 折り、耳の方を 1.1cm 即ち(ロ)(ハ)を突き合せに折る。(3)



衿の折り方

4.内衿の(ハ)を(イ)と突き合せ,中の折山に倣つて衿幅を正しく二つに折り合せば(=)の如く 0.4 cm 違ひとなる。(4)

注意 (1)衿幅折り合せの差を 0.3 cm とすには輪の方を 1.4 cm 折る。
 (2)地厚の布は内衿を衿幅の二倍より 0.5 cm 位少くして折る方がよい。

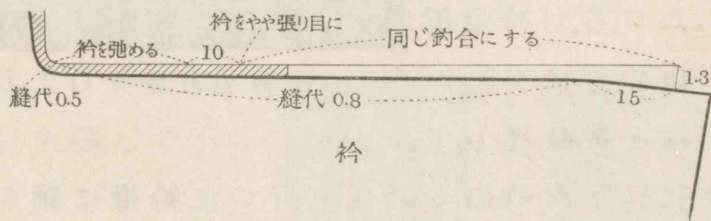
$$\left. \begin{aligned} & \text{衿幅} \times 2 + 2.2 = 15.2 \\ & 15.2 - 2.2 = 13 (6.5 \times 2) \\ & 13 - 1.5 + 1.1 = 12.6 \\ & 13 - 12.6 = 0.4 \text{ (衿の折り合せの差)} \end{aligned} \right\} \text{衿の折り方計算}$$

5.衿芯の幅を出来上り衿幅より 0.4 cm 狭くして正しく裁ち,衿の表に弛みの出ない程度に衿芯を少し弛く釣合をとり,内衿の方に入れて躡で押へておく。(第五圖) 次に折目に軽く烙鋺をかけ,前身頃の丈より 1 cm ほど長くして丈標をつけ,それより 20 cm 位づつ隔てて合標をする。

⑫ 衿附・衿紵

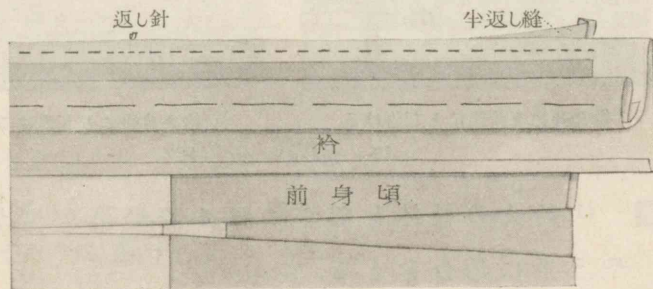
1.衿附 衿の中央(折目の約 0.4 cm 上)と裏身頃の脊縫とを合せて待針を打ち,衿肩廻りから紐附の上 10 cm 位までは衿を弛めに,紐附から上約

10 cm の間は衿をやや張り目にし,それより下は同じ釣合にして待針を打つ。前身頃の縫代は下圖のやうにする。衿を見て衿先から 8 cm



衿の釣合及び衿附代

ほどは特に半返しにして紐附のところでは二三針返して止め,衿肩廻りは小針に,脊縫では一針返して縫ひ,よく糸こきをする。衿芯を整へて 0.4 cm の被で衿の方に折り返す。

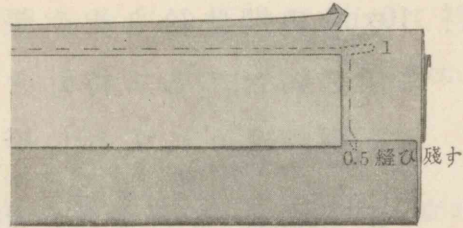


衿の付け方

2.衿先

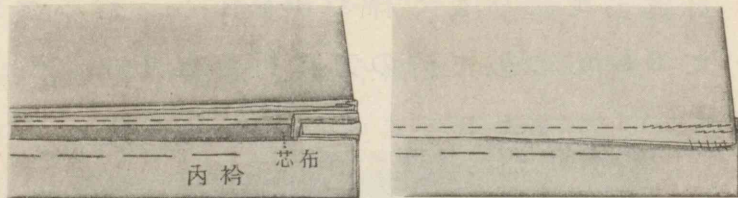
(1)紵代を折り外衿を衿山より中表に二つに折り,表衿二枚をやや弛めにし内衿を芯と共に

開き衿丈標の約
1cm 先を三枚一
緒に縫ひ烙鋺を
かける。衿の折
山の方は 0.5cm
ほど縫ひ残しておく。



衿先の縫方

(2)次に下圖の如く縫代を折つて衿附に綴ぢつけ、尙衿附縫代の山と内衿の端とを突合せにして綴ぢて表に返す。衿肩廻り紐附のところも衿先と同様に綴ぢ合せておく。



衿先縫込を衿附にとぢ附ける

衿を身頃にとぢ附ける

衿先の仕末

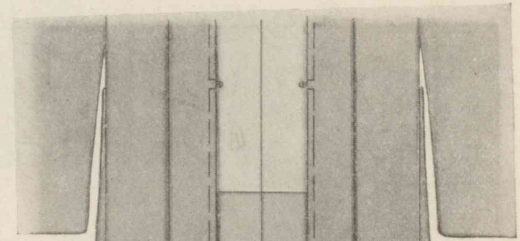
- 注意** (1)衿先の縫込を綴ぢつける際、縫込がゆがまぬやう平に釣合をとる。
(2)衿先が厚くなる時は、芯布を衿先の縫ひ込だけ裁ち落す。
(3)衿先の布目のゆがまぬやうにする。

3.衿紵 衿先を表に返して整へ、合標を合せて待

針を打ち、衿先は返し紵に、衿肩廻はごく小針にして衿紵をする。

4.飾躰 表4cm 裏2cm 位の針目で紐附の上7cm位まで下圖の如く衿の飾躰をかける。

⑬仕上げ 衿袖の躰を残して不用の躰を取り、地質によつてアイロンをかけ、正しく疊む。このとき三つ衿のところは幅を二つに折つて、軽くアイロンをかける。

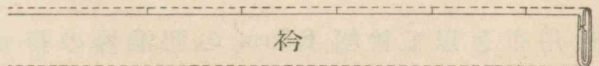
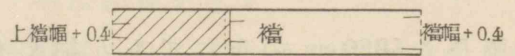
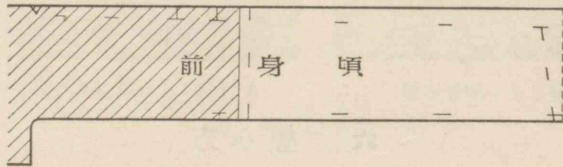
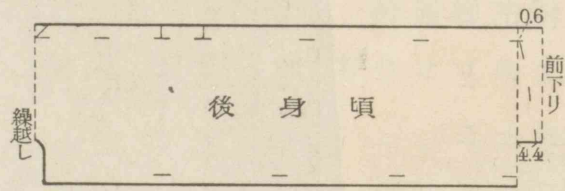
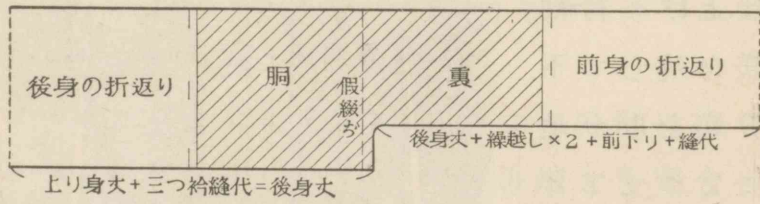
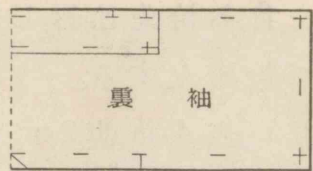
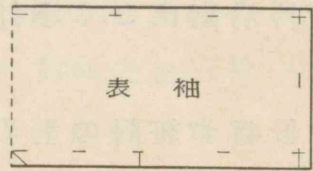


衿躰のかけ方

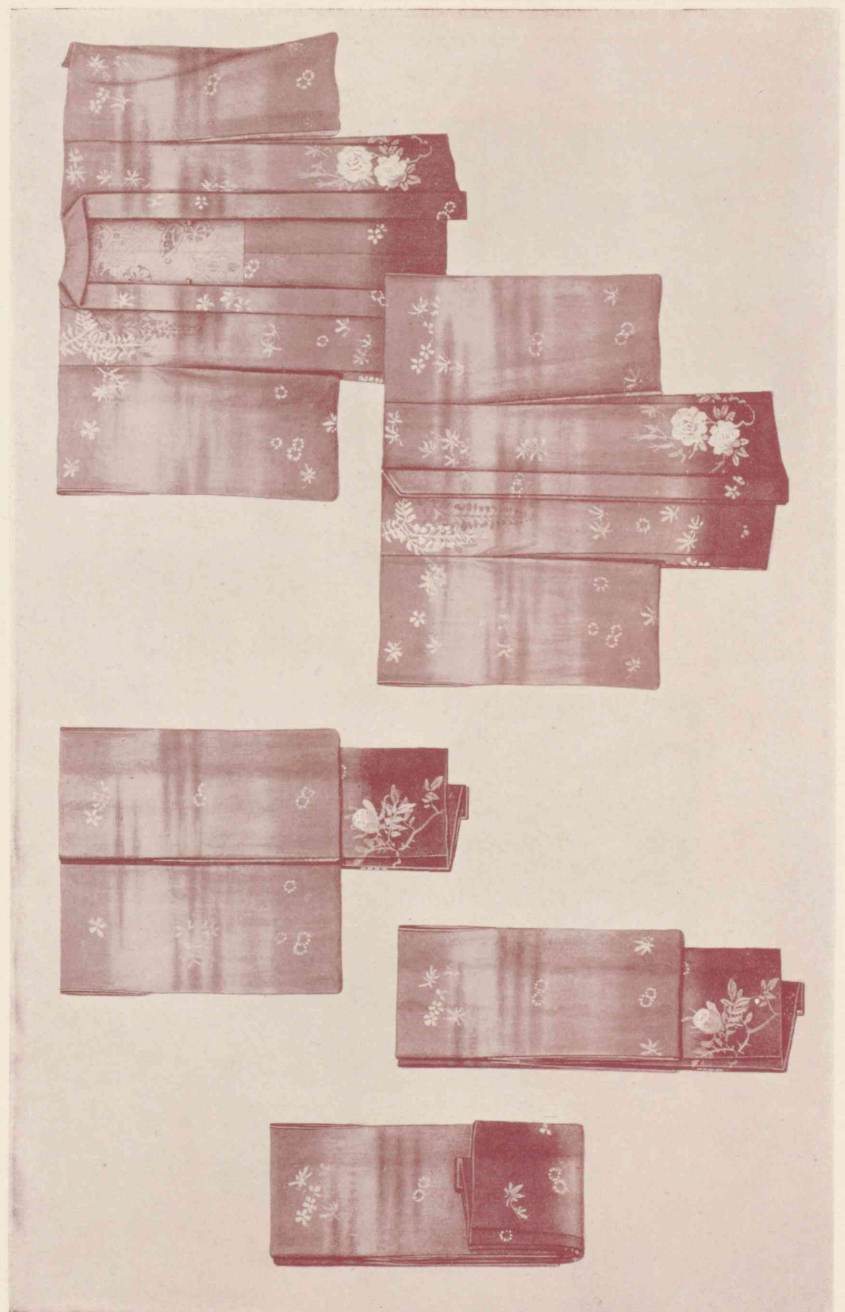
六 疊み方

圖のやうに疊む

- [問] (1)並幅長さ1060cmの布にて上り袖丈60cm上り身丈95cmの女衿羽織の表を裁て。(前後の差27cm)
(2)運針用布を以て衿幅6.5cmの羽織衿の折り方を實習せよ。

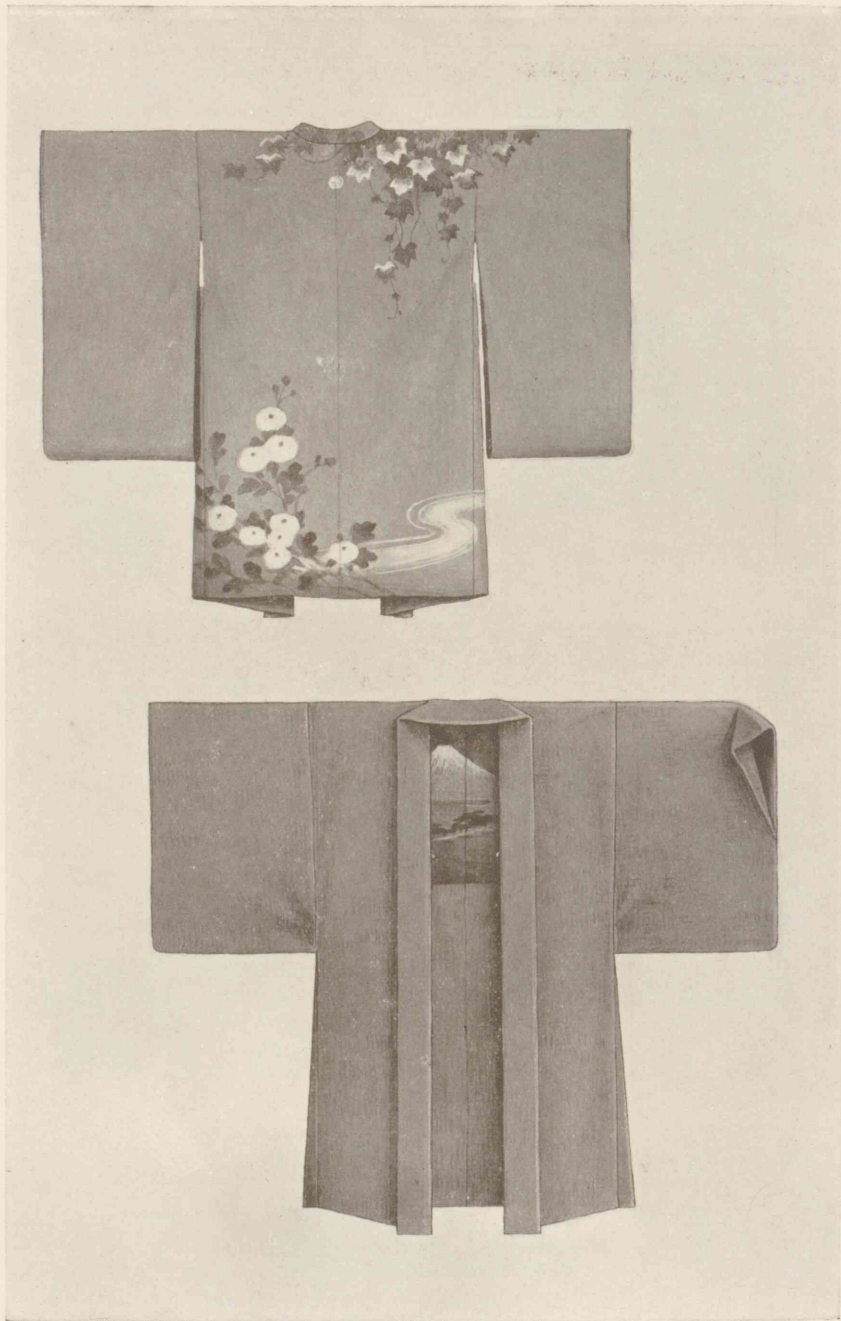


本裁女袴羽織の標付け方総合圖



改現裁 (三) 四三三二

女羽織の疊み方



本裁女衿羽織・男衿羽織の仕立て上り

第三章 本裁男衿羽織

一 仕立て上げ寸法

袖丈	長着 + 1 cm	54 cm
袖口	長着と同寸	28
袖附	袖丈全部	54
袖幅	長着 + 0.4 cm	34.4
身丈	着丈 $\times \frac{3}{4}$ 内外	105 内外
衿肩明	長着 + 0.5 cm 内外	9 - 9.5
後幅	長着と同寸	30
前幅		19
前下り		4
紐附(肩より)		34
襷幅		7
衿幅		7
衿	長着と同寸	66
線越		0.5

二 裁ち方

裁ち方・積り方は本裁女衿羽織と寸法の異なるの

みですべて同様である。

三 仕立て方

仕立て方順序は女衿羽織と同様である。

① 袖

- 1.袖標附 袖附を全部とし、男衿に準じて附ける。
- 2.袖縫ひ方 裏袖に袖口布をかけ、表裏の口明を縫ひ合せ、袖口元に四つ留をなしその糸で袖口下より袖下へ袖附の方から8cmほど手前まで四つ縫にし、それより先は表裏別々に縫ふ。袂丸を整へ表に返し躰をなす。

② 身頃及び襦標附

1.身頃標附

(1) 布のおき方は女物と同様にする。

前丈は $\frac{\text{繰越}}{0.5 \times 2} + \frac{\text{前下り}}{4} + \frac{\text{返り縫代}}{1} = 6 \text{ cm}$ だけ後丈より

長くする。

(2) 後身頃標附

標附順序

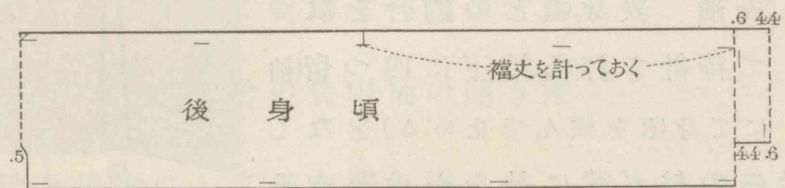
- | | | |
|----------|------|-------|
| ① 山(肩・裾) | ② 袖附 | ③ 脊縫 |
| ④ 後幅 | ⑤ 肩幅 | ⑥ 袖附斜 |

⑦ 前脇丈 ⑧ 前下り

前下り

衿附の方 $4.4 \text{ cm} = \frac{\text{前下り}}{4} + \frac{\text{見返り}}{0.2} + \frac{\text{被}}{0.2}$

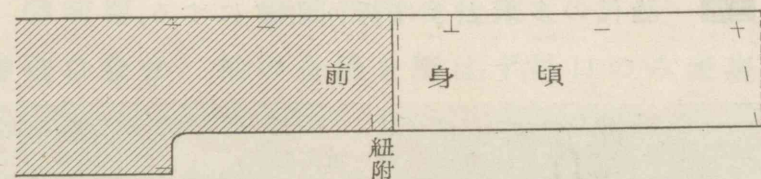
前脇の方 $0.6 \text{ cm} = \frac{\text{見返り}}{0.2} + \frac{\text{被}}{0.2} + \frac{\text{後襦附より長い分}}{0.2}$



(3) 前身頃標附

標附順序

① 前幅 ② 袖附斜 ③ 紐附



- 2.襦標附 標附順序及び仕方は女物と同様であるが、襦の上部は突き合せになるので被代の二倍の幅だけでよい。



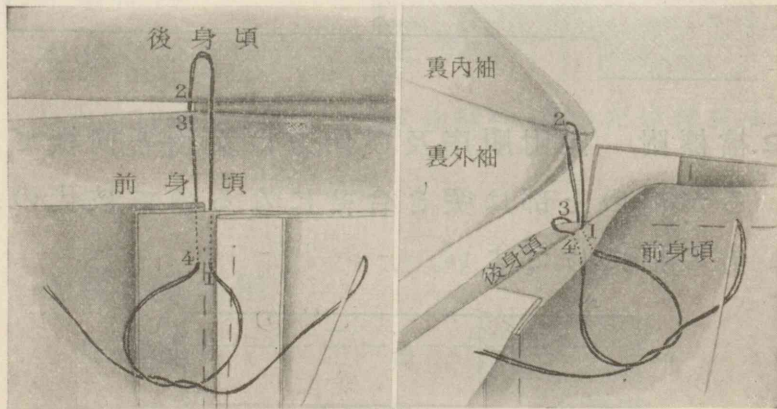
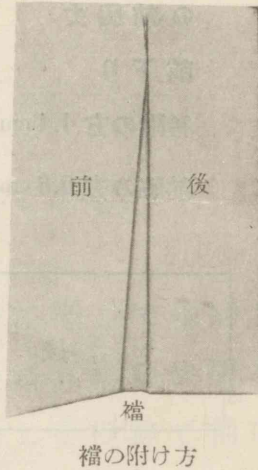
- ③ 胴接前下り・脊縫 すべて女物と同じにする。

④ 襦附 女物と同様に前後の襦を付ける。上部は被で突き合せとなるやうに注意する。

⑤ 袖附

1. 表袖 表身頃との釣合を取つて待針を打ち、袖下に四つ留(袖にて身頃を挟んで止める)をなし、その糸で襦に糸をかけぬやう袖を付ける。留め元から6cm位の間は身頃の幅際より0.2cm先を斜に折つて返し縫にする。

注意 縫代の多いときは折り付けにする。



表袖の留め方(左袖)

裏袖の留め方

2. 裏袖 身頃で袖を挟んで四つ留をなし、留元は袖の方を斜に折つて袖を付け、身頃の方に折を返す。襦に針をかけぬことは表袖に同じ。

⑥ 衿附及び仕上げ 衿の折り方・付け方・紝け方・仕上げなどすべて女物と同様にする。

衿の袋附・袖の開き附

衿を袋附にして袖を開き附にするときは、次の仕立て方順序による。

- ① 袖口合せ ② 胴接脊縫前下り後襦
③ 衿附衿肩紝 ④ 袖附 ⑤ 袖口下袖下縫
⑥ 前襦 ⑦ 裏袖附の仕末

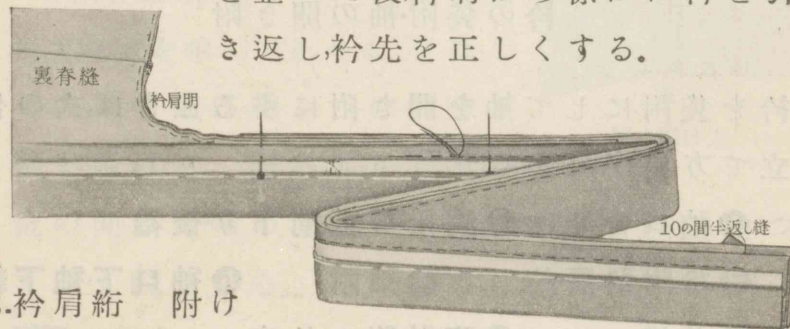
① 袖口合せ 袖の全體を縫はず、袖口のみ表裏合せて縫つておく。

② 胴接脊縫前下り後襦 前述と同様にする。

③ 衿附衿肩紝

1. 衿附 本裁女羽織に準じて衿附を綴じ、男の紐附を拵へ、前身頃の裏に堅く綴じ付ける。前身頃の裏に衿の表を合せて衿の釣合を正して待針を打ち、前身頃を三つ或は四つに折り、その中に疊み込み、表裏衿の合標あひじるしをよく合せて待針を

打ちかへる。衿先より付け始めて、衿山より約
12cm 手前まで、衿の折角より輪の方即ち表衿
は 0.3cm 上を、一枚(裏衿)の方は約 0.1cm 上を一
針貫に四つ縫とする。それより上は衿の輪の
方と身頃とのみを縫ひ合す。衿先を縫ひ、衿芯
を整へて後、衿肩から徐々に衿を引
き返し、衿先を正しくする。



2. 衿肩筋 付け

残したところ

袋附の仕方

を整へて衿の縫代を小針に筋け付けて、躰をか
けておく。

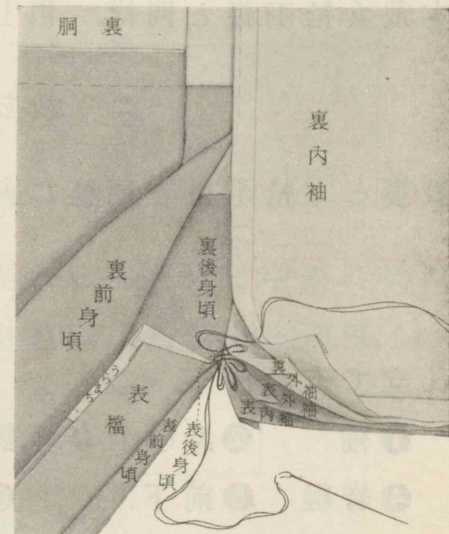
④ 袖附 表袖と表身頃との山標を合せ、始終を約
0.2cm 縫ひ残して袖附をなし、袖の方に折り、次に
裏袖と裏身頃との山標を合せ、袖を折つて身頃の
縫込を開き、前袖附の標より約 15cm のところま
で縫ひ身頃の方へ折り、引き返して表を出す。

⑤ 袖口下及び袖下縫 衿の如く袖口に四つ留を
なし、袖口下より袂まで縫ひ次頁圖のやうに袖附

を七つ留になし、袖下を(留より 0.3cm 内を)四つ縫に
して袂の丸みを整へる。

七つ留 次の順序に七枚を抄つて結ぶ。(下圖)

1. 裏内袖
2. 裏後身頃
3. 裏外袖
4. 表後身頃
5. 表外袖
6. 表内袖
7. 表前身頃



袖附七つ留の仕方

⑥ 前襷 前身頃で前
襷を挟み、裾を揃へて
標を合せ一針貫に四
つ縫とし、平烙鋺をか
けて表に引き返す。

⑦ 裏袖附の仕末 裏袖附の縫ひ残しを筋ける。

[問] (1)幅 76cm 長さ 540cm の布にて上り袖丈 53cm
上り身丈 105cm として本裁男羽織を裁て。但し前
後の差を 30cm とする。

(2)同上並幅にて裏用布の裁ち方・積り方を問ふ。

(3)袋附の仕方の要點を問ふ。

第四章 本裁女綿入羽織

一 地質及び仕立て上げ寸法

本裁女衿羽織と同様。但し袖口衿... 0.4 cm

二 裁ち方

表裏とも衿羽織と同様に裁つ。

三 仕立て方

仕立て方順序

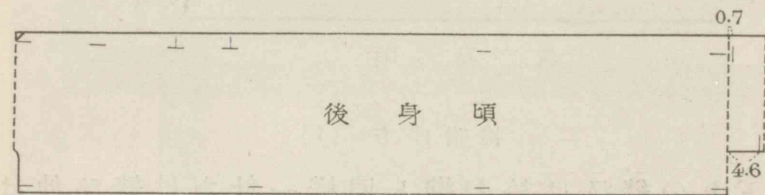
- ①袖 ②身頃及び襦袢標附 ③胴接
 ④脊縫 ⑤前下り ⑥襦袢
 ⑦身八つ口縫 ⑧袖附及び袖口含め綿
 ⑨綿入れ ⑩裾衿附の假綴 ⑪袖口紵
 ⑫衿附衿紵 ⑬縦綴 ⑭仕上げ
- ①袖 標附は本裁女綿入に準じ縫ひ方も同様に表裏の袖を縫ひ、振八つを縫ひ合せて含綿をなし表に返して躰をかける。
- ②身頃及び襦袢標附
 1.身頃標附 大體衿羽織と同様である。見返り

を 0.4 cm にするだけが違ふ。

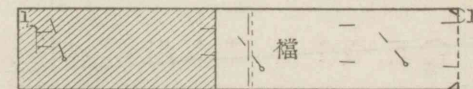
前下り

衿附の方 4.6 cm = 前下り_{4.} + 見返り_{0.4} + 被_{0.2}

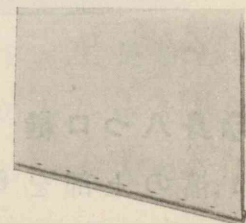
前脇の方 0.7 cm = 見返り_{0.4} + 被_{0.2} + 後襦袢附より長い分_{0.1}



- 2.襦袢標附 まづ襦袢の表裏を接ぎ合せ、中表に折つて標を付ける。標附順序は衿羽織と同様。



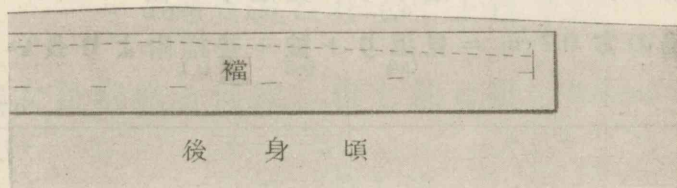
- ③胴接 衿羽織と同様である。
 ④脊縫 胴接の縫目をよく合せ表裏別々に脊を縫ふ。
 ⑤前下り 表は標通りに裏は 0.8 cm 内を前幅標まで縫ひ、裏の方に折つて隠躰をかける。



左前下りの縫ひ方

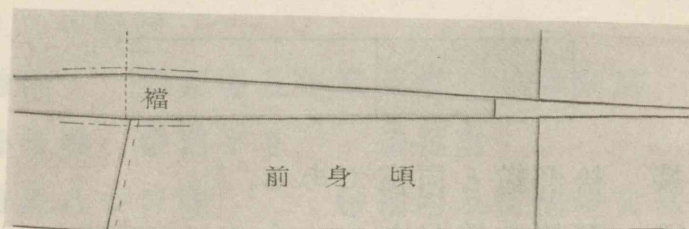
- 注意** 前下りは表裏標通りに縫ひ、胴接のとき前胴裏を 0.8 cm 縫込んでよい。この場合は胴接・脊縫の前に前下りを縫ふべきである。

⑥ 襠附 後前の襠を表裏別々に下圖の如く縫ひ、身頃の方に折りを返す。



襠付け方 (1)

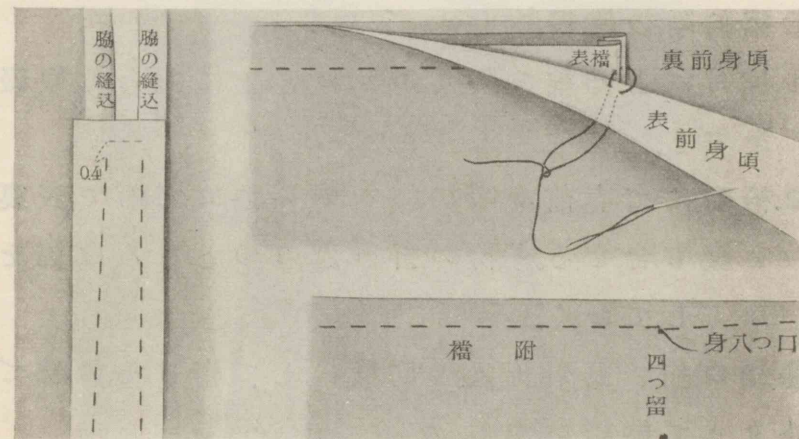
前下りの縫込は袷羽織と同様一針だけ縫ひ、他は縫ひ付けずに離しておく。付け終つたならば下圖の如く裾の方に襠をかける。



襠の付け方 (2)

⑦ 身八つ口縫

1. 襠の上部を 0.4 cm の被になる様縫ひ合せ裏に綿を含ませる。
2. 襠上の両端に次頁圖の如く四つ留をなし、その糸で身八つ口を縫ひ綿を含め、表に返して襠をかける。



四つ留の仕方

⑧ 袖附及び袖口含め綿 表裏の袖を付け、袖口に綿を含め、長着と同じ針數で綴ぢる。

⑨ 綿入れ

1. 表後身頃の裏を出し、前身頃は中に折り込んでおく。
2. 眞綿の引き方・綿の入れ方などすべて長着と同様である。裾綿は幅 5 cm のものを一枚入れる。眞綿のみ入れるときは綿をふわりと入れて、火熨斗で軽く抑へ落ちつかせて後表に返す。
3. 肩から手を入れて引き返し、前身頃を出して左右の袖及び前身に綿を入れ、表に返してよく表裏を引き合せる。

⑩ 裾衿附の假綴

1. 裾口によく綿を入れ、2cmほど上にあらく假綴をする。
2. 衿附にて裏前身頃の幅をやゝ弛めにして、表裏を綴ぢ合せる。衿の折り返りのところは綿を薄くしておく。

⑪ 袖口紵 長着綿入と同様にして紵け、その糸で袂丸まで縦綴をする。

⑫ 衿附・衿紵

1. 紐附を折り、衿と同様に身頃に堅く綴ぢ付ける。
2. 衿の折り方・付け方・紵け方などすべて衿羽織と同様である。

⑬ 縦綴 脊及び後襟附に縦綴をする。

⑭ 仕上げ 綿屑・絲屑を取り衿羽織と同様に仕上げをする。



中裁羽織仕立て上り(元祿袖・筒袖)

第五章 中裁・小裁羽織

(一) 四つ身衿羽織

一 地質

表地は長着と同様。裏地は表地に適当なものを選ぶ。

二 仕立て上げ寸法

袖丈	袂袖	長着より0.5cm長く	衿肩明	長着より0.5cm多く
	元祿袖	同上	前下り	2-3
袖附	筒袖	長着より1長く	襦幅	上下 2 5-5.5
	袖幅	長着より0.5多く	衿幅	4.5-5
身丈	袖幅	長着より0.4広く	繰越	0.8
身八つ口	身丈	70-90	紐附(肩より)	25-28
	身八つ口	長着より約2cm少く		

三 裁ち方

① 裁ち切り寸法

袖丈 = 上り袖丈 + 縫代(2cm)

身丈 = 上り身丈 + 裾折返し(30cm内外)

前後の差

(1) 繰越 + 前下り) × 2 この場合は前後の胴接が同じになる。

(2) 仕立て上げて前後の差を付けるときはそれだけ前を長くしておく。

衿丈 = (上り身丈 + 16cm) × 2

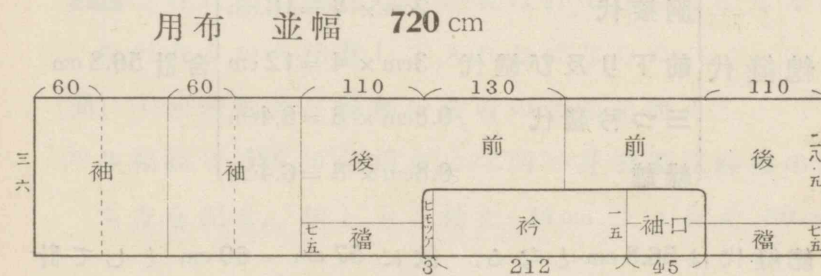
16cm = 衿肩明 + 前下り + 衿先縫代 + 繰越 × 2

袖口布丈 = (袖口明 + 5cm) × 2

襦 丈 = 後身丈

② 裁ち方圖と積り方計算

1. 表



$$(\text{袖丈} + \text{後丈}) \times 4 + \text{前後の差} \times 2 = \text{總丈} \dots \text{長袖}$$

$$\frac{60 \quad 110}{20} \quad \frac{720}{720}$$

$$(35 + 110) \times 4 + 20 \times 2 = 620 \dots \text{短袖}$$

$$\{\text{總丈} - (\text{袖丈} \times 4 + \text{前後の差} \times 2)\} \div 4 = \text{後丈}$$

$$\frac{720}{720} \quad \frac{60}{60} \quad \frac{20}{20} \quad \frac{110}{110}$$

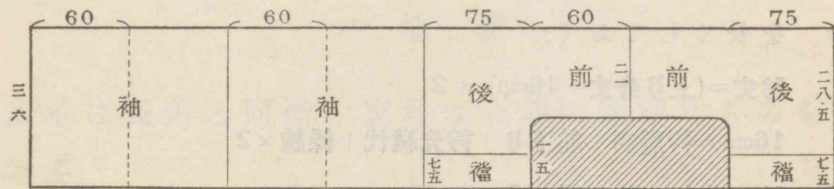
$$\text{後丈} + \text{前後の差} = \text{前丈}$$

$$\frac{110}{110} \quad \frac{20}{20} \quad \frac{130}{130}$$

$$\left\{ \frac{\text{総丈}}{720} - \left(\frac{\text{後丈}}{110} \times 4 + \frac{\text{前後の差}}{20} \right) \right\} \div 4 = \frac{\text{袖丈}}{60}$$

2.裏

用布 並幅 510 cm



$$\left(\frac{\text{上り袖丈}}{58} + \frac{\text{上り身丈}}{88.5} \right) \times 8 + \frac{\text{総縫代}}{58} - \frac{\text{表総丈}}{720} = \frac{\text{裏総丈}}{510}$$

総縫代	袖下縫代	2cm × 8 = 16 cm	合計 56.8 cm
	胴接代	2cm × 8 = 16 cm	
	前下り及び縫代	3cm × 4 = 12 cm	
	三つ衿縫代	0.8cm × 8 = 6.4cm	
	繰越	0.8cm × 8 = 6.4cm	

総縫代は 56.8 cm となる。故に 57 cm - 60 cm として計算してよろしい。

四 仕立て方

標付け方縫ひ方など衿を除く外すべて本裁女羽織と同様である。衿の折り方は次のやうにする。

① まづ表衿布に正しく裁ちたる約半幅の芯布を

綴ぢ付け衿幅の二倍に 1.5 cm を加へて内衿(イ)を折る。(一圖)

② 次にその幅より約 1.2 cm を引いて芯布(ロ)を折る。(二圖) (1.1 cm を引けば折り合せの差 0.4 cm となる。)

③ 外衿を 1.5 cm (ハ) 折り返す。(三圖)

④ 芯布の折山(ロ)を突き合す。(四圖)

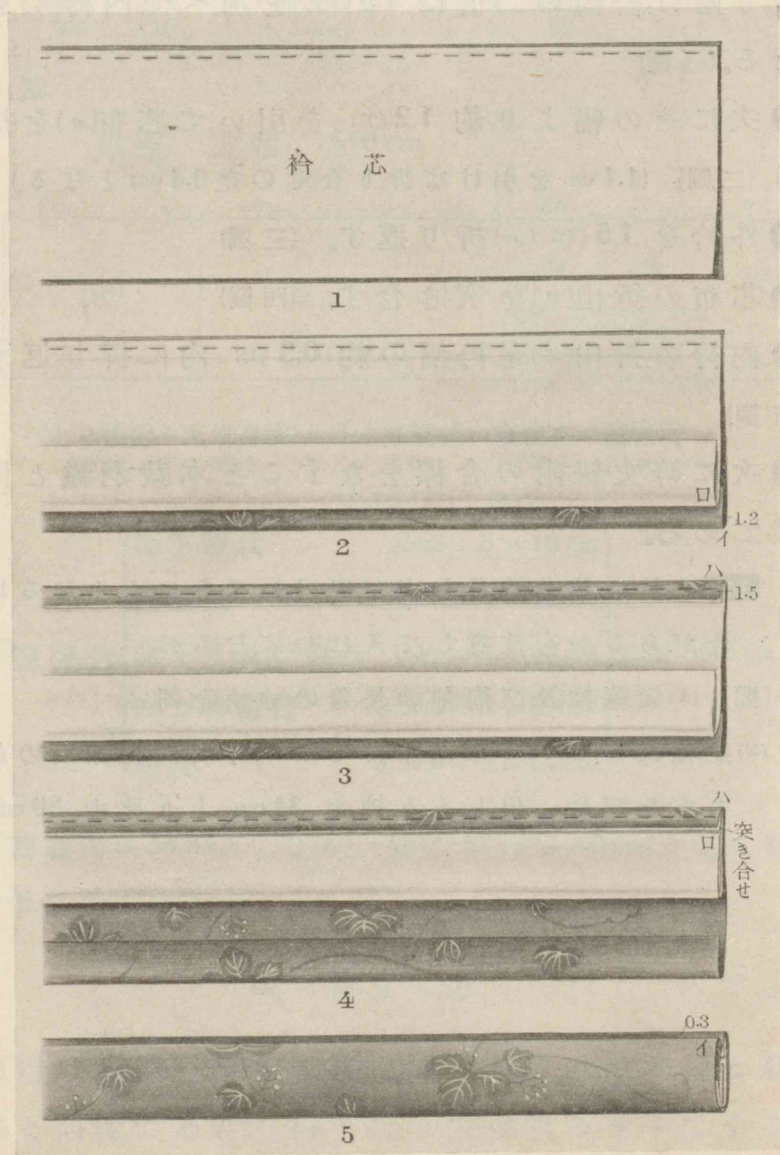
⑤ 内衿の折山(イ)を衿幅の約 0.3 cm 内に折り返す。(五圖)

⑥ 次に衿丈・紐附の合標をなすこと本裁羽織と同様である。

注意 衿に芯の柄色などが表はれてみにくくなる場合があるから注意して入れねばならぬ。

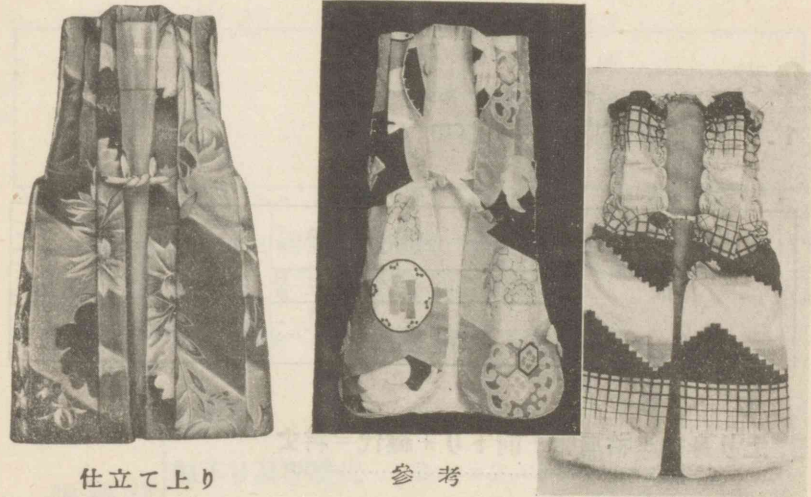
[問] (1) 元祿袖及び筒袖の長着の寸法を問ふ。

(2) 並幅長さ 580 cm の用布にて四つ身羽織元祿袖の裁ち方を記せ。但し上り袖丈 34 cm 上り身丈 80 cm。



中裁羽織衿の折り方

(二) 一つ身袖無綿入羽織



仕立て上り

参考

一 地質

大體中裁羽織と同様である。

二 仕立て上げ寸法

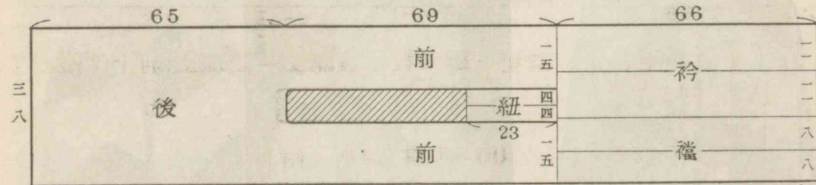
身丈	55 cm 内外	身幅	いっぱい
脇明	23-25	前下り	1cm 内外
衿肩	4	襷幅	上 2.5-3.5 下 3.5-5.5
紐附(肩より)	19-21	衿幅	3-4
繰越	0.5	紐丈	23

注意 前下りは付けなくてもよい

三 裁ち方

① 表

1. 用布 並幅 200 cm



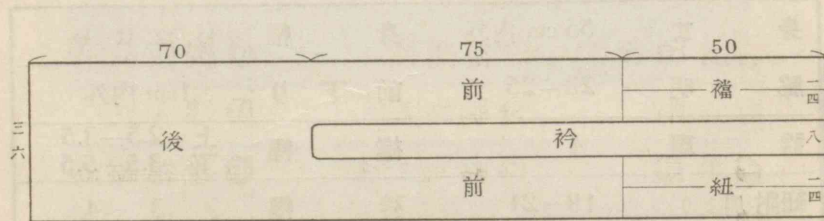
上り身丈 + 衿肩明 + 前下り + 縫代 = 衿丈
 $55 + 11 \dots\dots\dots 66$

上り身丈 + 折返り = 後丈

後丈 + 前下り + 繰越 × 2 = 前丈

後丈 × 2 + 前後の差 + 衿丈 = 總丈
 $65 \times 2 + 4 + 66 = 200$

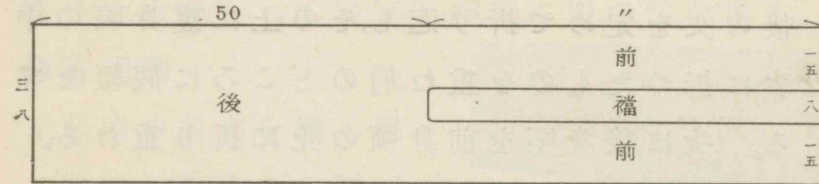
2. 用布 並幅 195 cm



後丈 + 前丈 + 襷丈 = 總丈
 $70 + 75 + 50 = 195$

② 裏

用布 並幅 100 cm



上り身丈 × 4 + 衿丈 + 總縫代 - 表總丈 = 裏總丈 (前下り付けず)
 $55 \times 4 + 66 + 14 - 200 = 100$

$55 \times 4 + 66 + 18 - 200 = 104$ (前下り付ける)

總縫代	胴接代	$2\text{cm} \times 4 = 8\text{cm}$	計18cm
	前下り及び縫代	$2\text{cm} \times 2 = 4\text{cm}$	
	三つ衿縫代	$1\text{cm} \times 4 = 4\text{cm}$	
	繰越	$0.5\text{cm} \times 4 = 2\text{cm}$	

四 仕立て方

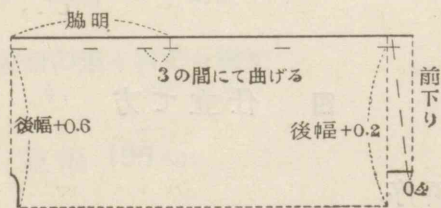
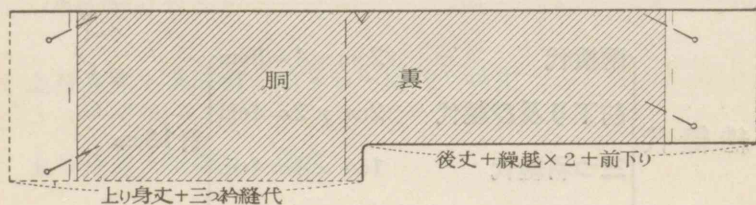
仕立て方順序

- ① 身頃標附
- ② 襷標附
- ③ 胴接・前下り
- ④ 襷附
- ⑤ 脇明縫
- ⑥ 綿入れ
- ⑦ 假綴
- ⑧ 衿附・衿紵
- ⑨ 後襷縦綴
- ⑩ 仕上げ・肩揚
- ⑪ 守縫

1.布のおき方 表身頃を中表に幅二つに折り、後身頃を左に衿肩明を手前にして正しくおき、前後の丈を定めて折り返し、その上に裏身頃の中表に折つたものを重ね、肩のところに假綴をする。次に後身頃を前身頃の上に折り重ねる。

2.標附順序

- ① 山(肩・裾) ② 脇明 ③ 後幅
- ④ 前下り ⑤ 前幅 ⑥ 紐附



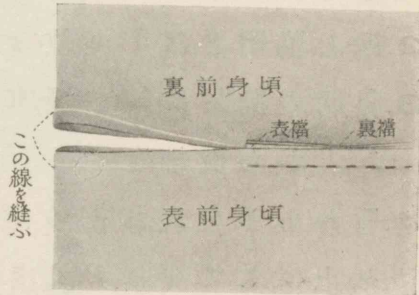
一つ身袖無羽織の標付け方総合圖

② 襷標附 前述と同様に表裏を接ぎ、裾山・丈幅を定めて襷附の斜を前後とも同じに標を付ける。

- ③ 胴接前下り 本裁綿入羽織と同様にする。
- ④ 襷附 本裁綿入羽織と同様に襷を付け、上部を縫ひ、含め綿をして表返し、両端に四つ留をする。

⑤ 脇明縫

1.脇明の表裏を揃へ脇明標から3cmの間で表布は0.4cm外を裏布は0.4cm内を自然に曲げて待針を打ち、

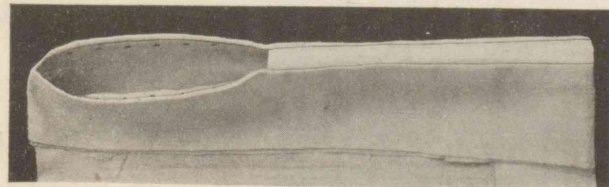


脇明の縫ひ方(裏)

山までそのまま全体の釣合を取つて縫ふ。即ち出来上つて表が裏に0.4cmほど折り返ることになる。

注意 脇明の縫ひ始めに一度出来上つたときの形にして脇明縫代を合して見ないとよぢれる。

2.裏の方に折を返して隠躰をかける。脇明の表布に含め綿を入れる。幅5cm厚さ適宜にする。

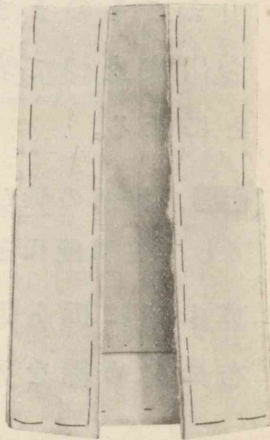


脇明の縫ひ方(表)

⑥ 綿入

- 1.前身頃を中に折り込み、後身頃の裏を出して真綿をひき、本裁女綿入羽織の如く綿を入れる。
- 2.裾と脇明とは5cm位の綿を入れて折り返す。
- 3.脇明の縫目に綿を綴ぎ付け、余った綿を折り込み、上から真綿を引く。
- 4.肩から手を入れ裾の両端を持つて引き返し、裏を上にして平におく。
- 5.次に左右の前身頃に綿入れをして表返す。

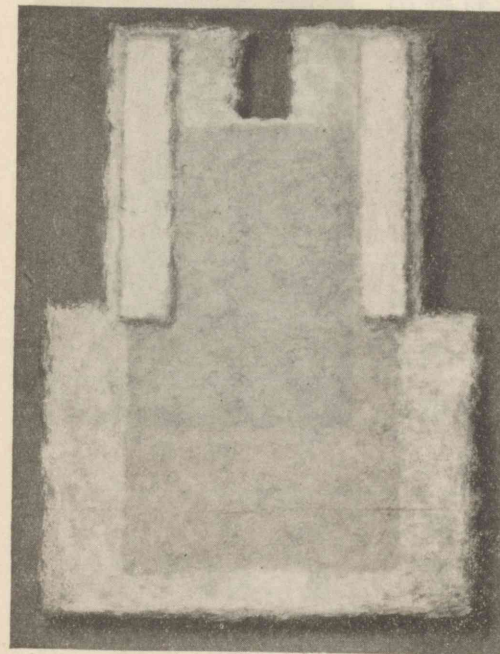
⑦ 假綴 裾脇明の折山によく綿を含めて端から2cm位のところにあらく假綴をなし、衿附のところも本裁と同様に綿を薄目にし、裏幅をやや弛くして綴ぎ合せる。



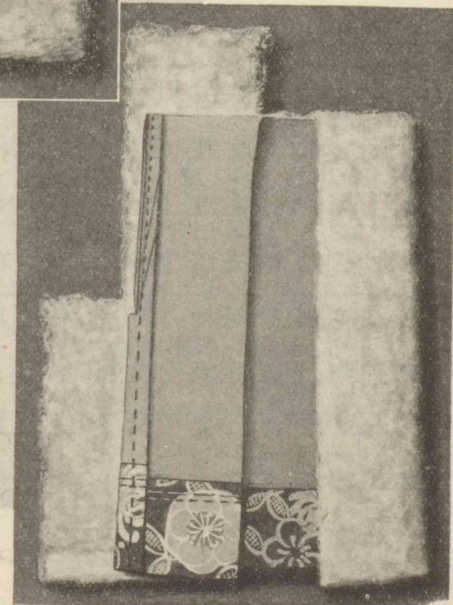
假綴

⑧ 衿附・衿衿

- 1.紐布を中表に幅二つに折つて細かに縫ひ、表に返して中に真綿を引き入れ一方の端を五行留にする。
- 2.紐の縫目が中央になるやうにして、紐附標のところにかと綴ぎ付ける。



(一)



(二)

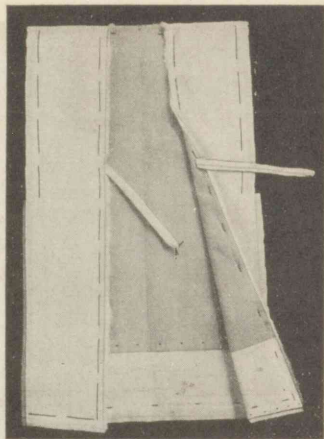
一つ身袖無綿入羽織の綿入れの仕方

3. 芯布を入れ四つ身羽織の

衿と同様に折る。(衿接にするものはまづ割接にする。)

4. 衿の付け方・衿け方などは中裁羽織と同様である。

注意 衿の返りをよく落ちつかせるために衿肩廻と衿先の方を衿の裏側から身頃に衿け付けておくとよろしい。



紐 附

9 後襠縦綴 後襠に縦綴をする。

10 仕上げ・肩揚 仕上げをした後に肩揚をする。肩揚は全體の恰好をみて3cm内外撮み、15cm位の間を雄針・雌針で表に小針を出して縫ふ。

11 守縫 好みによつて付ける。

[問] (1) 並幅長さ190cmの用布にて一つ身袖無羽織の裁ち方を記せ。但し上り身丈55cm

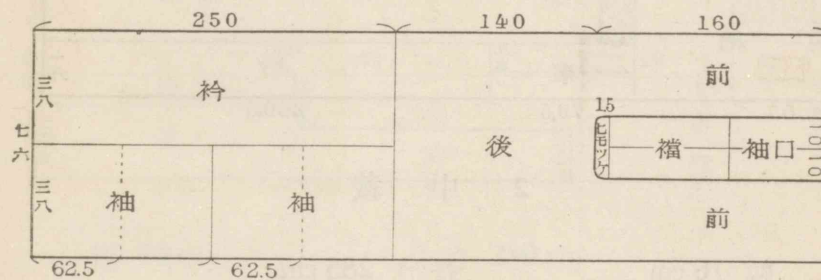
(2) 袖無羽織の表を友禪モスリン・裏を無地モスリンとしてこれに要する綿・絲代共總計何程となるか。

(3) 出來上り身丈62cmの袖無羽織に要する表・裏の用布を計算せよ。

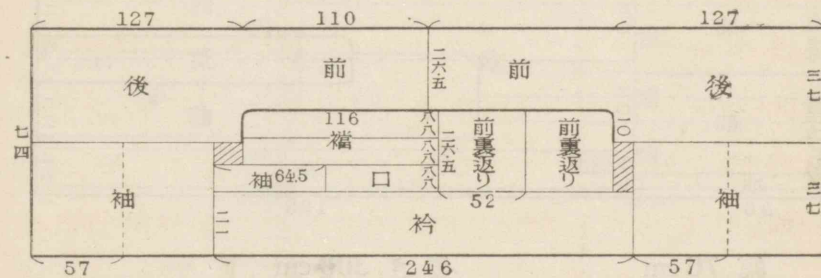
第六章 廣幅物羽織裁ち方

1 本 裁

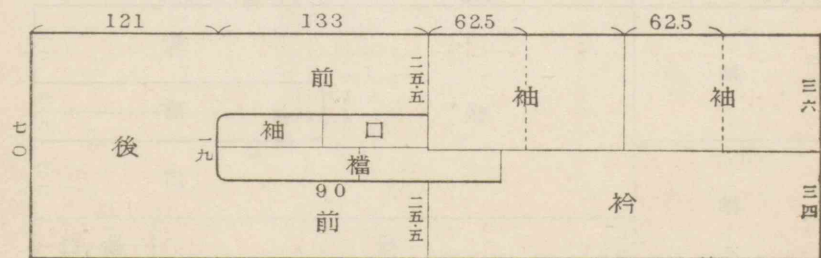
幅 76 cm 長さ 550 cm



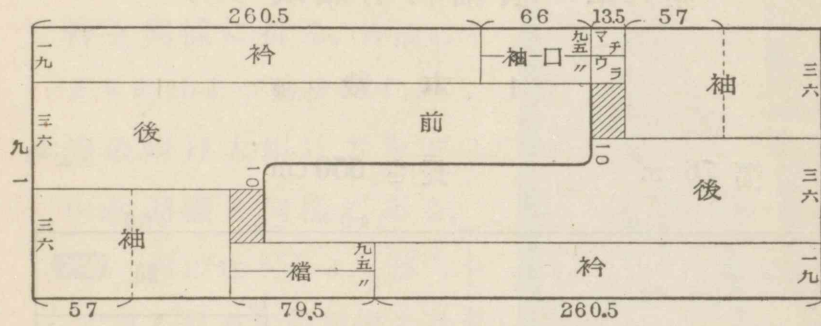
幅 74 cm 長さ 474 cm



幅 70 cm 長さ 504 cm

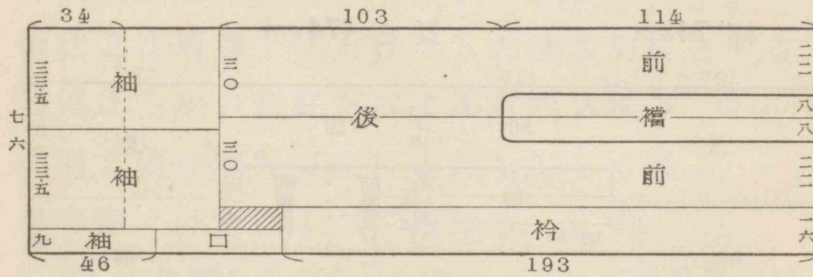


幅 91 cm 長さ 454 cm (両面物)

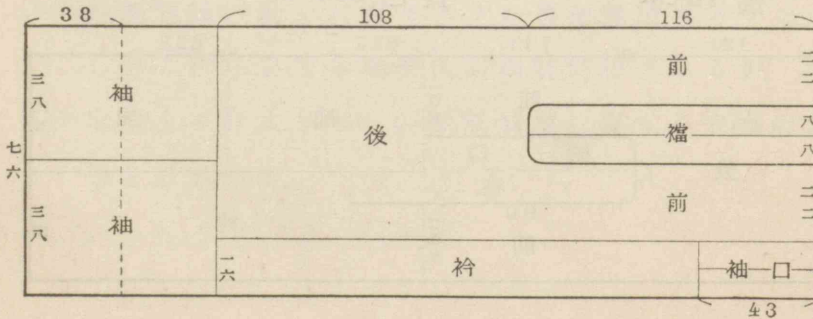


2 中裁

幅 76 cm 長さ 285 cm

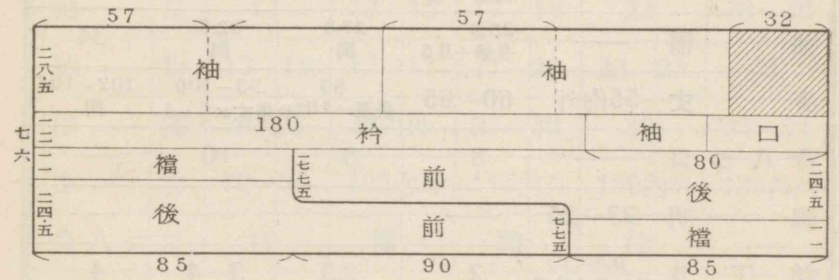


幅 76 cm 長さ 300 cm

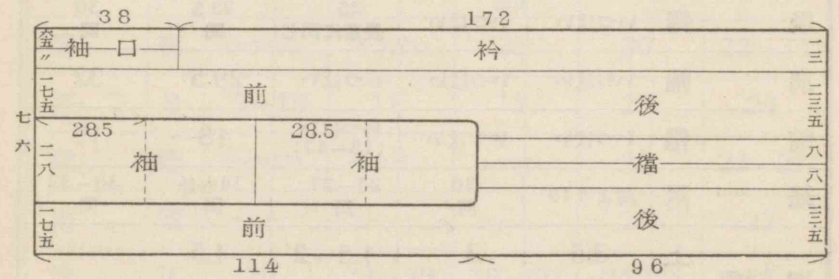


3 小裁

幅 76 cm 長さ 260 cm (片面物に應用しない)



幅 76 cm 長さ 210 cm



各種羽織普通仕立て上げ寸法表

種類	袖無羽織	三つ身	四つ身	本裁女物	本裁男物
袖 丈	—	50-53cm 長着と同種	55-68cm 同	60cm 同	53cm
袖 口	—	13-15 長着と同種	17-19	23	28-30
袖 附	—	15.5 長着+.5	17.5 同	23.5-25.5 同	全體
袖 幅	—	25.5 長着+0.5	27.5 同	32.5 同	34
身 丈	55内外	60-65	85 長着-10内外	95-100 着丈× $\frac{3}{4}$ +4	102-106 同
身 八つ口	—	8	8	10	—
脇 明	23-25	—	—	—	—
前 下 り	$\frac{0.8-1}{\text{無いものもある}}$	2	2.5	3-4	4
衿 肩 明	4	5-5.3	6-7	9.2-9.5	9-9.5
後 幅	いっばい	いっばい	25 長着に同じ	28.5 同	30 同
肩 幅	いっばい	いっばい	いっばい	29.5	32
前 幅	いっばい	いっばい	いっばい (15-17)	18	19
紐 附	肩より19	20 同	25-27 同	34内外 同	30-32 同
襷 幅	上	3.5	2	1.5-2	1.5
	下	5	5	6	6.5
衿 幅	4	4.5	5.5	6.5	7
衿 幅	—	34内外	45.6内外	62 長着に同じ	66
繰 越	0.5	0.5	0.8	1-2	0.5
脊 紋 下 り	$\frac{5}{\text{背裁り切りより}}$	5.5	6	7	7
袖 紋 下 り	$\frac{5.5}{\text{袖山より}}$	6	6.5	7.5	7.5
抱 紋 下 り	$\frac{10}{\text{肩より}}$	11	13	15	15

各種長着普通仕立て上げ寸法表

種類	一つ身	三つ身	四つ身	本裁女物	本裁男物	
袖 丈	袂 袖	35-50cm	50-53cm	53-68cm	60cm	53cm
	元祿袖	25	26-28	30-35		
	筒 袖	21	23-25	25-27		
袖 口	13	13-15	17-19	23	28-30	
袖 附	13-15	15-17	17-20	23-25	45	
袖 幅	19内外	25内外	27-30	32	33-34	
身 丈	70-95	105内外	115内外	150内外	135内外	
身 八つ口	10	同	同	12	—	
衿 肩 明	3	4.5	6-7	9	8.5	
後 幅	いっばい	いっばい	いっばい 25	28.5	30	
肩 幅	いっばい	いっばい	25	30	32-33	
衿 下 り	9-10	11	15	23	20	
前 幅	いっばい	いっばい	いっばい	23	25-27	
抱 幅	—	—	—	21	23	
衿 下	20	23-30	30-50	75内外	65	
衿 幅	いっばい 10	いっばい	いっばい	15	15	
合 襷 幅	衿幅より 0.5つめ	同	同	13.5	13.5	
衿 幅	3-3.5	4	4.5-5	廣衿11 狭衿5.5	5.5-6	
附 紐	(肩より)23	25	28-30	—	—	
衿	いっばい	いっばい	53-55	62	66	
襷	衿	0.7内外	0.4-.6	同	0.4	
	綿入	1	0.8-1	同	0.6	

第七章 絹布・毛織単衣の仕立て方・繕ひ方

1 絹布単衣

仕立て上げ寸法・裁ち方・仕立て方などは大體綿布と同様であるが特に次のことに注意する。

一 地直し

- ① 裁つ前に必ず地直しをする。即ち耳のやや張つたものは烙鋺で伸ばす。
- ② 強く張つたものは耳に 0.4 cm 位鉄を入れて全體に火熨斗をかける。

二 標附け方

- ① 取扱ひに注意し、裁板の上に布または紙を敷きその上に布を平において寸法を計る。
- ② 絹布は地薄であるから、布を損じないやうに焼籠を用ひるがよい。縫標をしてもよい。

三 仕立て方

全體に綿布より針目を細かくし、縫目に平烙鋺を

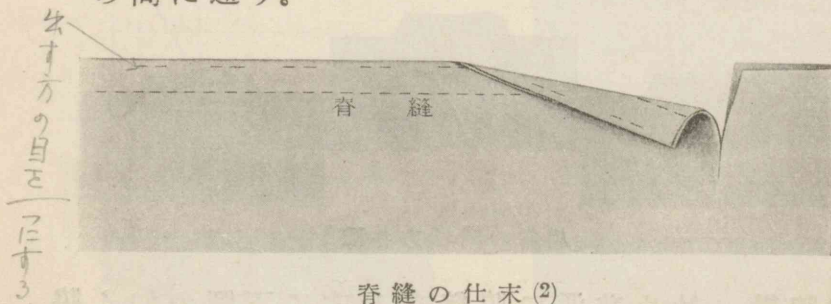
かける。折烙鋺を強くかけてはならない。また縫込の端は折衿にする。横縞・横縞などは特に布目・縞目のゆがまぬやうなるべく布目を通す。

① 袖

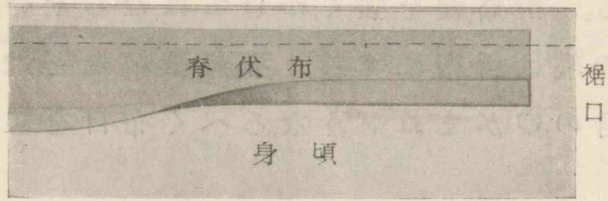
1. 袖下は袋縫にするか、外袖を 0.8 cm ほどずらしておき、その長い分を折つて内袖に衿け附ける。
2. 袖口は細い三つ折か、または撚り衿にする。

② 脊縫

1. 袋縫にする。(最初の縫代をごく浅く縫ふ)
2. まづ普通に縫ひ、次に下圖の如く布の端から約 0.5 cm のところに小針を表裏に出し、大針は布の間に通す。



3. 脊伏布を附ける。共布または同色の布で幅を 3 cm 位 ($\text{脊縫代} \times 2 + \text{縫代} \times 2$) に、丈を身丈と同程に裁つ。肩當附のやうに脊縫の向側に 0.5 cm の縫代にあて、脊縫と共に三枚一束に縫ひ附け、

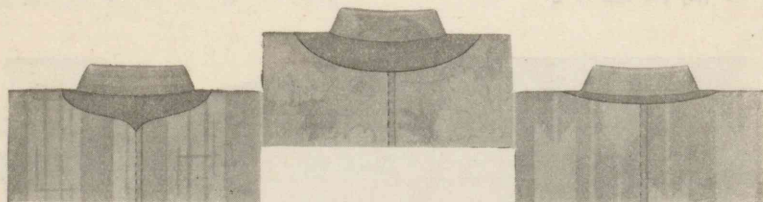


脊伏布の付け方

縫代を包み端を折つて縫目の際に拵け付ける。

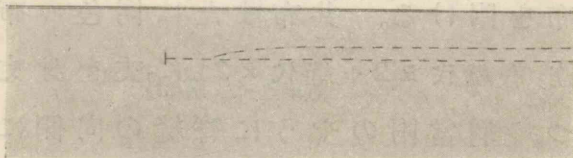
③ 肩當・居敷當

- 1. 肩當と居敷當の端は三つ折拵にする。
- 2. 薄物の場合は肩當・居敷當を用ひず、脊伏布を附け、衿肩廻りのところは丈夫にするため、共布(或は類似の布)で下圖の如く小さく肩當を附ける。

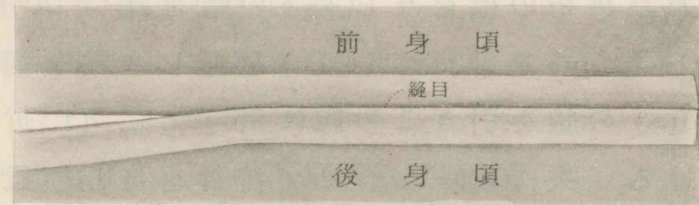


肩當の付け方各種

④ 脇縫 始め普通に脇縫をし、次に下圖の如く脇



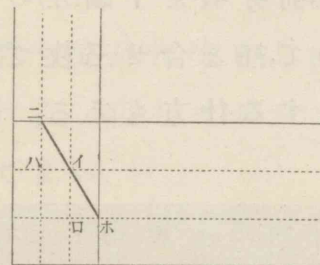
脇縫の仕末(1)



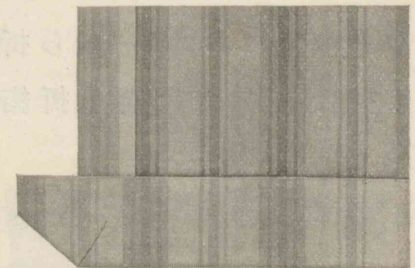
脇縫の仕末(2)

縫目より 0.8 cm ほど離してまた縫ひ、身八つ口止りの方で自然に浅くして脇縫に合せ、後身頃の縫ひ込を開いて上圖の如く折拵にする。

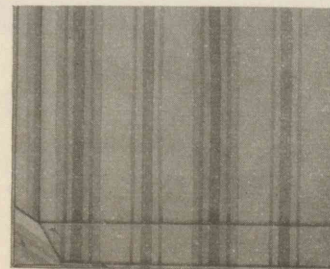
⑤ 衿下拵 袂先を次の如くして額縁にする。



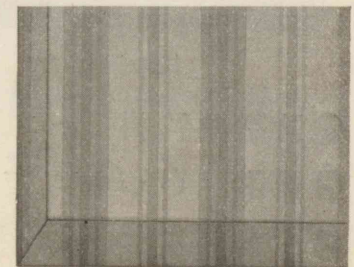
額縁の割り出し方



額縁の縫ひ方 (1)



同 (2)

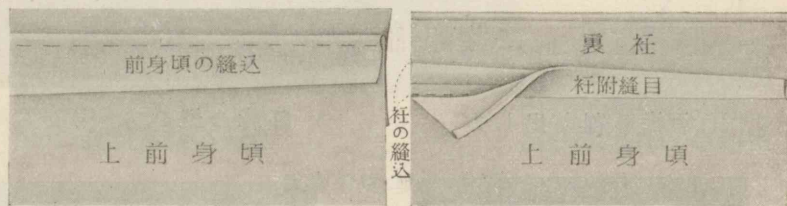


同 (3)

衿下及び裾紵の標をなし(イ)(ハ)の幅を計つて(ロ)(ホ)に移し、(イ)(ロ)を計つて(ハ)(ニ)を標し、(イ)點を通じて(ニ)(ホ)の線を引き、この線に沿うて三角に折目を付ける。次に(ホ)(ニ)を合せて待針を打ち、標通り細い糸で半返し縫とし、縫目を割つて(2)圖の如く折り込を平にし表に返す。次に衿下裾口を紵け付ける。

⑥ 衿附

1. 普通に付けて縫込を折紵にする。
2. 衿附の縫目をかくすため、前身頃を下圖(左)の如く標の 0.8cm 先から折つて、衿と合せ三枚で一束に衿を付け、端を折紵にする仕方もある。



衿の付け方

衿附の仕末

- ⑦ 衿附共衿掛
- ⑧ 袖附 いづれも丁寧に布を取扱ひ、注意する外綿布と同様である。
- ⑨ 仕上げ 地質によつてそれぞれ適當に火熨斗

を當てて仕上げをする。

[問] (1) 絹布単衣縫ひ方にて綿布と異なるところを述べよ。

(2) 絹布単衣のアイロンのかけ方を問ふ。

2 毛織単衣

大體綿布に同じ。その異なるところは次のやうである。

一 地直し

- ① 霧を十分に吹き、しばらくおいて後、アイロンをかける。但しメリンス類の薄地物は霧を吹かないでよい。
- ② 二・三時間清水に浸し、壓すやうにして水をきり、蔭干にして半乾きのときアイロンをかける。

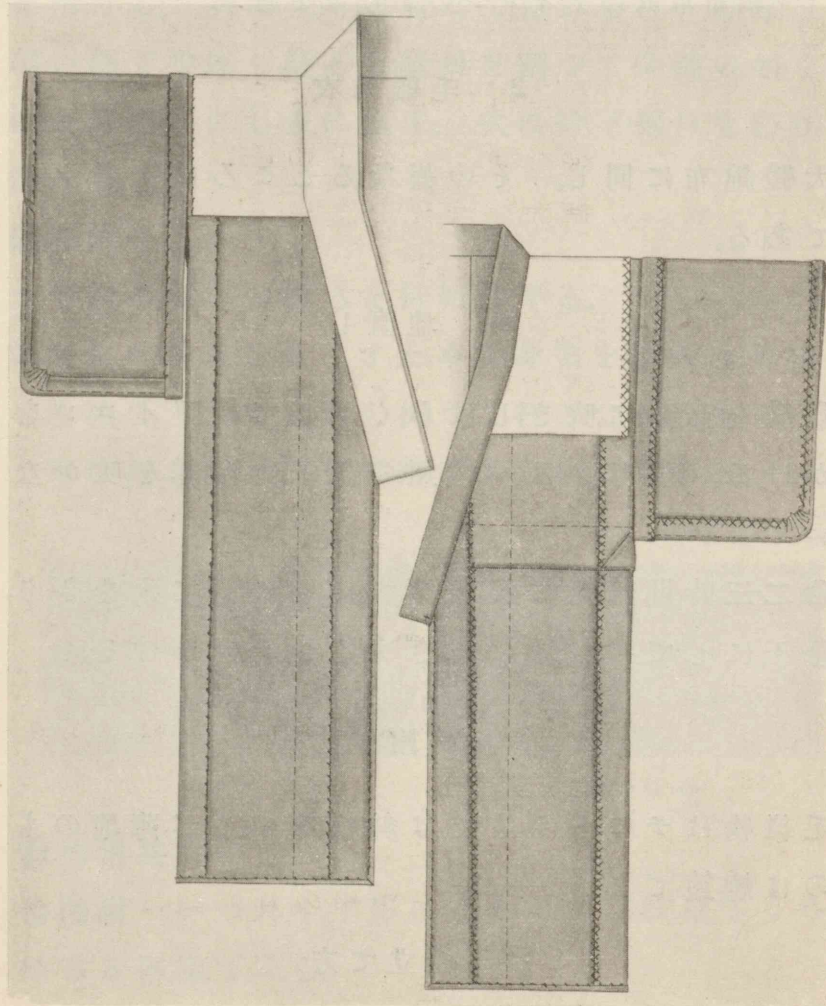
二 標付け方

毛織物はチヨークまたは絲標をするが、薄地のものは焼籠でよい。

三 仕立て方

大體絹布の単衣と同様である。

①袖 半返しに縫ひ、折を内袖の方に返し、袖口を纏り縫にし袖下・口明下は千鳥縫とするか或は纏



纏り縫及び千鳥掛

り縫にする。

②脊縫 半返しに縫ひ烙鋏をかけて、縫目を千鳥掛にする。

③脇縫・衿附・袖附 いづれも返し針に縫ひ脇縫袖附は縫目を割る。縫ひ込の端は千鳥掛にする。セルなどの薄地のものは纏り縫にしてよい。

④衿下衿及び裾衿 袷先を額縁とし、衿下及び裾衿の三つ折を纏り縫とする。ネルなどの地厚物は千鳥掛にする。

⑤仕上げ 全體に軽く霧を吹き、裏からアイロンをかけ正しく疊んでおく。

[問] 毛織単衣の繕ひ方にて、特に絹布と異なるところを述べよ。

3 絹布・毛織の繕ひ方

絹布及び毛織の繕ひ方も大體綿布と同様であるが、その異なるところを次に述べる。

①針 絹継ぎ針・紬継ぎ針

②糸 絹継ぎ糸・羽二重糸・絹糸の割り糸・ほぐし糸。

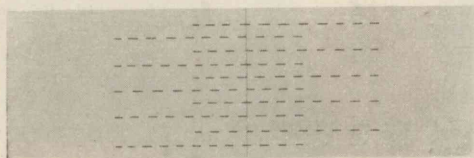
— 接ぎ方

①片返し接 針目を細かくする外、綿布と同様。

②割り接 小針に縫ふか、または返し針に縫ひ、烙鋺をかけて割る。

③掛け接 縮緬のやうな伸び易い地質は、接代に紙をあてて假躰をなし、地糸一本づつ抄つて膝り後、紙を除き烙鋺をかけて仕上げをする。

④突き合せ接(寄せ接) 縮緬または毛織物の地厚などに用ひる。



突き合せ接ぎ方

まづ布目・毛並を見て裁目を正しくして突き合せにし、ごく細い糸にて裏より上圖の如く細かに刺し、兩布の端のところは交互に針をかけて接ぎ、裏から烙鋺をあてて後、毛織物は刷毛で毛並を揃へて仕上げをしておく。

注意 縮緬類には火氣の強い烙鋺をあてゝはならぬ。

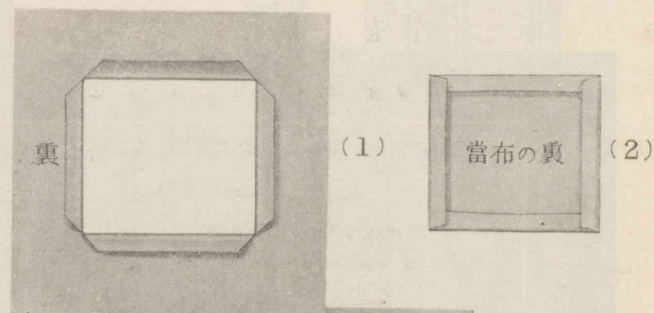
二 継ぎ方

①色紙継

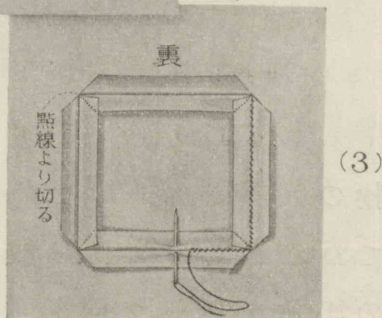
②刺し継 針目を細かにする外、いづれも綿布と同様にする。

③拵入れ継 綿布と同じ方法である。また次のやうな仕方もある。

1.角の四隅に切り込を入れて、縫代を裏に折り返す(下圖(1))



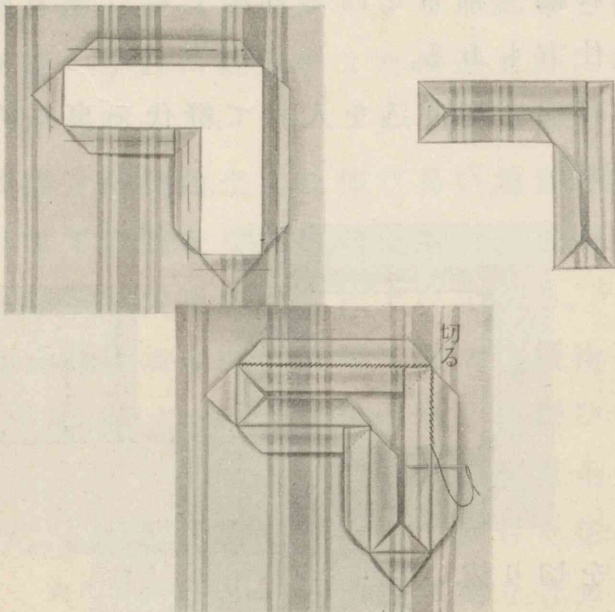
2.當布を切り抜いたところの縮目布目によく合せて、縫代だけ裏に折り返す。(2圖)



3.表布と當布とを

拵入れ継の仕方

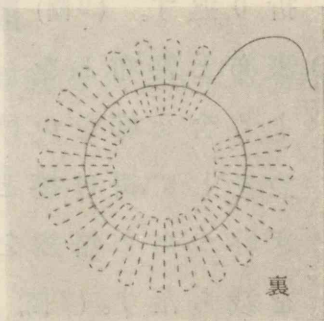
よく合せ躰をかけておき、特に角のところに注意をして、掛け接と同様にして糸をかける。接ぎ終つたら烙鋺をかけ、當布の四角の重りの分を裁ち落す。(3圖)



参 考

④毛織物の穴織

1. 損じてゐるところを切り抜く。
2. 當布の毛並を揃へて、同じ形に切つてはめ込み、突き合せにする。
3. 表に針目の出ないやうに布の厚みを抄つて刺す。
4. 軽く霧を吹いた別布をあてて、烙鋺で仕上げをする

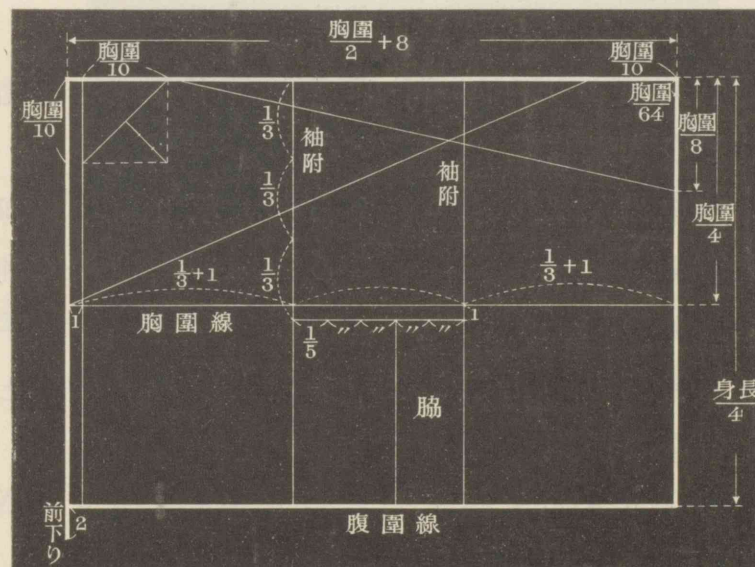


穴 織

第八章 女兒服

基本原型

一 ウエイスト (胴)



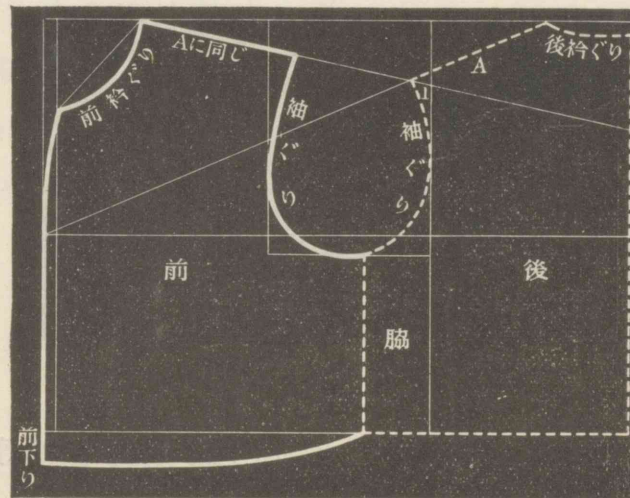
ウエイスト型紙の取り方 (1)

1. 丈 $\frac{\text{身長}}{4}$ にとる。
2. 幅 $\frac{\text{胸圍}}{2} + 8\text{cm}$ に取り、各々平行線を引く。
3. 胸圍線 上より $\frac{\text{胸圍}}{4}$ につけて引く。
4. 前中央線より内に 1cm 取り、残りを三等分し、それに各 1cm を加へて、前後の袖附線を引く。

5. 胸圍線より 1cm 下げて線を引く。
6. 前袖附線と後袖附線との間を五等分し、前袖附線より $\frac{3}{5}$ のところに脇の線を引く。
7. 前袖附線の上端より、胸圍線の 1cm 下までを三等分する。
8. 後中央線にて、上端より $\frac{\text{胸圍}}{64}$ を取つて記す。
9. 後中央線より内に $\frac{\text{胸圍}}{10}$ にとり、前中央線と胸圍線との交點に結ぶ。
10. 前中央線より 1cm 内から $\frac{\text{胸圍}}{10}$ 取り、前中央線上端より $\frac{\text{胸圍}}{10}$ 取つたところと結び圖の如く前衿刳りの假線を引く。
11. 前衿刳りの上端と後中央線上の $\frac{\text{胸圍}}{8}$ の點とを結ぶ。
12. 前下り 2cm を標す。

以上の假線が引けたら各部の製圖をする。

1. 後衿刳りの線を引く。
2. 後肩の線 A を假線上にて、後袖刳り線より 1cm 入つたところまでに引く。
3. 前衿刳りを次頁圖の如く引く。
4. 胸ぐせの線を引く。
5. 前の肩幅を、後肩幅 A に同じに取る。

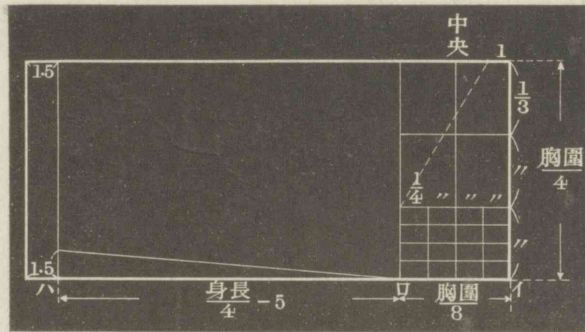


ウエスト型紙の取り方 (2)

6. 袖刳りを前肩の止りより前袖附線の $\frac{2}{3}$ のところに當て、それより脇線に當て、次に後袖附線の中央に當て、後肩の止りに當てて引く。
7. 前下りを脇より自然に引く。

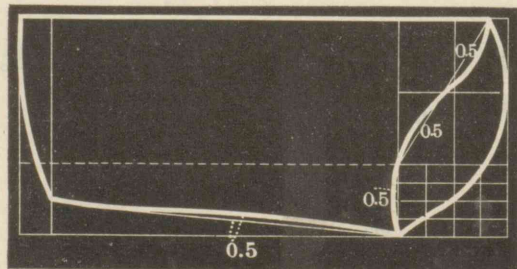
二 袖

1. 丈 イより $\frac{\text{胸圍}}{8} + (\frac{\text{身長}}{4} - 5\text{cm})$ に取る。
2. 幅 $\frac{\text{胸圍}}{4}$ に取り、各々平行線を引く。
3. 右端より $\frac{\text{胸圍}}{8}$ のところに、垂線を引き口とする。
4. イ口の中央に線を引く。
5. イロの間で袖幅の $\frac{1}{3}$ 線を引く。



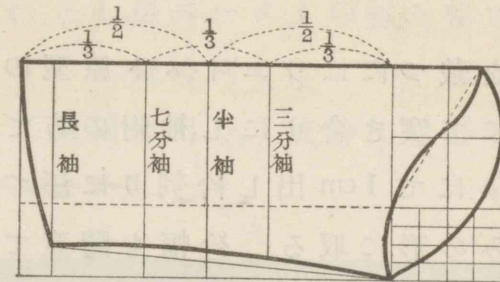
袖型紙の取り方 (1)

6. 下から $\frac{1}{3}$ の角を幅丈とも、(1) 圖の如く四等分線を引く。
 7. イ線の上端から左に 1cm 取り、口線の下から $\frac{1}{3}$ のところと結ぶ。
 8. ハより 1.5cm 左にとつて線を引く。
 9. ハより上に 1.5cm 取り口と結ぶ。
- 以上の假線を引いた後、(2) 圖の如き寸法にて、自然に刳つて實線を引く。

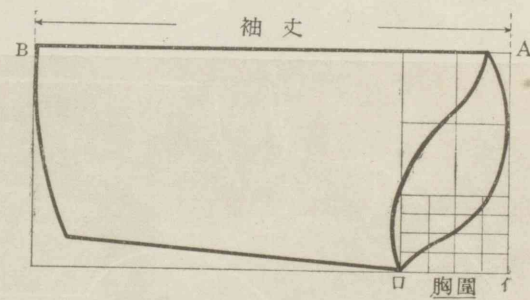


袖型紙の取り方 (2)

型紙を裁つには袖山を輪にして二枚重ね、初め外側の線を裁ち切り、次に内側の線を一枚裁ち切る。袖丈は年齢好み・季節により、長袖・七分袖・半袖・三分袖などにする。(3圖)



袖型紙の取り方 (3)



袖型紙の取り方 (4)

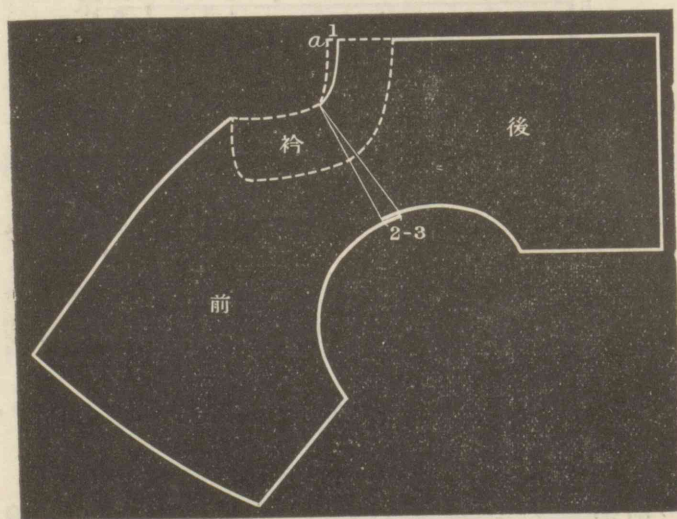
- 注意** 袖丈・袖幅は次の如くして定めてもよい。(4圖)
- (1) 袖丈 衿一肩幅(後中心より肩先まで)…を計り、A B とする。
 - (2) 袖幅 (イ)より $\frac{\text{胸圍}}{8}$ 取り、口とし口點よりイ線上に $\frac{\text{袖割}}{2}$ に斜に計り、イ口線に平行線を引く。

他は前述の如く製圖をする。

三 衿

1 折衿型

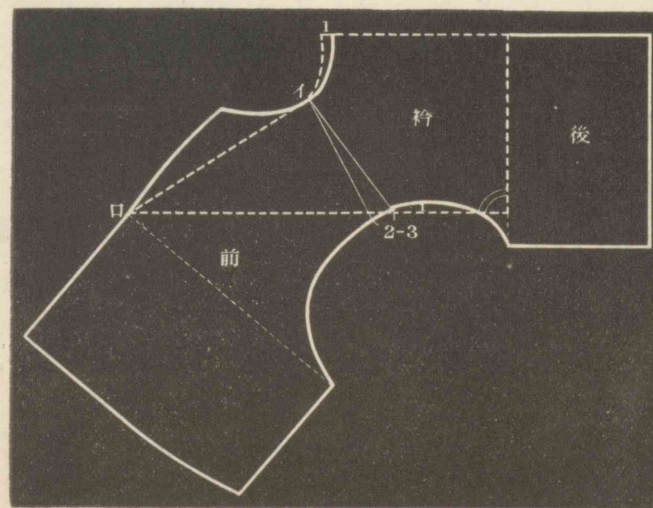
衿の型紙を裁つにはウエスト原型の前後の肩を衿刳りにて突き合せにし、袖附の方で2cm乃至3cm重ね、 a にて1cm出し衿刳りに添つて適宜丸角など好みの形に取る。衿幅も随意である $\frac{\text{胸圍}}{10}$ 内外でよろしい。前の開き具合は左右を合せてみて後、定めた方がよい。



衿型紙の取り方

2 水兵形

1と同様にウエストの前後の肩を重ね、ヨーク丈を前後とも袖ぐりまでとし、幅は肩幅と同糶(或は1cm出す)とし、後ヨーク丈の線と幅の線と直角になるやうにし、後衿刳りにて1cm出して、前はイより口まで直線を引く。後衿丈は好みにより、短かくしてもよい。



衿型紙の取り方

1 普通服

この服は上と下とが一続きの布で出来てゐるので、裁ち方も仕立て方も至つて簡単であるから、常着として最も適當である。なほカラー(衿)カフス(袖口)バンド(帯)ポケット(隠し)など、裝飾の仕方によつて、種々趣の變つた服を作ることが出来る。

一 地質

キモノスリーブと同様でよい。カラー・カフス・バンドなどは季節と服の地質・色合などによつて、適當なものを選ぶ。例へば夏はギンガム・朝鮮木綿などに、白のピツケ・ポプリンがよい。冬はサーヂセルなどに、共布または天鵞絨がよろしい。バンドには共布か革・組紐など、適當なものを選ぶ。

二 型紙の取り方

①身頃 ウエイストの原型を用ひる。

1. 後の中心線を延長して着丈に定める。

2. 腹圍線のところで脇線を、後は $\frac{\text{胸圍}}{16}$ 前は $\frac{\text{胸圍}}{12}$ ひろげて裾まで斜線を引く。(地質・形などによつて多

少加減してよい。)

3. 後脇丈を定めて裾の線を引く。

4. 前脇丈を後脇丈 a に合せて定め、前中心に前下り(2cm)を付けて裾の線を引く。(角は必ず直角)

注意 製圖に用ひる胸圍は、下着の上から計つた寸法による。普通裸體の胸圍に 3cm — 6cm 位を加へるが、これは下着の厚薄によつて異つてくる。

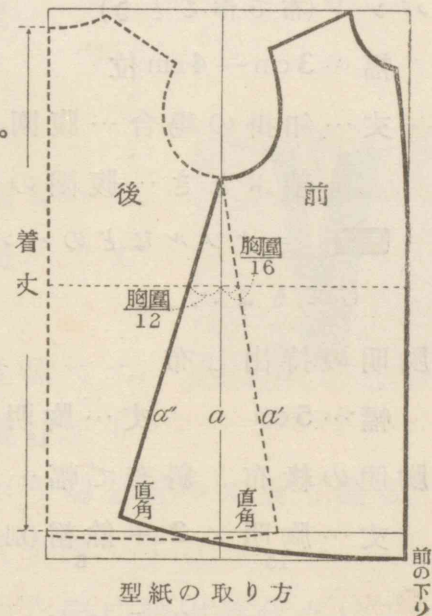
②袖 前に述べた袖の型紙取り方と同様にする。袖丈は半袖にする。

③衿 前述の丸衿型紙の取り方と同じ。

注意 衿先は丸角いづれでもよい。

④カフス 袖型に合わせて好みの型に取る。

⑤ポケット キモノスリーブと同じやうに取つてよい。



三 布の裁ち方

なるべく布の不経済にならぬやうに型紙をおき、次の縫代を加へて裁つ。

身頃は前後とも中心を輪にして、前は 15cm ほど切り込む。

肩・袖下… 2cm 裾… 6cm

その他… 1cm

バンド(布で作るとき)

幅… 3cm—4cm 位

丈… 釦掛の場合… 腹圍の長さ

結ぶとき… 腹圍の二倍半

注意 エナメルなどのバンドを付けてもよい。

胸明の持出し布

幅… 5cm 丈… $\frac{\text{胸明} + 4}{15}$ cm

胸明の縁布 斜布で幅… 2.5cm

丈… $\frac{\text{胸明} \times 2 + \text{餘裕}}{15}$ (別布) $\frac{3}{3}$

四 仕立て方

薄地のものは普通の標付けをしてよいが、厚地のものは切襟にし



布の裁ち方

た方がよい。

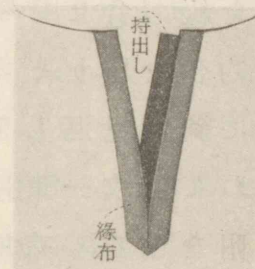
① 袖

1. 袖下を袋縫にして、前の方に折を返す。
2. カフスの袖下を縫つて割り、幅を二つに折り、裁ち目の方を假綴ちしておく。
3. 袖の裏とカフスの表とを合せて縫ひ、袖の方に折を返し、カフスをおこし、袖下・袖山を一針づつ袖に綴ち付けておく。

② 身頃

1. 胸明の仕末

- (1) 持出し布を上り幅 2cm に、なるやう両端を縫つて丈を絞ける。



胸明の仕末

- (2) 胸明の表に縁布を當てて、0.5cm の縫代で縫ひ、上り

幅 0.5cm になるやう端を折つて裏で纏る。明の下端では縫代を浅くする。

- (3) 左前の縁布を纏つた際に、衿附縫代だけ下つたところから下に、持出し布の縫目の方を纏り付ける。

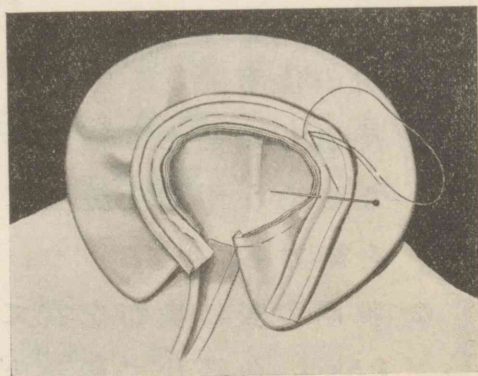
2. 肩脇縫 肩と脇を袋縫にして、いづれも後に折

り返しておく。

③裾 裾の折返りを丈のところより折り、次に端を1cm折って纏り締にするか、またはミシンをかける。或は初め1cm折ったところにミシンを掛け、次に三つ折りにして纏り付けてもよい。

④衿 表裏を合せ裏をやや張り加減にし、衿附の方を残して三方を縫ひ、(丸みのときはその間だけ縫代に切り込を入れる。)表に返す。

⑤衿附 衿附の方を綴ぢ合せ、身頃と釣合を取り、その上に斜の見返しを重ねて四枚一束に衿附をする。次に見返しの端を折って縫代を包み、身頃に纏り付けておく。

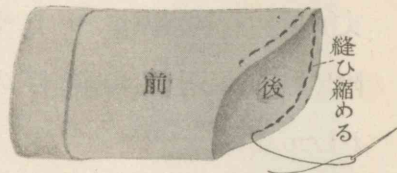


衿附の仕方

⑥袖附

- 1.袖附の方で出たところを細かに縫って、身頃より、弛む分を縫ひ縮める。(次頁上圖)
- 2.袖刳りの最も出てゐるところと身頃の肩山と

を合せ、全體の恰好を見て假寐をする。この際肩の前後から前袖の半ばまでは袖を弛ませ、腋



袖の縫ひ縮め方

下ではややつり加減にして、袖附の工合を見る。

3.次に斜布をその上に重ね、三枚一束に袖附をなし、斜布で縫代を包み、端を折って纏り付ける。

注意 (1)斜布の代りにテープで縫代を挟んで縫つてもよい。

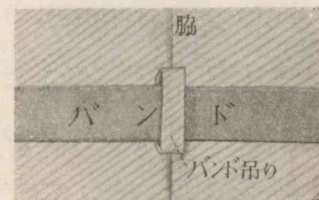
(2)袖の下り工合は着たときのやうに下げて見て、袖が少し前の方に出る位にする。

(3)右袖と左袖を間違はぬやうにする。

⑦ポケット 適宜好みによつて付ける。口のところはほころび易いから堅く留めておく。

⑧バンド及びバンド吊り

- 1.バンドに芯布を一枚入れて縫ひ、廻りにミシンをかける。両端は釦掛かまたは飾釦にしてスナップ止にする。



バンド吊りの付け方

- 2.バンド吊りは 上り幅… 0.8cm 位

丈…バンド幅よりやや長く。
付け方は両脇の縫目の上で、腹圍線の邊へ付け
ればよい。

⑨ スナップ及び釦附

1. 胸元の衿附止りに一個、それより下を四等分し
て、三個のスナップを附
ける。

2. 衿の附根に飾釦を二個
附ける。

⑩ 仕上げ カラー・カフス
などの部分を先にして、後
全體にアイロンをかけて
仕上げをする。

この別スリーブ裁にも、キ
モノスリーブと同様に、身
頃の中途に切り込のある
もの、上下縫ひ合せたもの、



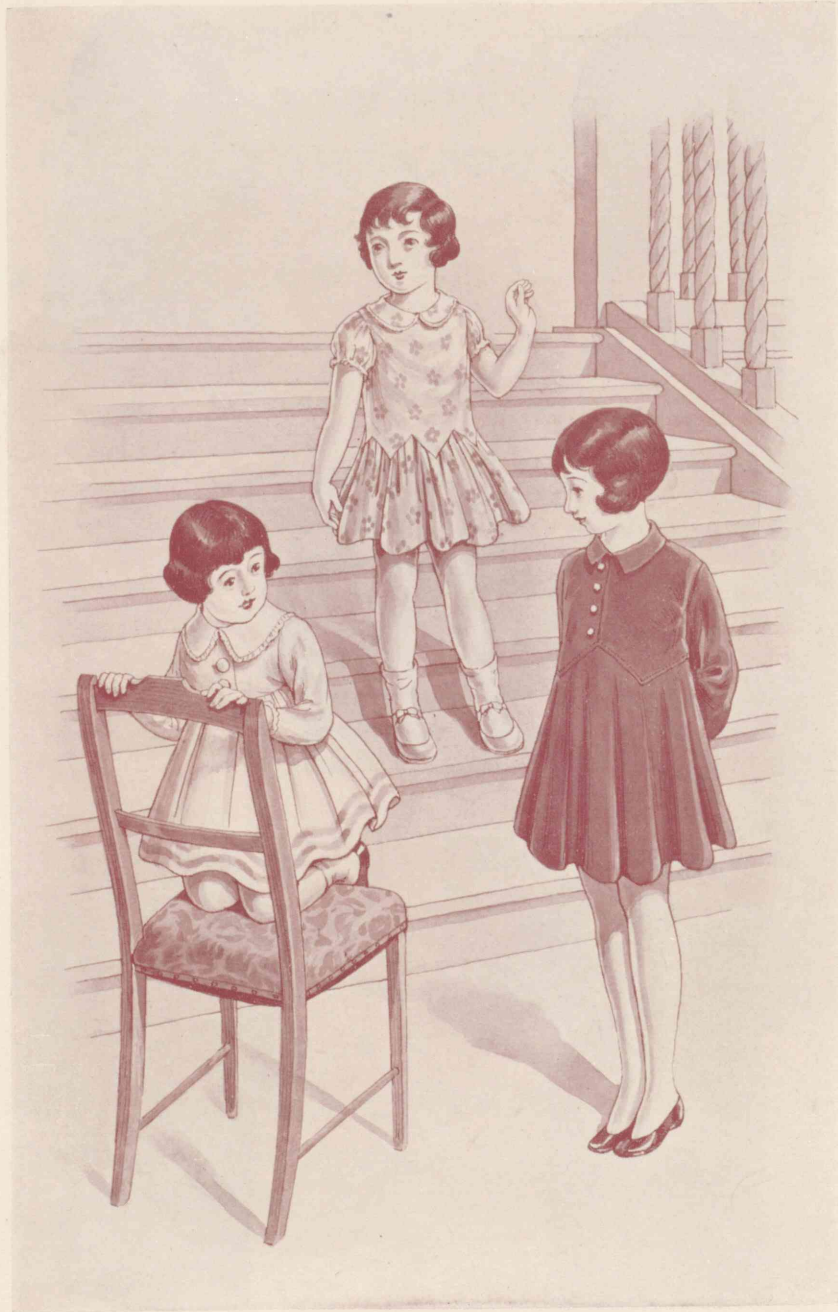
着用圖

またはタックを取つたものなどいろいろあるか
ら、参考圖によつて工夫・研究すると、面白いものが
出来る。



改現裁
(三)
六一を
三

普通服(参考)



普通服着用圖

2 水兵服(女兒用)

この服は上下が別々になつてゐて、全體にゆつくりと仕立てたもので、通學服として最も適當した服である。これは上の方をブラウスといひ、下をスカートといふ。なほ圖の如く女兒服には下にスカートを用ひるが男兒服には(五六歳まで)半ズボンを用ひるのである。



出來上り



着用圖

(一) ブラウス

一 地質

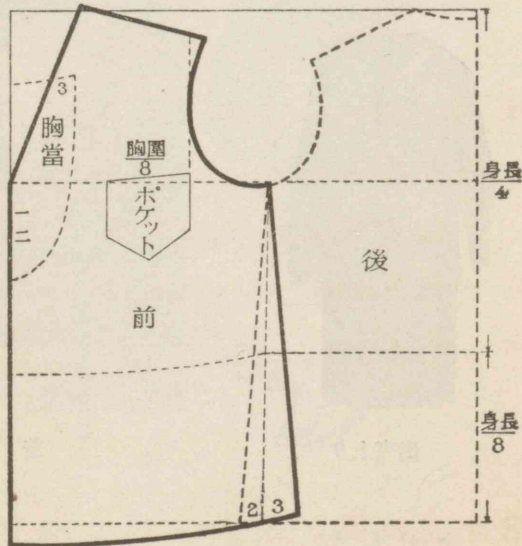
夏 リンネル・カツラギ・ギンガム・ピッケ・富士絹・ポプリンなど。
 冬 セル・サージなど。

注意 カラー・カフス・胸當の裏は別布を用ひるときもある。冬は多く毛織子を附ける。

飾ネクタイ リボン・絹・ヌメなど。

二 型紙の取り方

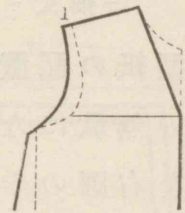
- ①身頃 ウエイ
 スト原型に右圖の如く製圖する。
 1.丈 型紙より
 $\frac{\text{身長}}{8}$ 乃至 $\frac{\text{身長}}{6}$
 を伸す。
 2.脇 裾口にて
 後 2cm 前 3cm
 位廣くする。
 3.前明は胸圍線
 位にする。但



型紙の取り方

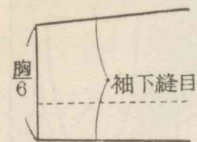
し胸當を附けないで、短く明けることもある。

- 4.ポケット及び胸當の型紙を、前頁圖のやうにして取る。形に餘裕を附けるために、右圖の如く、原型より肩幅を 1cm 出して袖捌りを 1cm 下げて、そこで 1cm 出して自然に刳つてもよろしい。



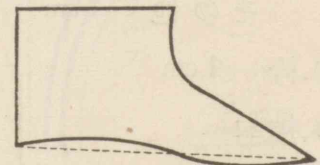
型紙の取り方

- ②袖 前述のやうにして裁つ。カフスを先に附けるときは、その幅だけ袖丈を短くしておく。カフスの丈は約 $\frac{\text{胸圍}}{6}$ に取る。手首にぴったりと合ふやうにしてもよい。幅形は隨意にする。



カフスの丈・定め方

- ③衿 前述の水兵形衿の型紙取り方と同様にする。また右圖の如く後でやや内側に、前で外側に丸みを付けてもよろしい。



衿の型紙取り方

三 布の裁ち方

- ①用布の積り方

幅 70cm

丈 後身丈 × 2 + 前後の差
+ 袖丈 + 衿 + 縫代

① 型紙の配置と布の裁ち方

布の無駄にならぬやう各型紙を右圖のやうに配置し、廻りに次の縫代を付けて裁つ。

1. 身頃 前後とも中央を輪にして裁つ。

裾 3cm — 6cm

衿刳脇 1cm

肩 2cm

2. 袖 袖下 2cm

その他 1cm

3. 衿 1cm

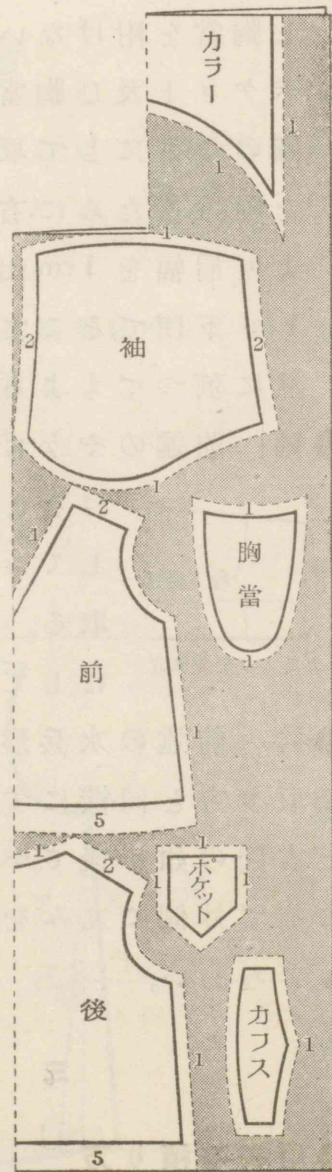
4. 袖口

幅 上り幅 + 縫代 (2cm)

丈 $\frac{\text{胸圍}}{3}$ + 縫代 (2cm)

注意 カラー・カフス・胸當の裏を別布で裁つ場合は、表と同様に縫代を付けて裁つ。

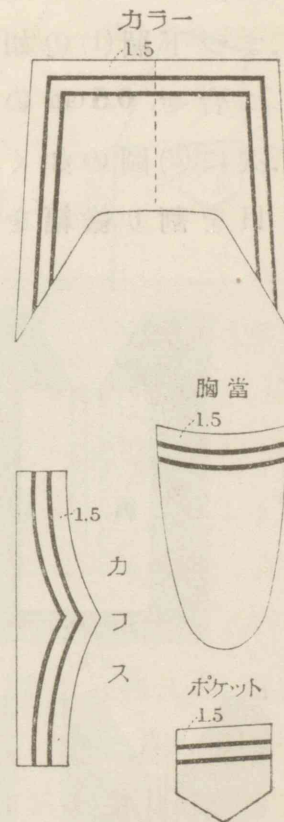
附属品 釦・スナップ・ジャバラ



布の裁ち方

四 仕立て方

① ジャバラ附 カラー・カフス 胸當及びポケットに、ジャバラを付ける。まづ端から 1cm 乃至 1.5cm 入つたところに一本付け、次にジャバラの幅だけ隔てて付け、中央をミシンで抑へておく。ジャバラの数は一本・二本・三本と好みによつて定めてよろしい。



ジャバラの付け方

② 袖

1. 袖下を袋縫にし、袖口をカフスの丈に合せて、襷またはギヤザーにする。

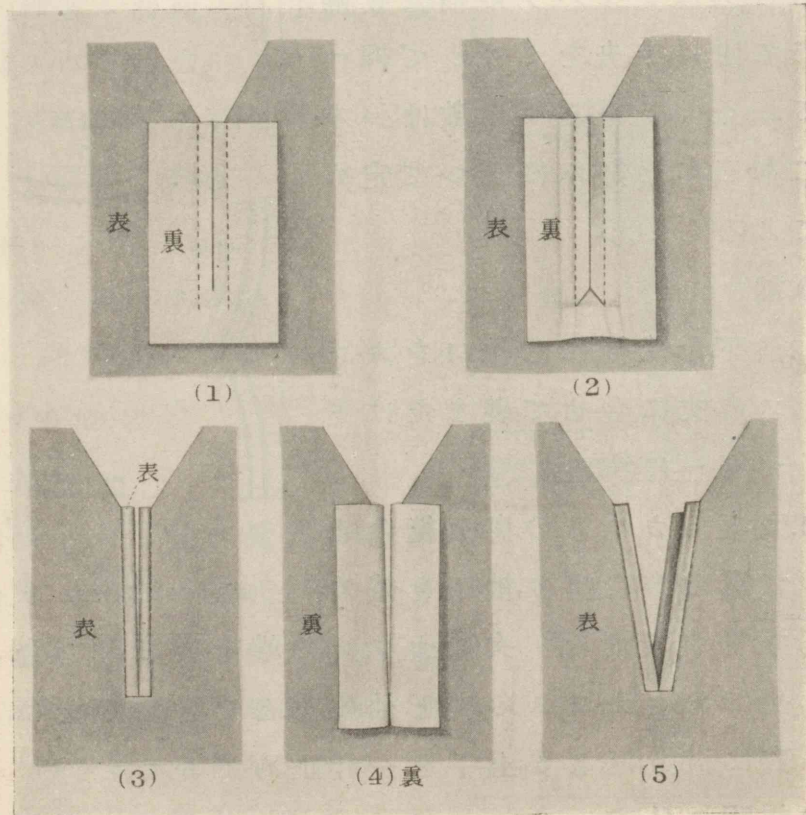
2. 表裏のカフスの奥を縫合せて裏の方に折り、袖下を續けて縫つて割る。次にカフスの端を躰で綴ぢ合せておき、カフスの表と袖の裏とを合せて縫ひ、表に折り返して上下を一針止めておく。

③ 前明の仕末

縁布 幅… 6 cm 丈… 前明 + 2 cm

持出し 幅… 5 cm 丈… 縁布と同糧

1. まづ下圖(1)の如く前明のところに縁布を中表に合せ、0.5 cm の縫込で 12 cm ほど左右を縫ふ。
2. 次に(2)圖の如く端に、切り込を三角に入れて縫目を割り、縁幅を 0.5 cm にして裏に折り返せば

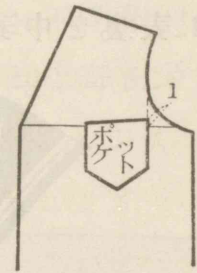


前明の仕末

- (3) 圖の如く切り込のところは毛抜合せになる。
3. 持出しを幅二つに折り、端を折つて重ね、縫目に割ミシンをかける。(5圖)

4. **ポケット附** ポケットの廻りを折つて、左胸に縫附ける。

5. **肩合せ** 前後の肩を縫ひ合せ後に折り、縫代を折り伏せてミシンをかける。また袋縫にしてもよい。



ポケットの位置

6. **脇縫** 脇を袋縫または伏縫にする。
7. **裾** 三つ折にして纏り、或はミシンを掛ける。

注意 上衣の裾にゴムテープを通して、締めることもある。このときは身丈を 4 cm ほど長くする。

8 衿附

1. 表裏を中表に合せ、裏をやや張り目にし、衿附の方を残して三方を縫ひ、表返して廻りに飾ミシンをかける。
2. 身頃の表に衿を躰で綴ち付け、その上に見返しを當てて縫ひ、見返しの端を折つて縫代を包み、身頃に纏り附ける。

9. **袖附** 袖を身頃に合せて假綴をなし、斜布を身頃の方に重ねて袖附をなし、斜布で縫代を包み端

を折つて纏り付ける。

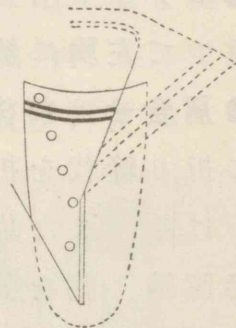
⑩ 胸當

1.表裏を中表に合せ、丸いところを縫ひ合せ、上部



胸當の位置

より引き返して後廻りにミシンをかける。



胸當の付け方

2.肩から $\frac{\text{胸圍}}{10} + 1\text{cm}$ 下げて身頃に當て、左の方を身頃に纏り付け、右の方にはスナップを三・四個付けて止めておく。

⑪ スナップ附 前明に二個のスナップを付ける。

⑫ ネクタイ 幅 10 cm 位の斜布を適當の長さに縫つて結び、左の方は衿の下に綴ぢ付け、右はスナップ止にする。

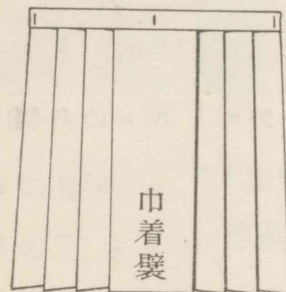
⑬ 仕上げ これまで述べたやうに仕上げをする。



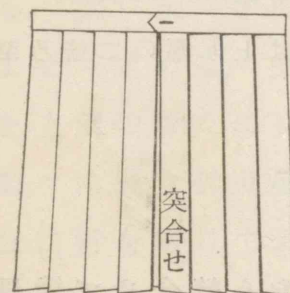
ネクタイの付け方

(二) スカート

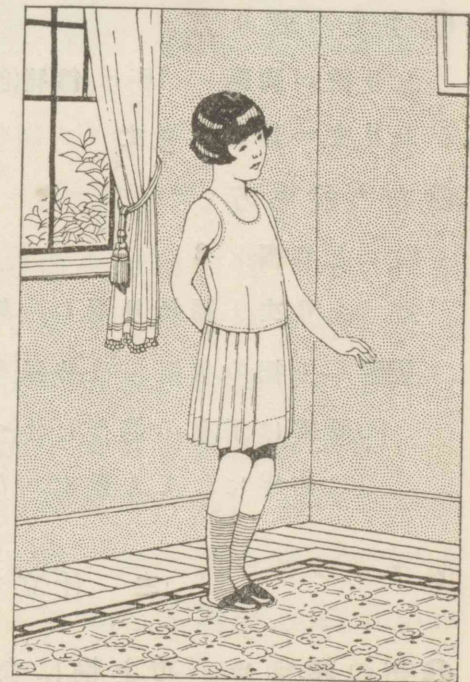
スカートには下圖の如く、上部にバンドを付けてウエストに吊るやうにしたものと、上部をウエストに縫ひ附けたものがある。



仕立て上り (前)



同 (後)



着用圖

— 地質

スカートは上衣と共布を用ひる。またスカートをカラー・カフスと共布にして、身頃は異つた布を用ひることもある。ウエストにはキヤラコ・毛織子(冬)などを用ひる。

二 布の裁ち方

① 寸法の取り方

上り幅 = 胸圍 + 16 cm 餘裕(即ちウエストの身幅)

上り丈 = 着丈 - 脊丈

② 布の裁ち方

幅 上り幅 × 3

丈 上り丈 + 裾折り返し + 縫代

注意 (1) 裾の折返しは、普通 8 cm 乃至 10 cm 取る。

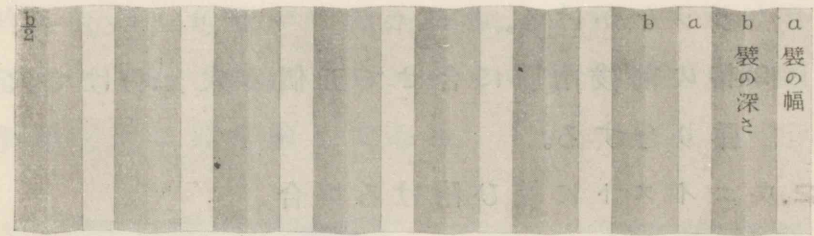
(2) 總幅は用布の都合によつては、上り幅の二倍乃至二倍半にしても差支へない。

三 仕立て方

① 布の縫合せ 布を輪になるやう縫合せて、縫目を割る。この際一ヶ所は上を 10 cm ほど残し裏に折つて纏り附ける。(後明になる)

② 裾 三つ折にして、纏るかまたはミシンをかけ

る。地厚のときは二つに折り千鳥掛にしておく。
③ 襷取り 襷の数は六つ・八つ・十或は細かに取つたのもある。ここには八つについて説明する。



襷の割り出し方

$$\text{襷の幅 } a = \frac{\text{スカート上り幅}}{2} \times \frac{1}{8}$$

$$\text{襷の深さ } b = \left(\frac{\text{布幅}}{2} - \frac{\text{スカート上り幅}}{2} \right) \times \frac{1}{8}$$

この襷の取り方は、前の中央が巾着襷になつて幅は脇の襷の二倍になり、後中心では突き合せになる。まづ後の中心を後明から、襷の深さの $\frac{1}{2}$ 左によせて定める。次に後中央から襷の幅と深さを、上圖のやうに交互に標を附ける。前中央から順々に襷を折り疊んで、躰で抑へてアイロンで充分に折を付けておく。このとき縫目が、襷の中に隠れるやうにする。

④ スカートの上部

1. バンドを付ける場合

(1) 帯布を幅 10 cm, 長さはスカートの上り幅に

重ね代 4cm を加へたもの取る。この帯布をスカートの上部に縫ひ付け、中に芯一枚を入れ、重ね代の分は先を劔形にして廻りにミシンをかける。

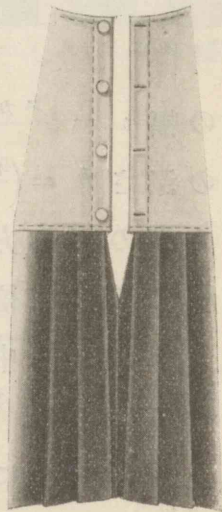
(2) 帯の前後兩脇に合せて五個の穴を明けて穴騰りをする。

2. ウエストに縫ひ付ける場合

(1) ウエストを普通に縫ひ、ウエストの裾口とスカートの上部とを合せ、その上に見返しを重ねて縫ひ、ウエストの方に折を返し、見返しの端を折つてミシンをかける。

(2) 後明に四個の釦を付け穴騰りをする。

⑤ 仕上げ 襷をアイロンでよく壓して仕上げをする。



釦附及び穴騰り

3 ジャンバードレス

この服はシャツブラウスの上に着用するもので、衿も丸型と角型の二種がある。ブラウスだけを夏冬とりかへれば、ドレスはそのまま用ひられ、通學服として最も適してゐる。



丸型衿

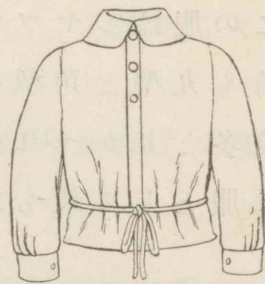
角型衿

ジャンバードレス着用圖

(一) シャツブラウス

一 地 質

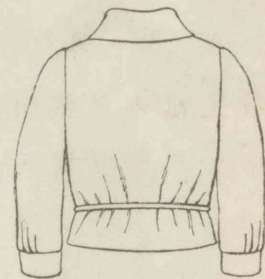
夏 富士絹・蘭紬・クレップ・絹麻・メリンスなど
 冬 セルフランネル・サージ・薄地羅紗など
 色は白・薄色または縞など



前

二 型紙の取り方

①身頃 ウエイストの原型を用ひ、大體水兵服と同様にすればよい。但し前衿明はウエイストの型紙通りにする。丈は脊丈より 5cm - 8cm 長くする。



後
仕立て上り

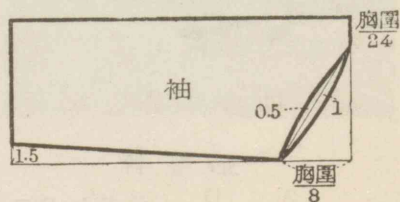
②袖

1.袖丈を手首までにとる。但しカフスの幅だけ短くてよい。

2.袖幅を $\frac{\text{胸圍}}{4}$ に取る。

3.袖附を右圖のやうに取る。

4.袖下で 1.5cm 裁ち落す。この袖は袖下の縫目



袖型紙の取り方

と脇の縫目とを合せる。

③衿 前述 1 普通服の衿と同様にとる。衿の形は丸角いづれでもよい。

三 布の裁ち方

①用布の積り方

幅 76cm

丈 後身丈 × 2 + 前後の差 + 袖丈 + 縫代

②型紙の配置布の裁ち方
 型紙の配置は布幅と型紙幅とによつて布の不経済にならぬやう右圖の如く縫代を附けて裁ち切る。

カフス

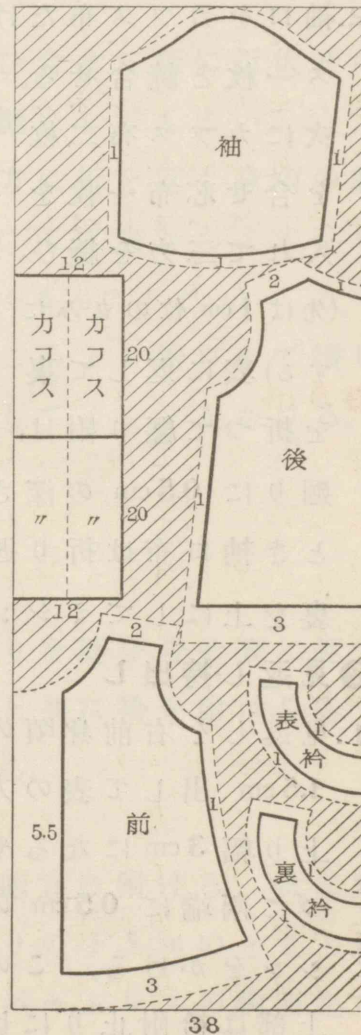
幅…上り幅 × 2 + 縫代

丈…袖口 × 2 + 縫代

四 仕立て方

①袖

1.袖口明を袖下にて 5cm



型紙の配置 (丸型衿)

ほど細く三つ折にする。また共布で細く縁を取つて持出し見返しを付けてもよい。

2. 袖口をカフス布だけに中央で縫ひ縮めて、カフ

ス一枚と縫合せる。

次にカフス布二枚

を合せ芯布一枚を

入れて三方を縫ひ、

(先は1cm位の丸みに

する)表に返して裏

を折つて纏り付け、

廻りに0.5cmの深さにミシンをかける。この

とき袖口布は折り返しになるから、口先半分は

裏を上にしてミシンをかける。

② 見返し・持出し

1. 見返しを右前身頃の中央線より

1.5cm出して表の方に折り返し、

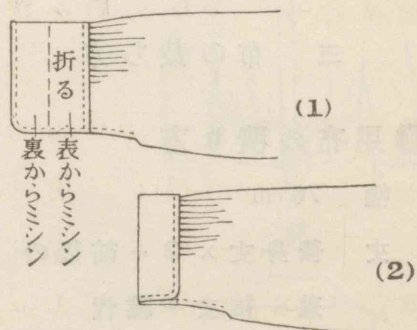
上り幅3cmになるやうに端を折

つて両端に0.5cmの深さに飾ミ

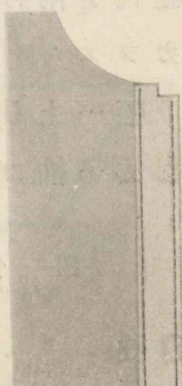
シンをかける。この際見返しの

上部は衿附止りに切込を入れて

それより先は右圖のやうに折り



袖口



見返しの付け方

曲げておく。

2. 下前持出しは幅2cmに裏に折つてミシンをかける。

③ 肩合せ 前後の肩を縫ひ合せて後に折伏せにしてミシンをかける。袋縫にしてもよい。

④ 袖附 袖を付け、身頃の方に折を返し、身頃の縫代を半分裁ち落とし、折伏せにして表からミシンをかける。(また縫代を斜布でくるんでもよい)

⑤ 袖下脇縫 袖口明のところより裾口まで續けて縫ひ、後に折り、折伏せにしてミシンをかける。袋縫にしてもよい。

⑥ 裾 三つ折にして纏る。

⑦ 衿及び衿附

1. 表裏を中表に合せて廻りを縫ひ合せ表に返す。

2. 身頃に合せて、見返し布と共に衿を付け、見返しの端を折つて纏り付ける。

⑧ 釦・スナップ附

1. 前明にスナップ四個を適宜に付ける。次に前見返しの中央で衿附止りの下1cmのところ到一个とそれからジャンパードレスの胸明迄の間に二三個の飾釦を付ける。

2.カフス幅の中央で端から1cm入ったところに飾釦を付け、釦の裏にスナップを付けてしつかりと止めておく。

または穴騰りをして、釦を付けてもよろしい。

⑨テープ附 長さ100cm位のテープを後中央の裾口から、6cm位上ったところにあて、8cmの間上下を身頃に纏つておく。

⑩仕上げ 地質によつて霧を吹き、全體にアイロンをかけて仕上げをする。

(二) ジャンパードレス

一 地質

メリンス・カシミア・セル・サージ・薄地羅紗など色は主に無地ものを用ひるが、ブラウスを無地にして配合のよい格子縞などで、仕立て、も引き立つものである。

二 型紙の取り方

上部はウエスト原型を用ひ、次頁圖のやうに製圖をする。衿刳りは丸角いづれでも好みによつ

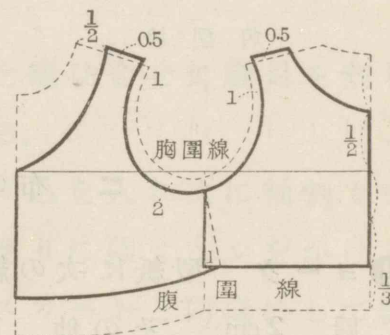
て適當に定める方がよい。

① 衿刳り丸型の場合

- 1.ヨークの丈は腹圍線と胸圍線の間を三等分し、腹圍線より $\frac{1}{3}$ 上に定める。(丈は好みにより定める)
- 2.袖刳りを2cmほど大きくする。



丸型衿



同型紙の取り方

- 3.肩幅を袖附の方で約1cm狭くし、残りの幅の $\frac{1}{2}$ 位に取つて上の方に0.5cm出す。

4.前後の衿明を上圖のやうにして定める。

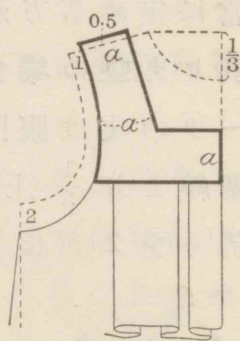
5.前脇を1cm—1.5cm出す。

② 衿刳り角型の場合

- 1.ヨークの丈を胸圍線とし、その $\frac{1}{3}$ を幅 a とする。
- 2.肩幅を袖附の方で約1cm狭くし、その點より a に同じく取る。
- 3.袖刳り前脇は衿刳り丸の場合と同じにする。



角型衿



同型紙の取り方

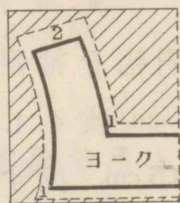
二 布の裁ち方

①ヨーク 型紙に次の縫代を付けて裁つ。

肩 2cm その他 1cm

ヨークには裏を付ける。裏布の色はなるべく表と同色がよい。

②スカート 幅は襞の取り方によつて定める。襞の取り方は前



ヨークの裁ち方



スカート巾着襞の割り出し方

a.....襞の幅 b.....襞の深さ

述のスカートと同様にしてもよく、また幅 3cm 位の片襞或は前後に各巾着襞を三つ取つてもよい。丈は上り丈に、縫代 8cm 内外付けて裁つ。

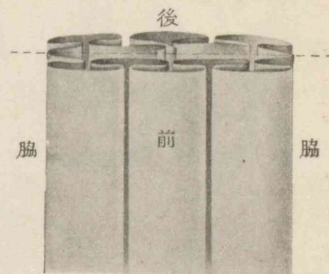
三 仕立て方

①ヨーク

- 1.表裏のヨークの両肩を縫ひ合せて縫目を割る。
- 2.脇を縫ひ縫ひ目を割る。
- 3.衿廻りを縫ひ合せ、切り込を入れ、次に袖廻りを縫ひ合せて表に返し、廻りに飾ミシンをかける

②スカート 水兵服のスカートと同様にして縫ひ、次に襞を折る。また下圖の如く、前後各々三つ位の巾着襞にしてもよい。

③上下の縫ひ合せ ヨークの表とスカートとを縫ひ合せ、ヨークの方に折を返し、ヨークの裏を折つて纏り付け、縫目に抑へミシンをかける。



襞の取り方

④バンド 幅丈を適當に定めて縫ひ 0.8cm 幅にバンド吊りを作り、好みの位置に付けてバンドを

通す。

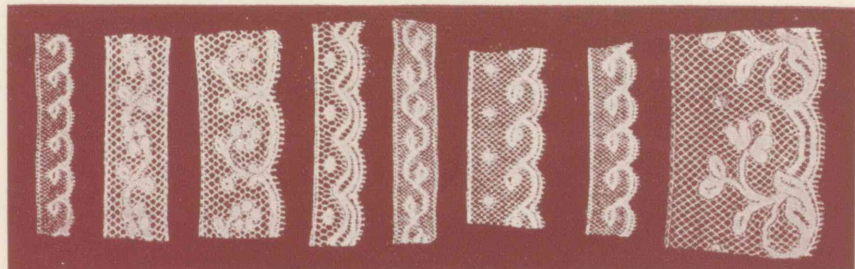
⑤ スナップ附 肩明に各二個のスナップを付けて止める。

⑥ 仕上げ 襷に充分アイロンをかけて仕上げをする。



改現裁(三) 二八—4終

スカート



エプロン

附 録

(一) エプロン その一

エプロンは實用上ばかりでなく、一種の裝飾にもなつて子供の和服・洋服いづれの場合にも用ひられる。しばしば洗濯するものであるから、褪色の憂ひの少ないものを選ぶべきである。飾により種々變つたものが出る。



出来上り

一 地 質

用布 キアラコ・ギンガム・ビツケ・ボイル・ネル

飾 刺繡・レース斜布など。

二 型紙の取り方

胸圍は洋服または着物を着た上から計つた寸法である。

1. 丈 着丈より 4cm 位短く取る。
2. 衿割り・肩幅・袖割りなど多少斟酌してもよろしい。

三 布の裁ち方

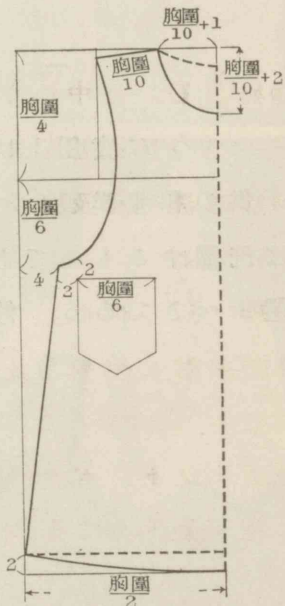
型紙を交ひ違ひに並べ、廻りに次の縫代を加へて裁つ。

裾 3cm 持出し 2cm

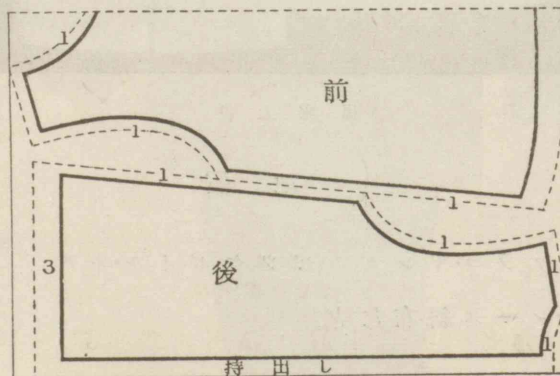
その他 1cm

ポケットは廻りに1cmの縫代を付けて裁つ。

斜布…衿割り・袖割りの長さを要する。



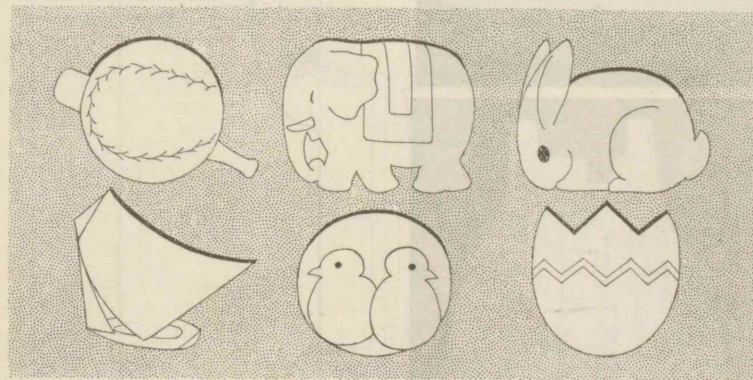
型紙の取り方



布の裁ち方

四 仕立て方

- ① 持出し 後中心より1cm出して裏に折り、端を0.5cm折り、三つ折にしてミシンをかける。左右同様に縫ふ。
- ② 肩・脇縫 肩及び脇を縫ひ合せ、後に折り伏せてミシンをかける。
- ③ 裾 三つ折にしてミシンをかける。
- ④ 斜布附 衿割り及び袖割りに上り幅1cm位に斜布を附ける。
- ⑤ ポケット ポケットの口にレース又は斜布を附け、次に廻りを折つて身頃に縫ひ付け口の両側に門留をする。



ポケット型の各種参考

- ⑥ 飾布附 飾布は各自の好みの形に裁ち、廻りを折つて適當の位置に縫ひ附ける。
- ⑦ 釦附及び穴騰り 上より2cm下つて一個、それより約

10 cm 下つて一個の釦を下前に付け,上前に穴隠りをする。男児は左上,女兒は右上にする。

◎仕上げ 霧を吹き裏からアイロンをかける。

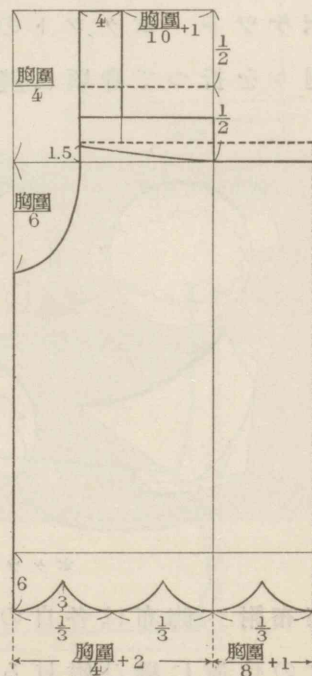
その二

一 型紙の取り方

裾幅は胸圍の約 1.5 倍より 2 倍位まで,布幅によつて加



出来上り

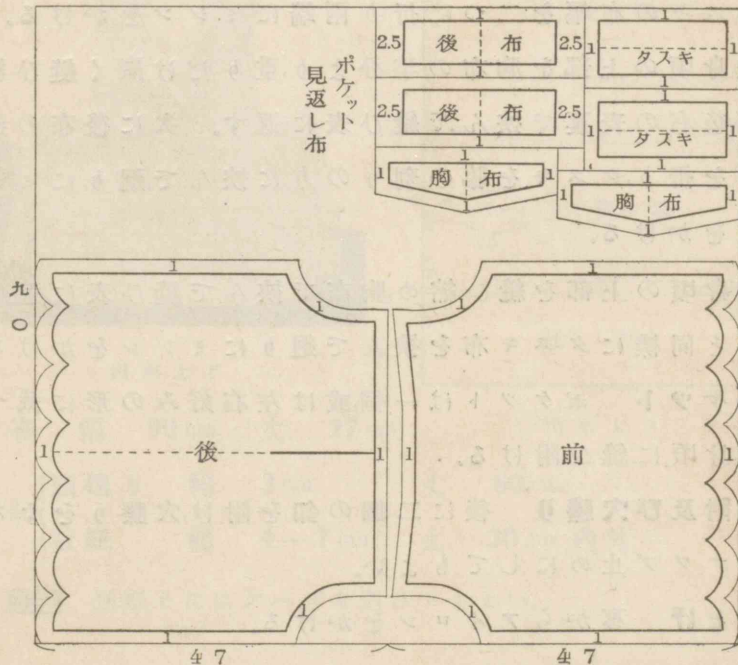


型紙の取り方

減してよい。胸及び裾にはレースを付けてもよい。その場合には,裾の波形は二つか三つにしておく。

二 布の裁ち方

下圖の如く型紙を配置し,廻りに 1 cm の縫代を付けて裁つ。但し後布は持出しの分だけ広くとる。表の胸布は裾布と共布でとつてもよい。



布の裁ち方

三 仕立て方

①後切り込の仕末 後中央を脇の衿りまで切り込を入れて、持出し見返しを付ける。

②脇衿りの仕末 細く三つ折にして、ミシンをかける。或は見返し布を付けてもよい。

③裾 裾布と合せて波形を縫ひ、切り込を入れて表に返し、裾布の上を折つて廻りにミシンをかける。

④タスキ及び前後の布附

1.タスキの布幅を二つに折り両端にミシンをかける。
2.後身頃の上部を胸布の半分より、重りだけ広く縫ひ縮め、後布の表裏で挟んで縫ひ表に返す。次に後布の廻りを折り、タスキを脇の衿りの方に挟んで、廻りにミシンをかける。

3.前身頃の上部を縫ひ縮め、胸布で挟んで縫ひ表に返し、後と同様にタスキ布を挟んで廻りにミシンをかける。

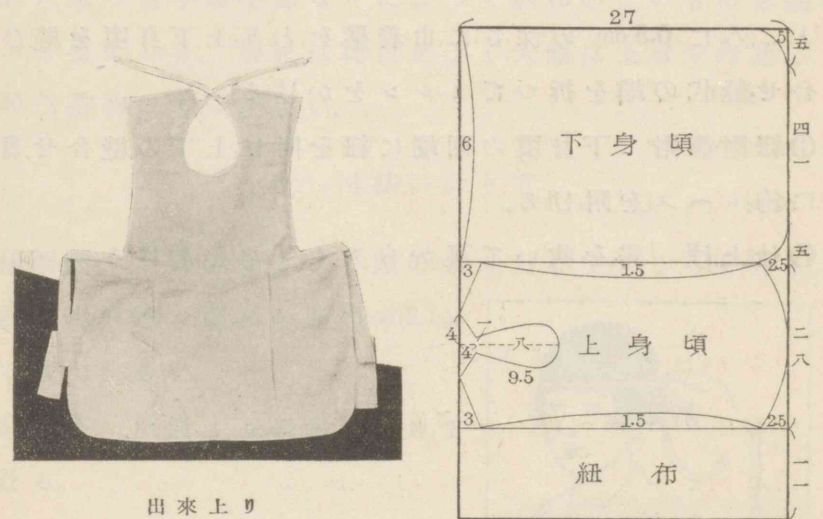
⑤ポケット ポケットは一個、或は左右好みの形に裁つて、身頃に縫ひ付ける。

⑥釦附及び穴騰り 後に二個の釦を付け、穴騰りをする。スナツプ止めにしてもよい。

⑦仕上げ 裏からアイロンをかける。

その三 (二・三歳用)

一 裁ち方



出来上り

出来上り

用布 幅 90 cm 丈 27 cm

紐	{	頸廻り	幅	3 cm	丈	60 cm
		横紐	幅	4-7 cm	丈	30 cm 内外

注意 頸廻りにはテープを用ひてもよい。

二 仕立て方

①下身頃廻り 下身頃の廻りを三つ折としミシンをかける。

② 上身頃兩脇 上身頃兩脇の裏にレースの表を合せて縫ひ、レースを表に折り返し、その端をミシンで抑へる。

③ 肩 細く三つ折としてミシンをかける。

④ 衿割り 衿割りに紐またはテープを付ける。

⑤ 上下身頃縫ひ合せ 下身頃の中央より左右へ7cmのところ、0.5cmの深さに巾着襷をとり、上下身頃を縫ひ合せ縫代の端を折つてミシンをかける。

⑥ 紐附飾附 下身頃の両端に紐を付け、上下の縫合せ目に飾レースを付ける。

⑦ 仕上げ 霧を吹いて裏からアイロンをかける。

(二) 帽 子

帽子は衛生と作法と装飾とを兼ねたもので、その形及び色合が服装と調和すると、非常に引き立つものである。故に服の色・年齢・季節などによつて調和のよいものを選ぶ必要がある。嬰兒は純白がよく、大體は上着や外套と同色系統のものがよい。

一 寸法の計り方

① 頭圍 下圖の如くして頭の最も大きなところを計る。

② 頭の直徑 頭圍を圓周率(3.15)で割つたもの。

③ 深さ 前頭より後頭にかけて計る。



頭圍りの計り方

二 標準寸法

① 一歳の頭圍は約40cm内外

② 二歳より五歳位までは一歳毎に約0.4cm増す。

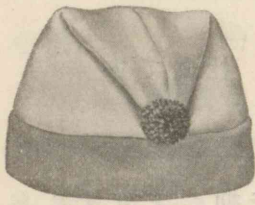
③ 五歳以上は約0.5cmを増す。

その一 嬰兒帽子

一 地 質

その二 子供帽子(五・六歳用)

一 地質

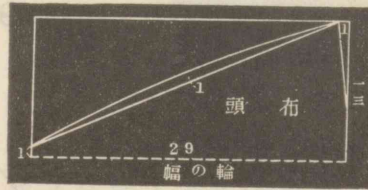


出来上り

- ①表 ポブリン・ビツケ・メリンス・天鷲絨・サージ・羅紗など
- ②裏 寒冷紗・ネル・毛織子など
- ③飾 リボン・打紐・リリアン・テープなど

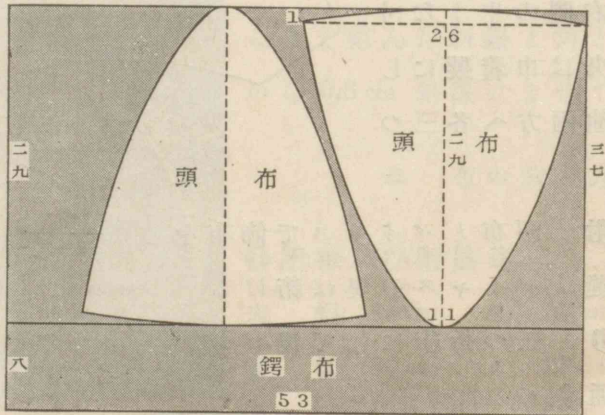
二 型紙の取り方

右圖のやうにして型紙を製圖する。



型紙の取り方

三 布の裁ち方



布の裁ち方

①用布

- 1. 頭布 幅 53 cm 丈 29 cm (表裏各一枚)
- 2. 鍔 幅 8 cm 丈 53 cm (表裏各一枚)

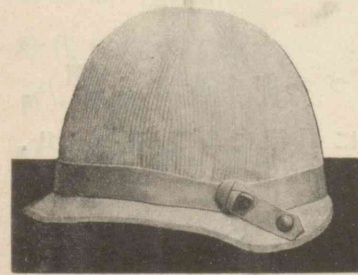
②布の裁ち方

- 1. 表 前頁圖のやうにして裁つ。
- 2. 裏 頭布二枚を表のやうにして裁つ。

四 仕立て方

- ①頭布 表裏各頭布の兩側を縫ひ、表裏の縫目を割つて綴ち合せる。
- ②鍔 鍔布を輪に接ぎ、幅を二つ折として中に芯を入れて頭布の裏側に縫ひ付け、表で纏り付けて表に折り返す。
- ③裝飾 頭布の頂を一方に折り曲げて、裝飾をなし仕上げる。

その三 六つ接帽子



出来上り

この帽子は男女兒共に用ひられ、殊に夏季は洗濯が出来易くて便利である。

また頭布は四枚・六枚・八枚など好みによつて布數を定めてもよく、或は交互に異なつた色地

質のものを用ひてもよろしい。
 鍔は前後同じ幅にしたもの、前後の差を附けたもの、或は折り返しにしたものなど各種ある。



着用圖

一 地 質

①夏 ビツケ・ポプリン・サージ

②冬

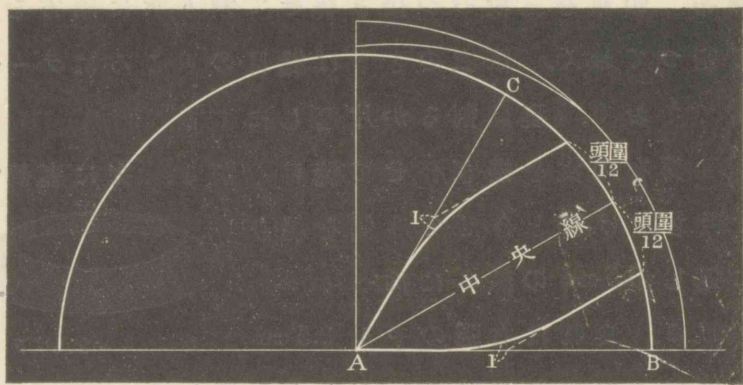
1. 表 サージ・薄地羅紗など

2. 裏 毛織子など

二 型紙の取り方

① 頭布

1. 横に直線を引き、中央から垂直線を出す。
2. 頭圍の直径 ($\frac{\text{頭圍}}{\text{圓周率}}$) を以て、Aを中心として弧を描く。
3. Bから、ABの長さで弧を切つてC點を取りAと結ぶ。
4. BCの中央とAを結ぶ。(中央線)
5. 弧のところで中央線から $\frac{\text{頭圍}}{12}$ づつ(即ち合せて $\frac{\text{頭圍}}{6}$) に取る。この點から各々中央線に平行に線を引きAB, ACの線に交らせる。
6. この交つたところで1cm内側に取り、自然に削る。(頭布を淺くするときには直径の $\frac{1}{20}$ 位落す)

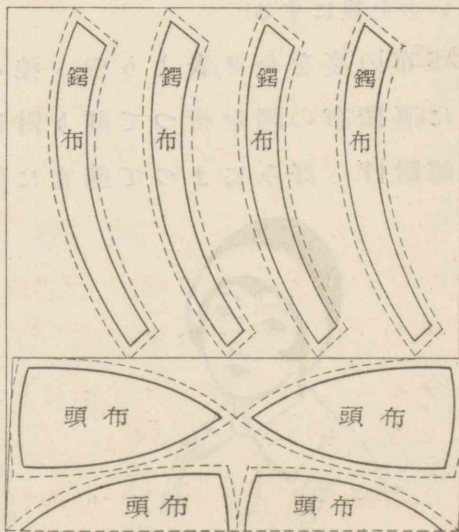


型紙の取り方

② 鍔 初めの圓に添うて鍔幅を定め、Aを中心として上圖の如く $\frac{1}{4}$ 圓を描く。次にA線上では0.5cmとし $\frac{1}{4}$ 圓の $\frac{1}{3}$ 位の間で圖の如く削る。(これは鍔の $\frac{1}{2}$ の型紙である。)

三 布の裁ち方

- ① 頭布 周圍に1cmの縫代を附けて六枚裁つ。
- ② 鍔布 周圍に1cmの縫代を附けて裁つ。裏も表布で取る。
- ③ 芯布 鍔の型通り。

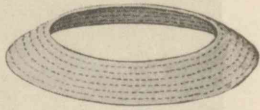


布の裁ち方

四 仕立て方

①頭布 頭布を三枚ずつ接ぎ合せて割り、次に両方を合せて割つておく。単衣のときは縫目のところにテープを當てておく。裏は割るか片返しにする。

②鍔 鍔布の丈を接ぎ合せて縫目を割る。次に裏鍔に芯を綴ち付け、表と合せて外側を縫ひ表に返し 0.5 cm の深さに抑へミシンをかける。夏物は右圖のやう 0.5 cm 鍔にミシンをかけるおき位にミシンをかけておくと丈夫である。



鍔にミシンをかける

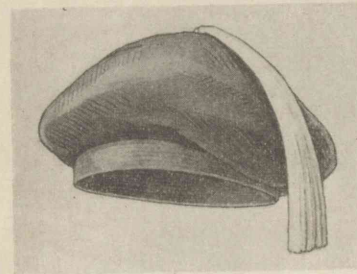
③頭布と鍔との縫ひ合せ

1. 頭布の表と鍔とを縫ひ合せ、鍔の縫代に切り込を入れて頭布の方に折り返し、抑へミシンをかける。(鍔幅の狭い方を後にする)
2. 頭布の裏を合せ、表よりやゝ弛み加減にして鍔の縫目に裏頭布の端を折つて纏り付ける。
- ④飾付け 好みによつて適宜に飾を付け、仕上げをする。



参 考

その四 大黒帽子



出来上り



着用圖

一 地 質

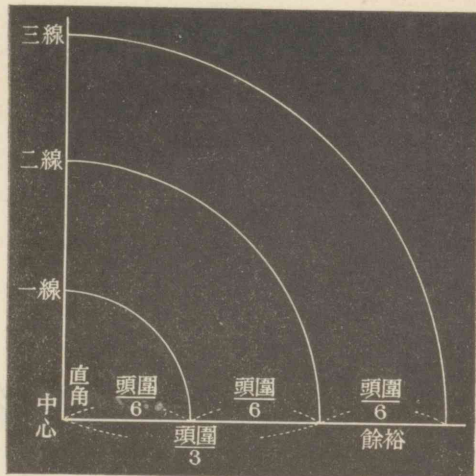
- ①表 天鷲絨・サージ・ヘル・ガバデイン・薄地羅紗など
- ②裏 毛縹子・ネル・絹など
- ③刺繡及び房 同色または配合よき色の絹絲を用ふ。

二 型紙の取り方

- ①直角線を引く。
- ②角を中心とし $\frac{\text{頭圍}}{6}$ を半径として弧を描く。(一線これは頭の入る線である。)
- ③同じ中心で $\frac{\text{頭圍}}{3}$ を半径として弧を描く。(二線これは頭を包む大きさの線である。)
- ④次に二線から餘裕を $\frac{\text{頭圍}}{6}$ に定め、同じ中心でその點ま

でを半径として弧を描く。(三線)

縦の線を折つて輪となし、二枚重ねたまま横の線及び三線の弧を切るときは半圓形の型紙となる。



三 布の裁ち方

① 頭布 布の幅を二

型紙の取り方

つに折り、型紙の直線(直径の線)を折目において裁つ。表裏同じである。

② 縁布 幅…4cm 丈…頭圍+接ぎ代

残り布で斜に裁つ。(丈不足のときは接いでよい)

四 仕立て方

① 飾 表布の中心に刺繡をする。

② 頭布 表裏の布を外表にして重ね、縁で周囲を綴ち合せておき、二度周囲を縫つて頭圍の寸法に縮めておく。

③ 縁布 縁布を表に合せ1cmの縫代で縫ひ付け縁の上り幅1cmにして幅を折り、裏の縫目に纏り付ける。

④ 飾 房または玉を中心に綴ち付ける。

大正十四年二月十六日印 刷 大正十四年二月十九日發行
 大正十四年九月十五日訂正再版印刷 大正十四年九月十八日訂正再版發行
 昭和二年十二月二十日修正三版印刷 昭和二年十二月廿三日修正三版發行
 昭和四年一月廿四日訂正四版印刷 昭和四年一月廿七日訂正四版發行
 昭和六年九月十六日修正五版印刷 昭和六年九月二十日修正五版發行

昭和七年一月十六日 訂正六版印刷

昭和七年一月二十日 訂正六版發行

裁縫教科書 卷三 定價金七拾錢



著 作 者

吉 村 千 鶴

東京市小石川區小日向水道町八十四番地

發 行 者

株式 東京開成館
會社

代表者 松 本 繁 吉

印 刷 者

東京市神田區神保町三丁目十七番地

出 雲 寶 太 郎

發 行 所

東京市小石川區 株式 東京開成館
小日向水道町 會社

(振替貯金口座東京五三二二)

販 賣 所

東京市日本橋區吳服橋二丁目五番地

林 平 書 店

販 賣 所

大阪市東區北久寶寺町心齋橋筋角

三 木 佐 助

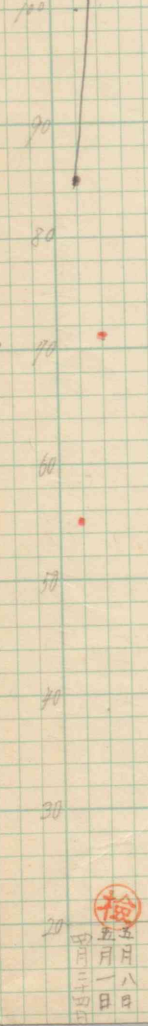
師範

第三學年

西本雪枝

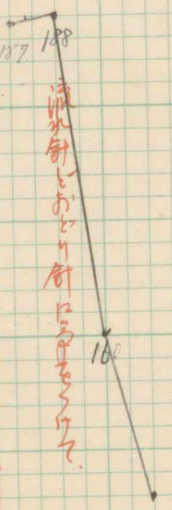


注意
 表の針目
 110
 100
 90
 80
 70
 60
 50
 40
 30
 20



検
 五月八日
 五月一日

200
 190
 180
 170
 160
 150
 140
 130
 120
 110
 100



検 検 検 検
 三分間運進 五月八日
 三分間運進 五月一日
 三分間運進 五月一日

五月八日

三分向運進

一八七m

三原女子師範学校 第三学年
西本雪枝